

■付表－１．１ 構造形式一覧

(１) 上部構造

①鋼橋(ボルト又は溶接継手)

構造形式C	構造形式
121	I桁(非合成)
122	I桁(合成)
123	I桁(鋼床版)
124	I桁(不明)
125	H形鋼(非合成)
126	H形鋼(合成)
128	H形鋼(不明)
130	鋼桁橋(その他)
131	箱桁(非合成)
132	箱桁(合成)
133	箱桁(鋼床版)
134	箱桁(不明)
140	トラス橋
150	アーチ橋(その他)
151	タイドアーチ(アーチ橋)
152	ランガー(アーチ橋)
153	ローゼ(アーチ橋)
155	ニールセン(アーチ橋)
156	アーチ橋
160	ラーメン橋
172	箱桁(斜張橋)
199	その他(鋼溶接橋)

②鋼橋(リベット継手)

構造形式C	構造形式
221	I桁(非合成)
222	I桁(合成)
223	I桁(鋼床版)
224	I桁(不明)
225	H形鋼(非合成)
226	H形鋼(合成)
228	H形鋼(不明)
230	鋼桁橋(その他)
231	箱桁(非合成)
232	箱桁(合成)
233	箱桁(鋼床版)
234	箱桁(不明)
240	トラス橋
250	アーチ橋(その他)
251	タイドアーチ(アーチ橋)
252	ランガー(アーチ橋)
253	ローゼ(アーチ橋)
255	ニールセン(アーチ橋)
256	アーチ橋
260	ラーメン橋
—	—
299	その他(鋼(鉄)リベット橋)

③RC橋

構造形式C	構造形式
310	RC床版橋(その他)
311	RC 中実床版
312	RC 中空床版
—	—
321	RC T桁
—	—
—	—
—	—
—	—
—	—
330	RC桁橋(その他)
331	RC 箱桁
—	—
—	—
—	—
335	RC溝橋(BOXカルバート) ※336以外の溝橋
336	RC溝橋(BOXカルバート) ※活荷重による影響が小さい小規模な剛性ボックス構造で、第三者被害の恐れがないもの
350	アーチ橋(その他)
356	アーチ橋
360	ラーメン橋
—	—
—	—
—	—
—	—
—	—
399	その他(RC橋)

④PC橋

構造形式C	構造形式
410	PC床版橋(その他)
411	プレテン床版
412	プレテン中空床版
413	ボステン中空床版
421	プレテンT桁
421	プレテンT桁
422	プレテンT桁(合成)
423	ボス TENT 桁
424	ボス TENT 桁(合成)
430	PC桁橋(その他)
431	プレテン箱桁
432	プレテン箱桁(合成)
433	ボス テン 箱桁
434	ボス テン 箱桁(合成)
435	PC溝橋(BOXカルバート) ※436以外の溝橋
436	PC溝橋(BOXカルバート) ※活荷重による影響が小さい小規模な剛性ボックス構造で、第三者被害の恐れがないもの
450	アーチ橋(その他)
456	アーチ橋
460	ラーメン橋
471	I桁(斜張橋)
472	箱桁(斜張橋)
481	波形鋼板ウェブ橋
482	鋼管トラスウェブ橋
—	—
499	その他(PC橋)

⑤SRC橋

構造形式C	構造形式
556	アーチ橋
599	その他(SRC橋)

⑥石橋

構造形式C	構造形式
650	アーチ橋(その他)
656	アーチ橋
699	その他(石橋)

⑧H形鋼橋(継手なし)

構造形式C	構造形式
825	H形鋼(非合成)
826	H形鋼(合成)
828	H形鋼(不明)
830	鋼桁橋(その他)

⑨その他

構造形式C	構造形式
960	ラーメン橋
972	箱桁(斜張橋)
999	その他

(2) 床版形式

床版 種類 使用 形式 C	床版種類使用形式	床版種類使用形式その他
11	一体型(場所打主桁+場所打床版)	
21	上乗せ型(プレキャスト主桁+場所打床版)	
31	間詰め型(プレキャスト主桁+場所打床版)	
41	一体型(プレキャスト主桁+プレキャスト床版)	
42	現場接合(プレキャスト主桁+プレキャスト床版)	
51	場所打床版(RC)	
52	場所打床版(PC)	
53	場所打床版(不明)	
61	プレキャスト床版(PC)	
62	プレキャスト床版(RC)	
61	プレキャスト床版(不明)	
71	鋼床版	
81	合成床版	
91	鋼コンクリート合成床版	
99	その他	
99	その他	I 型鋼格子床版
99	その他	デッキプレート床版
99	その他	デッキプレート併用RC床版
99	その他	PC現場打ち
99	その他	プレキャストPCパネル+場所打ちRC床版のPC合成床版
99	その他	ボックスカルバート
99	その他	現場打ちボックスカルバート
99	その他	鋼埋殺し型枠併用RC床版
99	その他	波型鋼板
99	その他	アルミ床版
99	その他	スラブプレート
99	その他	石
99	その他	床版なし

(3) 下部構造

橋台橋脚構造形式 C	橋台橋脚構造形式	橋台橋脚構造形式その他
11	重力式橋台	
12	半重力式橋台	
13	逆T式橋台	
14	控え壁式橋台	
15	ラーメン橋台	
16	中抜き橋台	
17	盛りこぼし橋台	
18	小橋台	
19	その他(橋台)	
19	その他(橋台)	L型橋台
19	その他(橋台)	T型橋台
19	その他(橋台)	U型橋台
19	その他(橋台)	アーチアバット
19	その他(橋台)	インテグラルアバット
19	その他(橋台)	バイルベント橋台
19	その他(橋台)	ブラケット取付
19	その他(橋台)	ブラケット張出
19	その他(橋台)	ボックスカルバート
19	その他(橋台)	ボックスカルバート側壁
19	その他(橋台)	もたれ壁
19	その他(橋台)	深礎杭橋台
19	その他(橋台)	石積み橋台
19	その他(橋台)	柱式橋台(ピアアバット)
19	その他(橋台)	箱式橋台
19	その他(橋台)	本橋からの張出
19	その他(橋台)	本線橋台からの張出
19	その他(橋台)	本線一体型
19	その他(橋台)	不明
21	橋台部ジョイントレス構造	

注: 橋台橋脚構造形式その他は、代表的な例である。
個別に適切に設定すること。

(4) 基礎形式

基礎形式 C	基礎形式	基礎形式その他
0	直接基礎	
1	オープンケーソン	
1	鋼管ソイルセメント杭	
1	プレボーリング杭	
2	ニューマチックケーソン	
3	鋼管矢板	
4	場所打ぐい	
4	深礎(柱状体深礎基礎、組杭深礎基礎)	
5	既製鋼ぐい	
6	既製RCぐい	
7	既製PCぐい	
8	木ぐい	
9	その他	
9	その他	PCウエル
9	その他	PHC
9	その他	SC杭+PHC杭
9	その他	軽量鋼矢板
9	その他	杭頭部: SC杭
9	その他	地中連続壁
9	その他	不明

注: 基礎形式その他は、代表的な例である。
個別に適切に設定すること。

橋台橋脚構造形式 C	橋台橋脚構造形式	橋台橋脚構造形式その他
21	壁式橋脚(RC)	
22	壁式橋脚(SRC)	
23	壁式橋脚(鋼製)	
31	柱橋脚(RC)	
32	柱橋脚(SRC)	
33	柱橋脚(鋼製)	
34	柱橋脚1柱円(RC)	
35	柱橋脚1柱円(SRC)	
36	柱橋脚1柱円(鋼製)	
37	柱橋脚1柱小判(RC)	
38	柱橋脚1柱小判(SRC)	
39	柱橋脚1柱小判(鋼製)	
41	ラーメン橋脚(RC)	
42	ラーメン橋脚(SRC)	
43	ラーメン橋脚(鋼製)	
44	柱橋脚1柱角(RC)	
45	柱橋脚1柱角(SRC)	
46	柱橋脚1柱角(鋼製)	
47	T型橋脚柱角型(RC)	
48	T型橋脚柱角型(SRC)	
49	T型橋脚柱角型(鋼製)	
51	二層ラーメン橋脚(RC)	
53	二層ラーメン橋脚(鋼製)	
61	T型橋脚(RC)	
62	T型橋脚(SRC)	
63	T型橋脚(鋼製)	
64	T型橋脚柱円型(RC)	
65	T型橋脚柱円型(SRC)	
66	T型橋脚柱円型(鋼製)	
67	T型橋脚柱小判型(RC)	
68	T型橋脚柱小判型(SRC)	
69	T型橋脚柱小判型(鋼製)	
71	I型橋脚(RC)	
73	I型橋脚(鋼製)	
81	バイルベント橋脚(RC)	
82	バイルベント橋脚(SRC)	
83	バイルベント橋脚(鋼製)	
84	柱橋脚2柱角(RC)	
85	柱橋脚2柱角(SRC)	
86	柱橋脚2柱角(鋼製)	
87	柱橋脚2柱円(RC)	
88	柱橋脚2柱円(SRC)	
89	柱橋脚2柱円(鋼製)	
91	柱橋脚2柱小判(RC)	
92	柱橋脚2柱小判(SRC)	
98	アーチ拱拾	
99	その他(橋脚)	
99	その他(橋脚)	H形鋼梁
99	その他(橋脚)	ゲルバーヒンジ部
99	その他(橋脚)	ヒンジ
99	その他(橋脚)	ブラケット式橋台
99	その他(橋脚)	ブラケット取付
99	その他(橋脚)	ブラケット張出
99	その他(橋脚)	ボックスカルバート隔壁
99	その他(橋脚)	ラーメン橋脚(PC)
99	その他(橋脚)	ロッキング橋脚(鋼製)
99	その他(橋脚)	掛け違い橋脚
99	その他(橋脚)	形鋼による本線部橋脚添架
99	その他(橋脚)	鋼管ウエル式橋脚
99	その他(橋脚)	鋼製
99	その他(橋脚)	中空橋脚
99	その他(橋脚)	方杖ラーメン
99	その他(橋脚)	本橋からの張出
99	その他(橋脚)	本線一体型
99	その他(橋脚)	本線橋に含む
99	その他(橋脚)	本線橋下部工からの張出し
99	その他(橋脚)	本線橋張出梁
99	その他(橋脚)	枕梁式橋台
99	その他(橋脚)	拱拾橋脚
99	その他(橋脚)	不明

注: 橋台橋脚構造形式その他は、代表的な例である。
個別に適切に設定すること。

■付表—1. 2 各部材の名称と記号

工種		構造形式		材料		部材種別	
主桁・床版・主構・斜材等	S	鈑桁橋	Gs	鋼	S	主桁	Mg main girder
		箱桁橋	Bs	コンクリート	C	横桁	Cr cross beam
		トラス橋	Ts	その他	X	縦桁	St stringer
		アーチ橋	As			床版	Ds deck, slab, deck slab
		斜張橋	Cs			対傾構	Cf cross frame
	その他	Xs			横構	Lu upper lateral	
					下横構	Li lower lateral	
	主構トラス	上・下弦材	Bt	boom			
		斜材・垂直材	Dt	diagonal member			
		橋門構	Pt	portal bracing			
	アーチ	アーチリブ	Ar	arch rib			
		補剛桁	Sa	stiffening girder			
		吊り材	Ha	hanger			
		支柱	Ca	column			
	ラーメン	橋門構	Pa	portal bracing			
		主構(桁)	Rg	rigid frame			
		主構(脚)	Rp	rigid pier			
	斜張橋	斜材	Sc	stay cable			
		塔柱	Ts	tower shaft			
		塔部水平材	Th	tower horizontal member			
		塔部斜材	Td	tower diagonal member			
外ケーブル	Co	outer cable, external cable					
ゲルバー部	Gb	gerber					
PC定着部	Cn	anchorage of PC tendon					
格点	Pp	panel point					
コンクリート埋込部	Em	embedded member in concrete					
その他	Sx						

工種		構造形式		材料		部材種別		
橋脚・橋台・基礎等	橋脚	P	独立柱	Cp	鋼	S	柱部・壁部	Pw wall
			T型・Y型	Tp	コンクリート	C	梁部	Pb beam
			壁式	Wp	その他	X	隅角部・接合部	Pc cross
			門型・ラーメン	Rp			その他	Px
			その他	Xp				

工種		構造形式		材料		部材種別		
橋脚・橋台・基礎等	橋台	A	橋台	Aa	鋼	S	胸壁	Ap parapet wall
			その他	Xa	コンクリート	C	堅壁	Ac
					その他	X	翼壁	Aw wing wall
							その他	Ax

工種		構造形式		材料		部材種別		
橋脚・橋台・基礎等	基礎	F	基礎	Ff	鋼	S	フーチング	Ff footing
			その他	Xf	コンクリート	C	その他	Fx
					その他	X		

工種		構造形式		材料		部材種別	
支承部	B	支承	Be	鋼	S	支承本体	Bh shoe, bearing
		その他	Xe	コンクリート	C	アンカーボルト	Ba anchor bolt
				その他	X	沓座モルタル	Bm mortar
						台座コンクリート	Bc concrete
						その他	Bx

工種		構造形式		材料		部材種別	
落橋防止システム	E	落橋防止構造	Bs	鋼	S	落橋防止構造	Ss structure for falling prevention of bridge
		横変位拘束構造	Bd	コンクリート	C	横変位拘束構造	Sd
				その他	X	その他	Bx

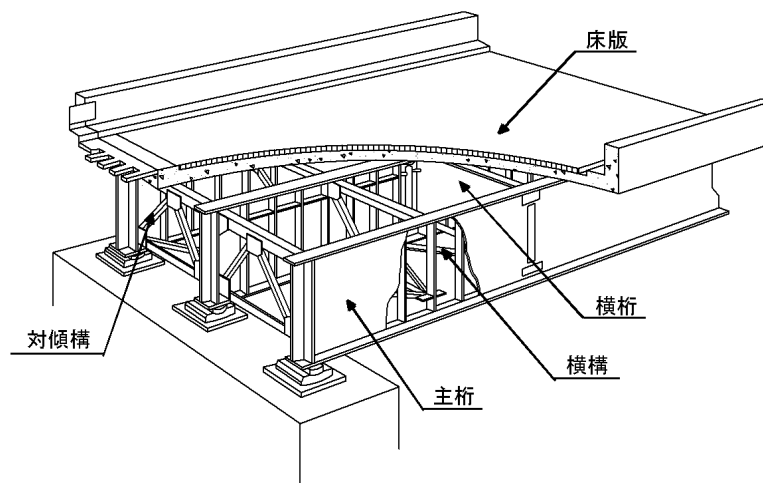
工種		構造形式		材料		部材種別	
路上	R	高欄	R	鋼	S	高欄	Ra railing
				コンクリート	C		
				その他	X		
工種		構造形式		材料		部材種別	
路上	R	防護柵	G	鋼	S	防護柵	Gf guard fence
				コンクリート	C		
				その他	X		
工種		構造形式		材料		部材種別	
路上	R	地覆	F	鋼	S	地覆	Fg felloe guard
				コンクリート	C		
				その他	X		
工種		構造形式		材料		部材種別	
路上	R	中央分離帯	M	鋼	S	中央分離帯	Me median
				コンクリート	C		
				その他	X		
工種		構造形式		材料		部材種別	
路上	R	伸縮装置	E	鋼	S	伸縮装置	Ej expansion joint
				ゴム	R		
				その他	X		
工種		構造形式		材料		部材種別	
路上	R	遮音施設	S	鋼	S	遮音施設	Si sound insulation
				その他	X		
工種		構造形式		材料		部材種別	
路上	R	縁石	C	鋼	S	縁石	Cu curb
				コンクリート	C		
				その他	X		
工種		構造形式		材料		部材種別	
路上	R	舗装	P	アスファルト	A	舗装	Pm pavement
				コンクリート	C		
				その他	X		
工種		構造形式		材料		部材種別	
排水施設	D	排水施設	D	鋼	S	排水ます	Dr drain
				塩ビ	V	排水管	Dp drainpipe
				その他	X	その他	Dx
工種		構造形式		材料		部材種別	
点検施設	I	点検施設	I	鋼	S	点検施設	Ip inspection path
				その他	X		
工種		構造形式		材料		部材種別	
添架物	U	添架物	U	鋼	S	添架物	Ut utilities
				塩ビ	V		
				その他	X		
工種		構造形式		材料		部材種別	
袖擁壁	W	袖擁壁	W	コンクリート	C	袖擁壁	Ww wing wall
				その他	X		

工種		構造形式		材料		部材種別	
溝橋	C	ボックスカルバート	Bc	鋼	S	頂版	Ct Top slab
			Xs	コンクリート	C	側壁	Sw Side wall
		その他		アスファルト	A	底板	Cb Bottom slab
				その他	X	隔壁	Iw Intermediate wall
						断面方向連結部(プレキャスト)	Jo Joint
						縦断方向連結部(プレキャスト)	Lj Longitudinal joint section
						目地部	Eg Edge joint
						翼壁	Aw Wing wall
						周辺地盤	Sg Surrowing ground
						路上	Rd Road
						その他	Cx

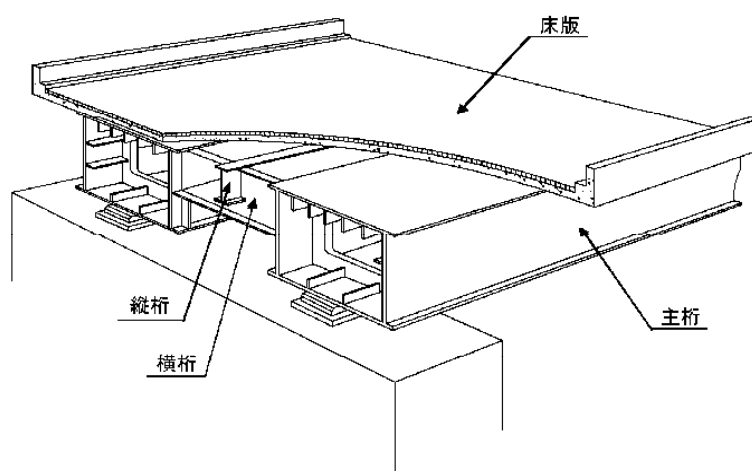
■付図－１． １ 部材の名称

・上部構造

鋼鈑桁

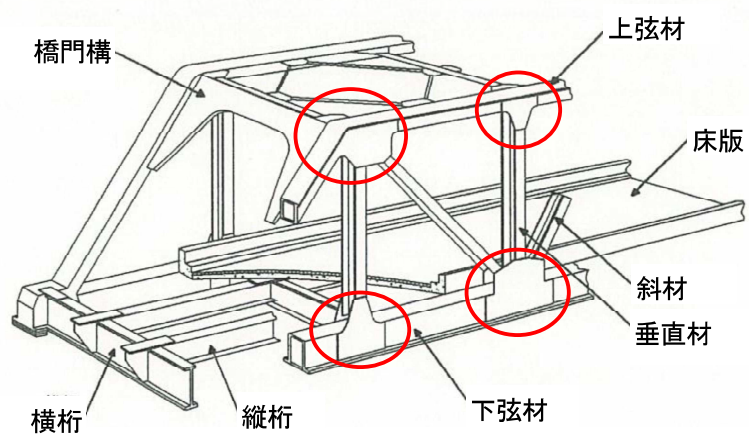
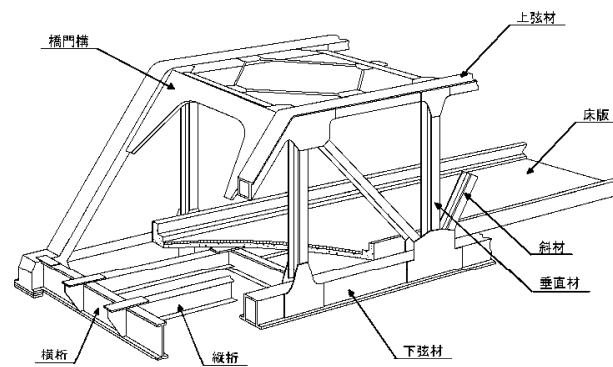


鋼箱桁

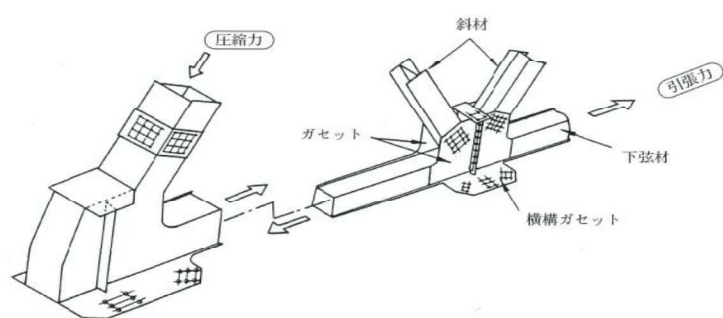


付図－１． １ 部材の名称（その１）

トラス



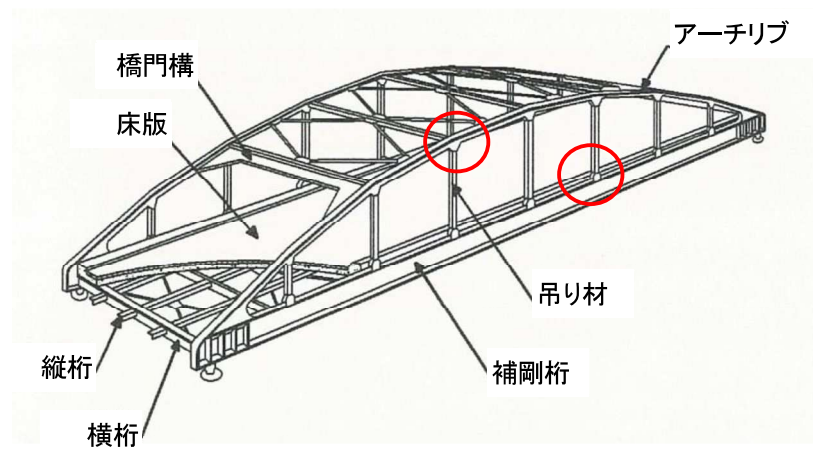
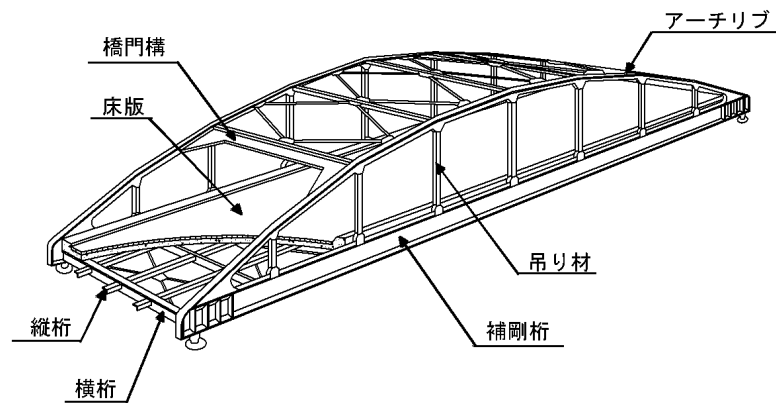
トラス橋の格点部



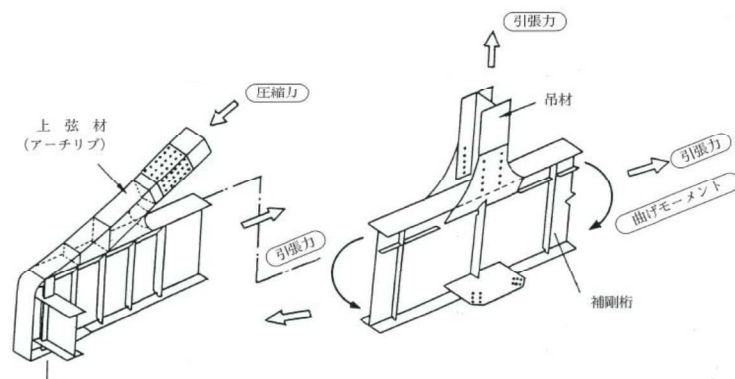
格点部の詳細

付図－1. 1 部材の名称（その2）

アーチ（下路式）



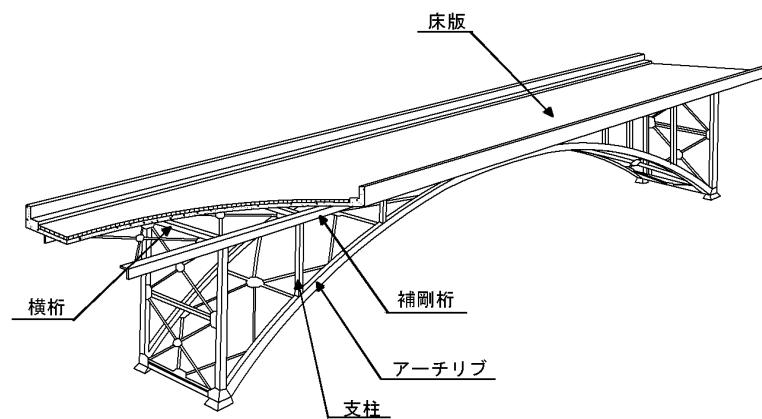
アーチ橋の格点部



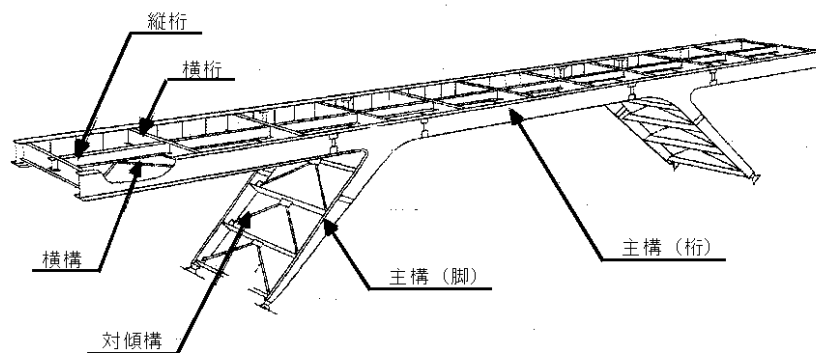
格点部の詳細

付図－１．１ 部材の名称（その３）

アーチ（上路式）

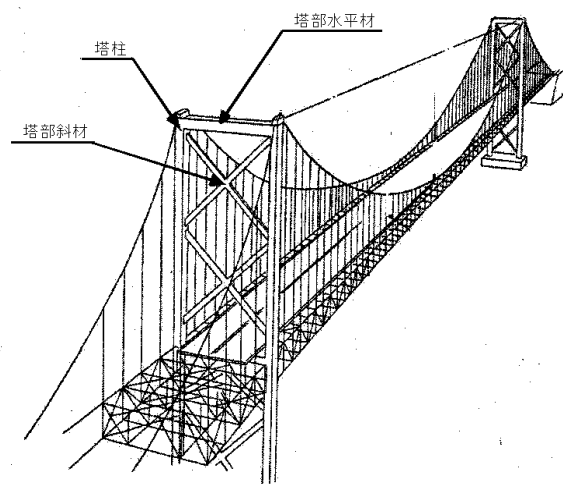
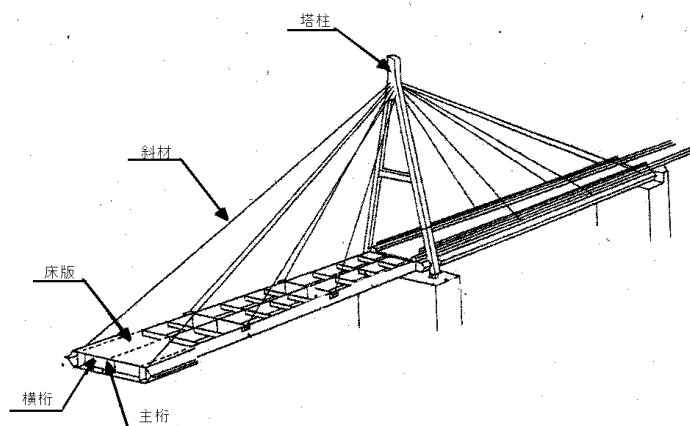


ラーメン

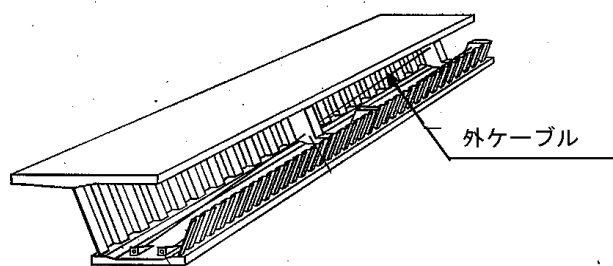


付図－１．１ 部材の名称（その４）

斜張橋・吊り橋

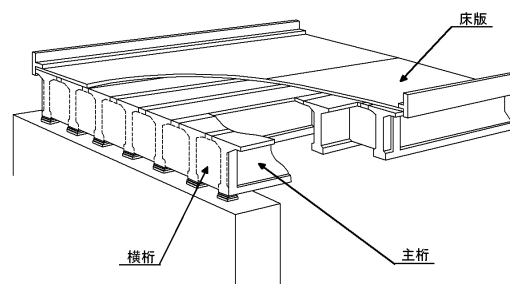


外ケーブル

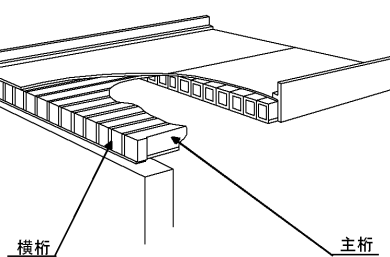


付図－1. 1 部材の名称（その5）

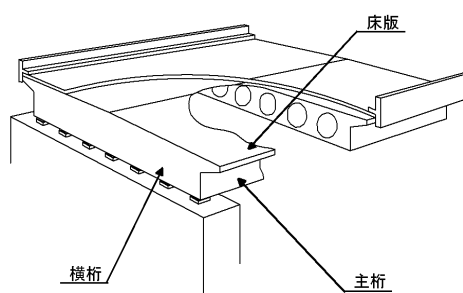
PCT桁, RCT桁



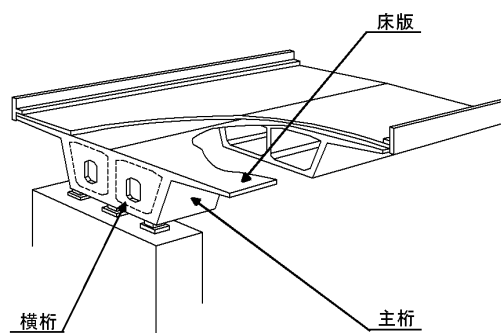
PCプレテン中空床版



PCポステン中空床版

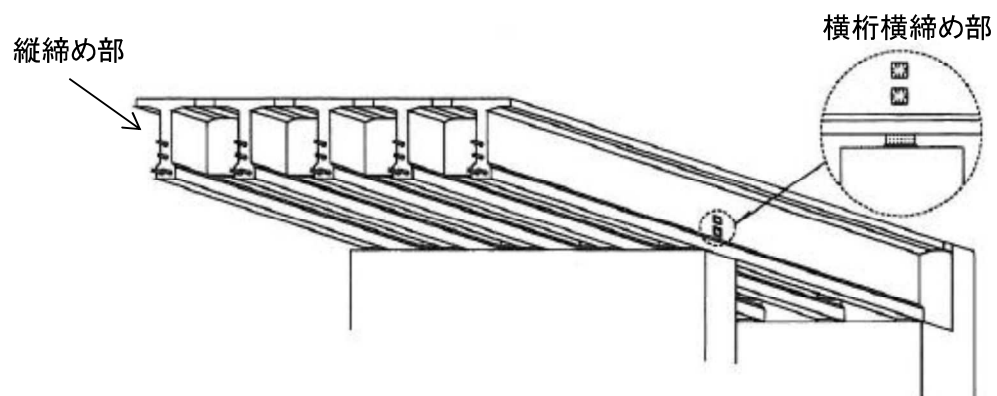


PC箱桁, RC箱桁

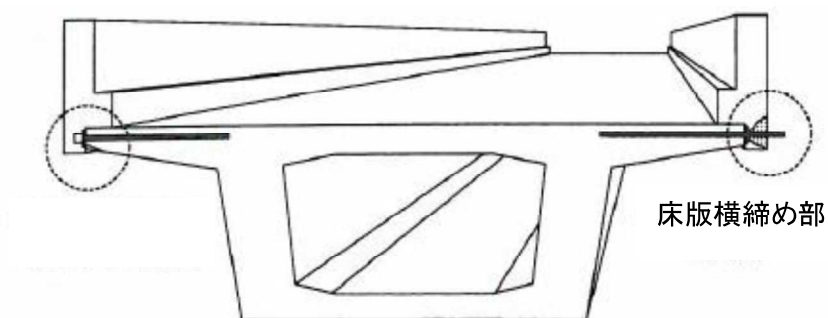


付図－1. 1 部材の名称（その6）

P C 定着部



注：縦締め部は，完成後は目視不可能な場合がほとんどである。



注：床版横締め部は，完成後は目視不可能な場合がほとんどである。

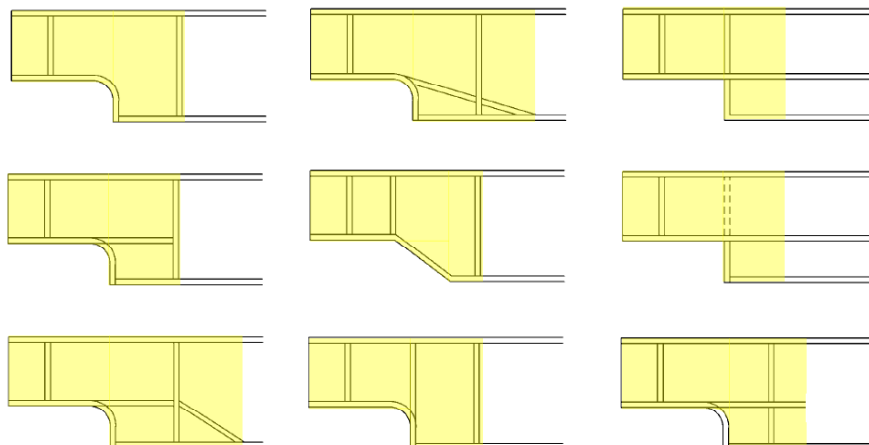
付図－1． 1 部材の名称（その7）

ゲルバー部

ア) 鋼主桁のゲルバー部

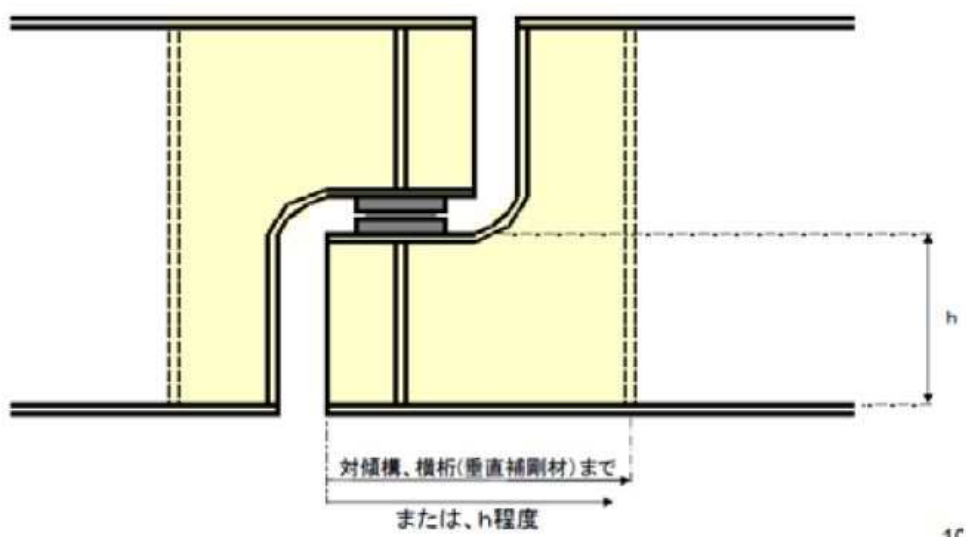
- ・鋼主桁のゲルバー部の範囲は、次図の着色範囲を標準とする。

ア) 標準例



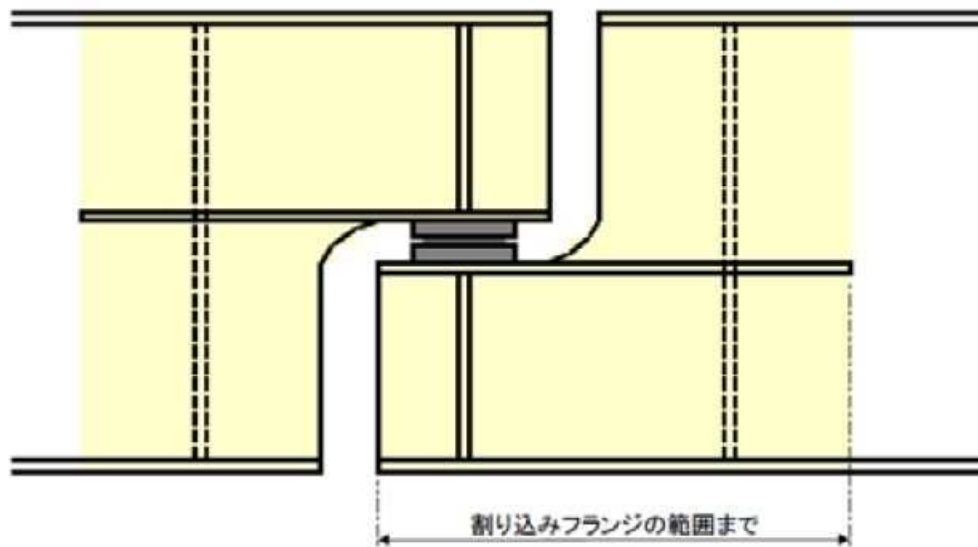
イ) 未補強の例

- ・ゲルバー部近傍の対傾構または横桁まで（それらと取り合っている垂直補剛材まで）とする。
- ・外桁外面など、垂直補剛材が無い場合は、下図の「 h 」の範囲とする。



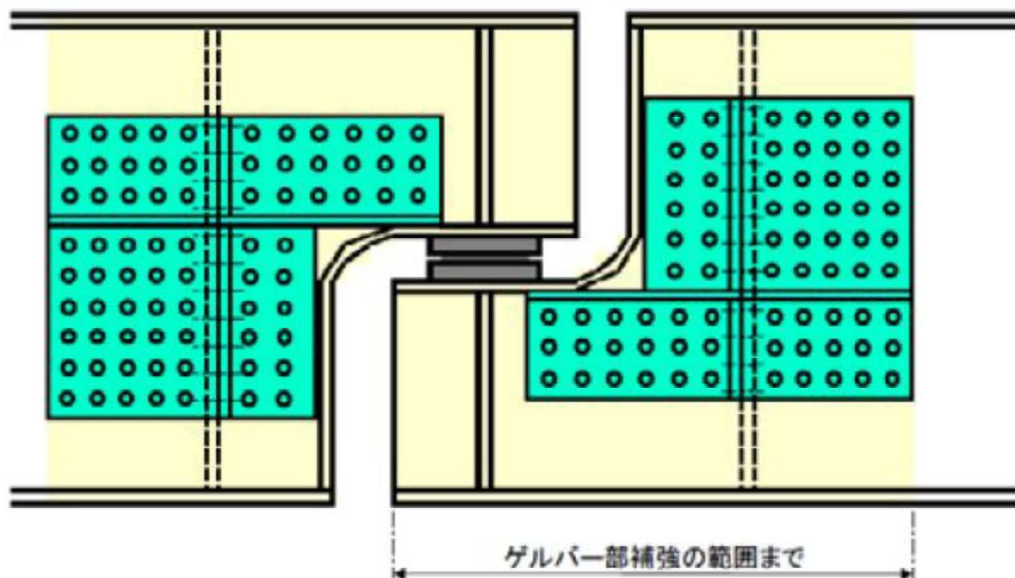
c) 割り込みフランジがある例

- ・ 割り込みフランジのある範囲とする。

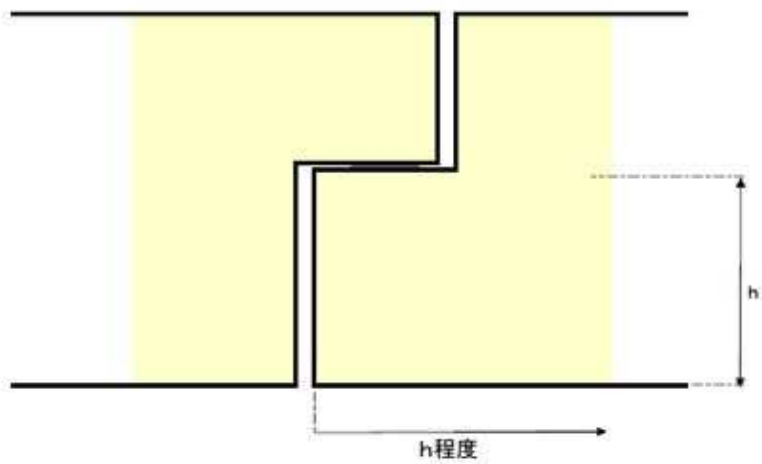


d) 補強済みの例

- ・ ゲルバー補強の範囲までとする。
- ・ なお、後から補強された「ゲルバー補強材」に損傷が認められた場合は、付録ー3「⑩ 補修・補強材の損傷（分類5：鋼板（あて板等）」）として扱う。

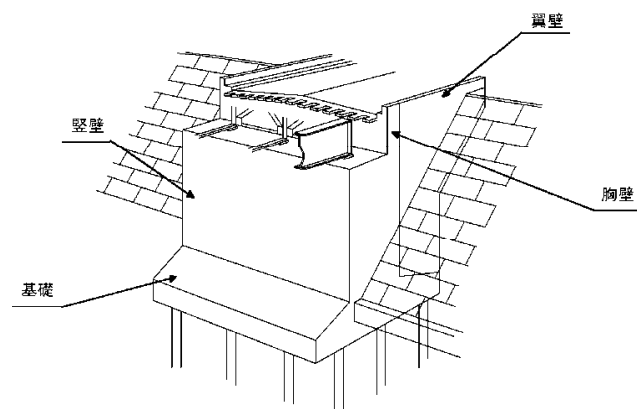


- イ) コンクリート主桁のゲルバー部
- ・ 下図の「h」の範囲とする。

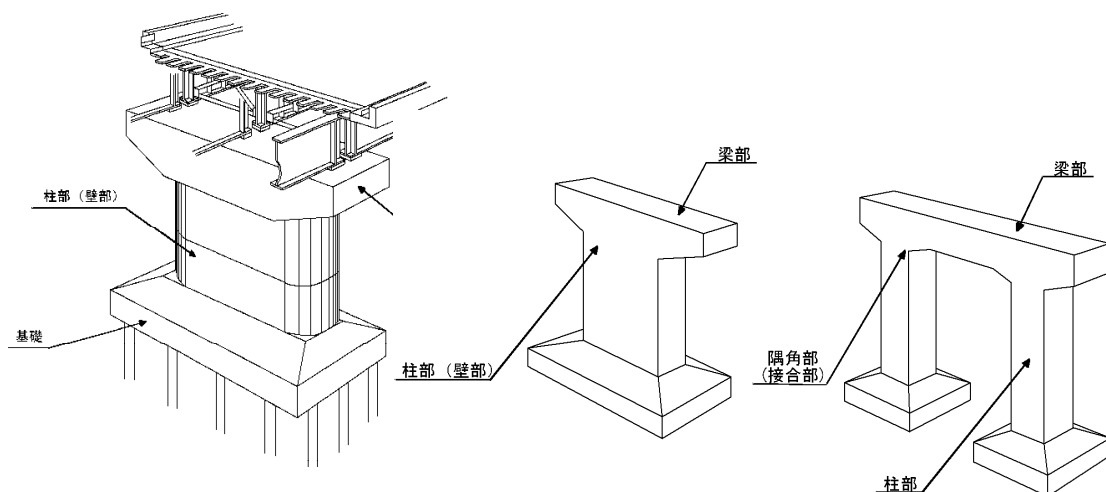


付図－１． １ 部材の名称（その８）

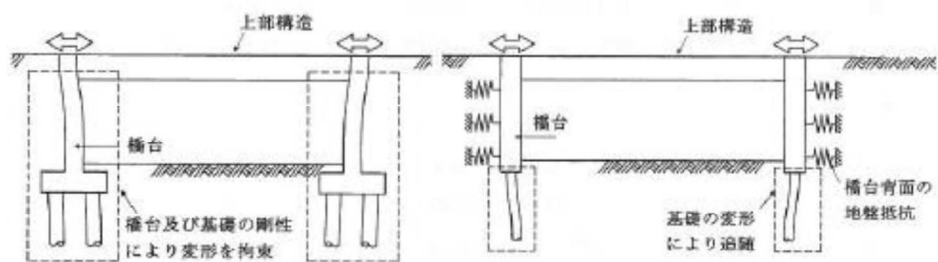
・下部構造
橋台



橋脚

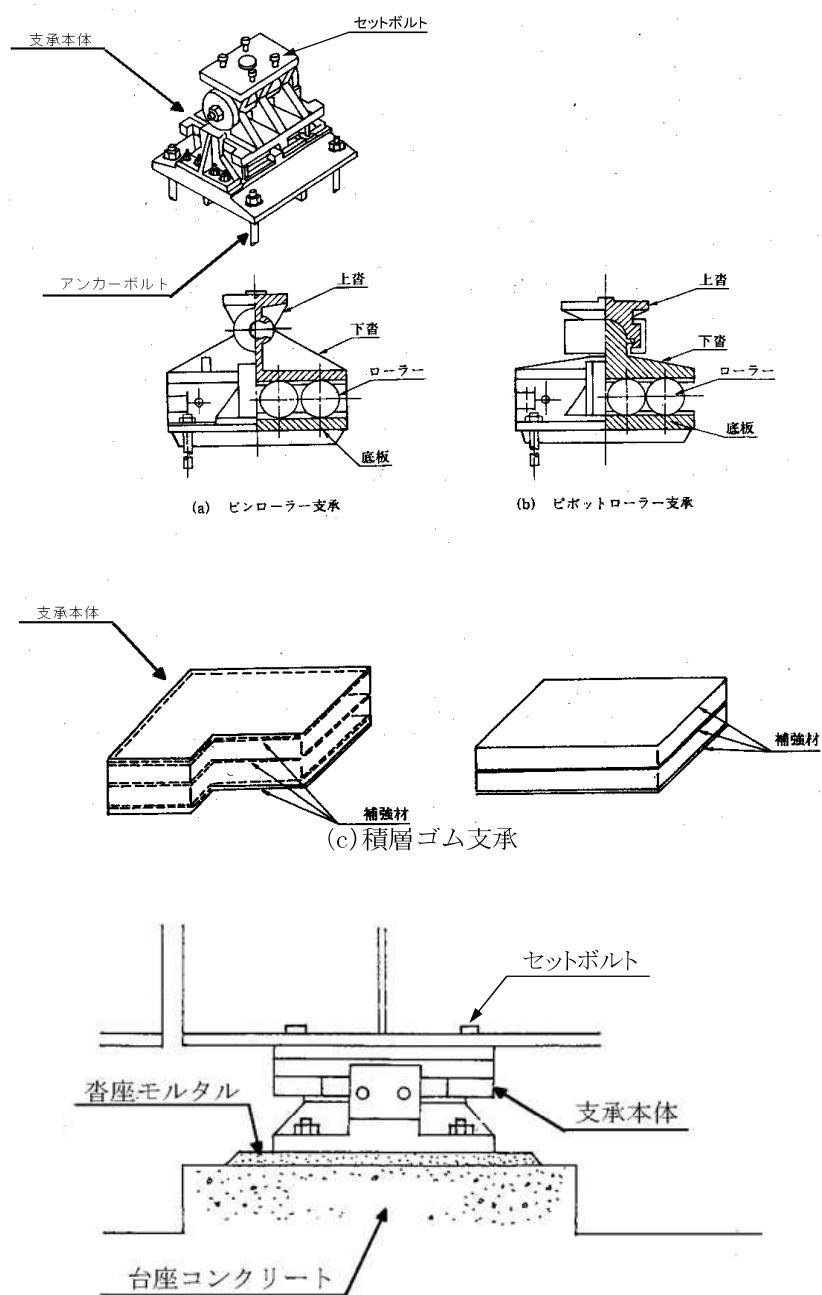


橋台部ジョイントレス構造



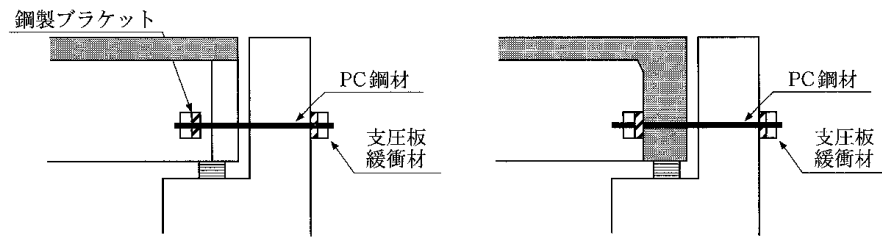
付図－１． １ 部材の名称（その９）

・ 支承部



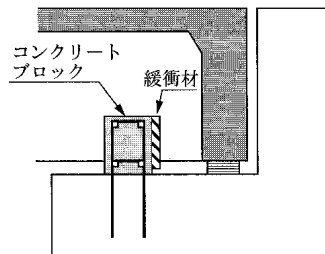
付図－1. 1 部材の名称 (その10)

・落橋防止システム

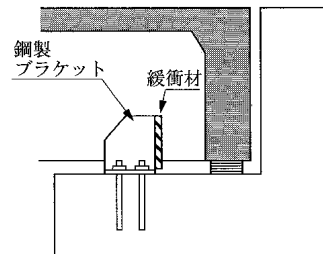


(a) 鋼上部構造の場合

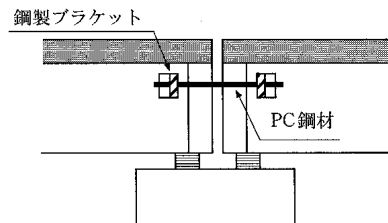
(b) コンクリート上部構造の場合



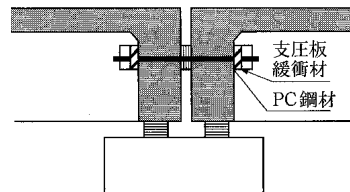
(a) コンクリートブロックを用いる落橋防止構造



(b) 鋼製ブラケットを用いる落橋防止構造



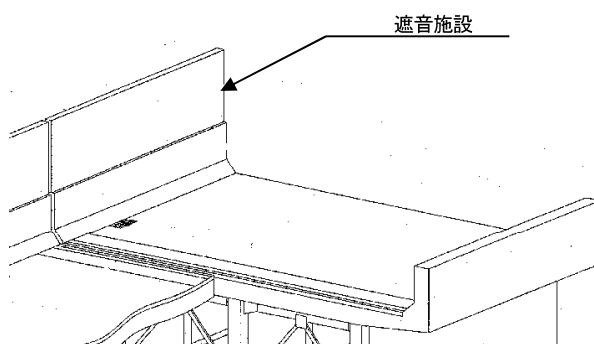
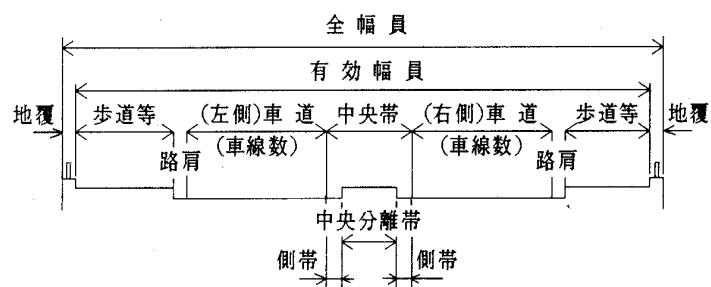
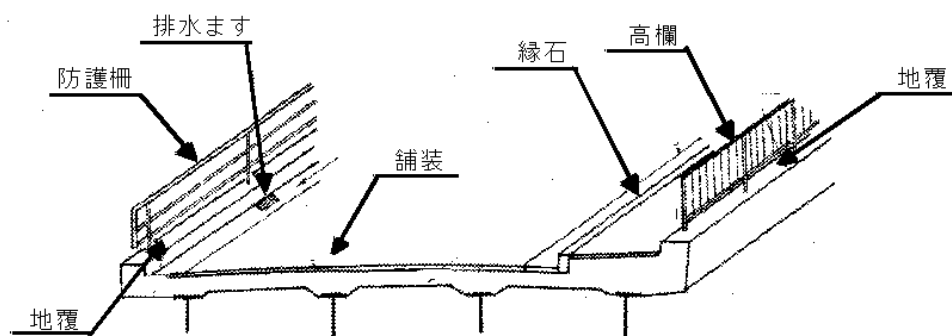
(a) 鋼上部構造の場合



(b) コンクリート上部構造の場合

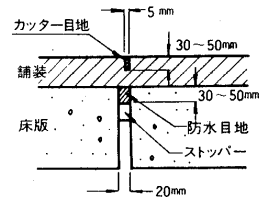
付図－１．１ 部材の名称（その１１）

・路上

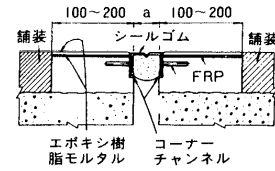


付図－１．１ 部材の名称（その１２）

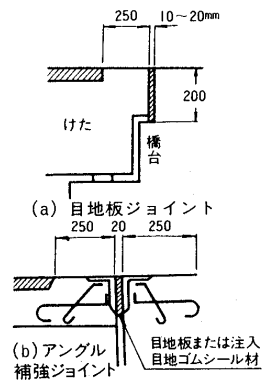
伸縮装置



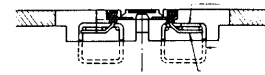
盲目地形式



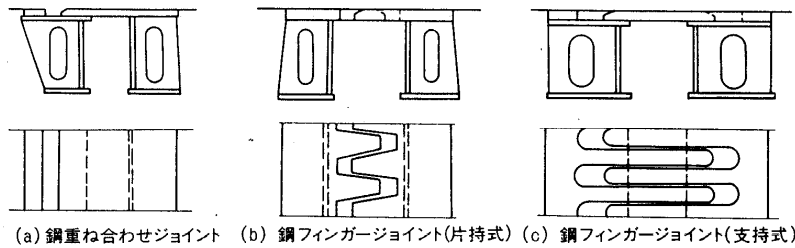
突き合わせ後付形式の例



突き合わせ先付形式



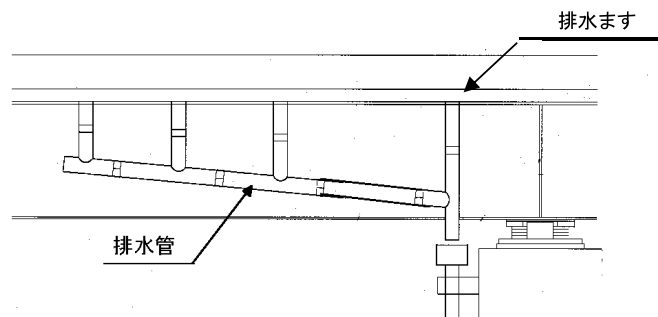
ゴムジョイント形式の例



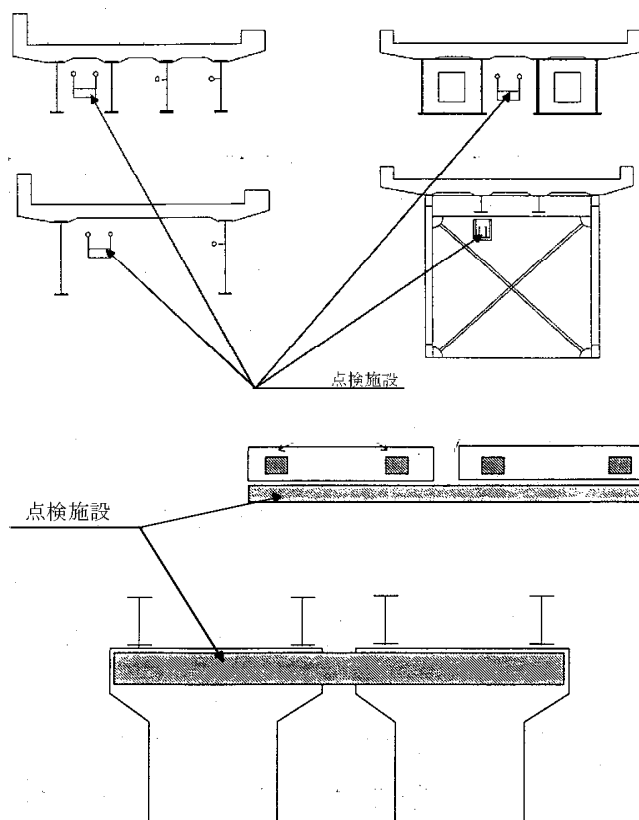
(a) 鋼重ね合わせジョイント (b) 鋼フィンガージョイント(片持式) (c) 鋼フィンガージョイント(支持式)

付図－1. 1 部材の名称 (その13)

・排水施設

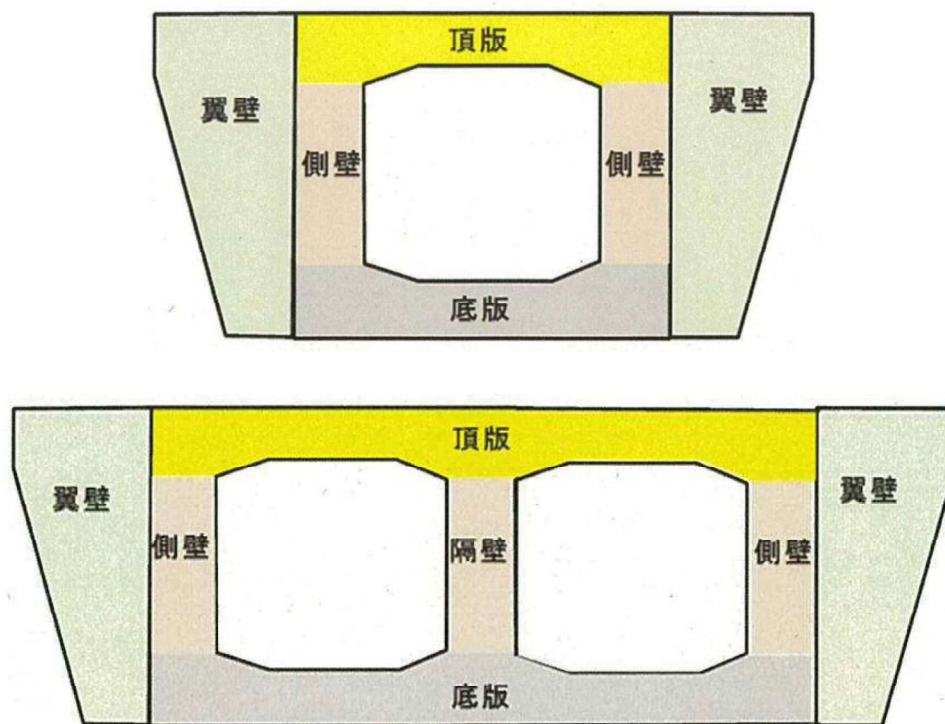


・点検施設



付図－１．１ 部材の名称（その１４）

・溝橋

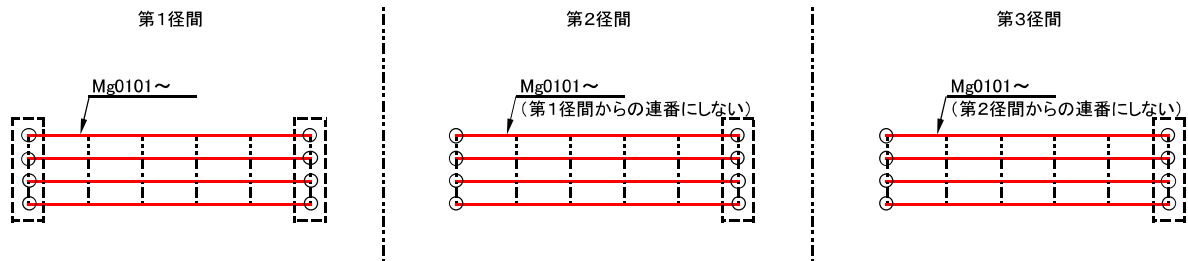


付図－１．１ 部材の名称（その１５）

■付図－1． 2 要素番号例

(1) 番号付番の基本

番号付番の基本として、要素番号（部材番号）は、径間毎に付番する。



ゲルバー桁等，径間分割がある場合は，分割された径間毎に付番する。

付図－1． 2 要素番号例（その1）

(2) 番号付番の方法

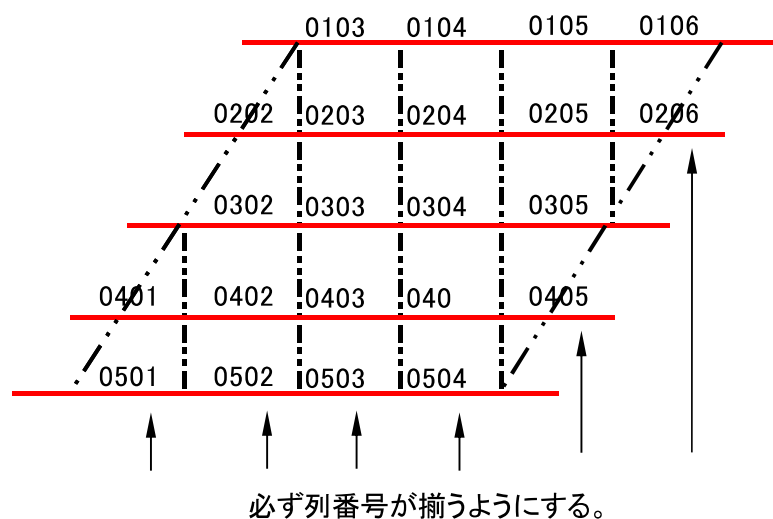
①主桁(Mg)

- ・橋軸方向は、横桁、対傾構、ブラケット、隔壁、ダイアフラムで分割する。
- ・橋梁背面方向の桁端部の張出（支点上横桁位置から桁端）については、分割しない。
- ・行番号の前2桁を、部材番号とする。
- ・中間横桁が無い、もしくは中間横桁が支間内1箇所のみ配置されている桁橋については、橋軸方向において、別途“桁端部範囲”を設定して分割する。桁端部の範囲は、桁端から橋台堅壁前面（縁端が拡幅されている場合は縁端拡幅前面）までの区間とする。

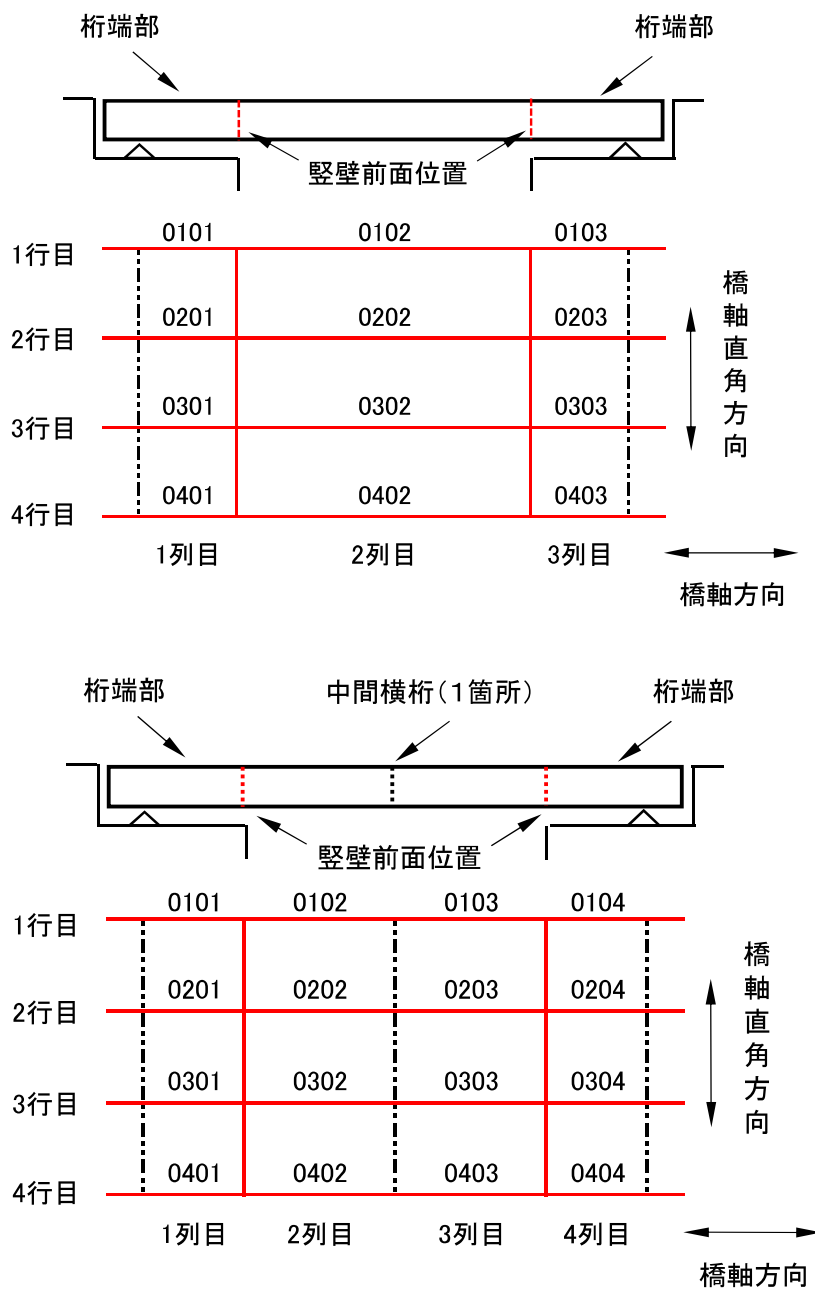
a) 標準例



b) 斜橋の例



c) 中間横桁が無い，中間横桁が1箇所だけの例



付図－1． 2 要素番号例（その2）

②縦桁(St)

- 主桁の付番方法に準ずる。

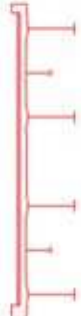
a) 標準例



				主桁
0101	0102	0103	0104	縦桁
				主桁
0201	0202	0203	0204	縦桁
				主桁
0301	0302	0303	0304	縦桁
				主桁

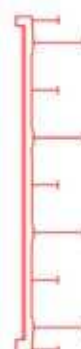
b) 縦桁がある例

- 縦桁のある格間とない格間が混在する場合、ない格間は欠番とし、番号を飛ばす。



				主桁
0101	0102	0103	0104	縦桁
				主桁
0301	0302	0303	0304	縦桁
				主桁

c) 張出部に縦桁がある例

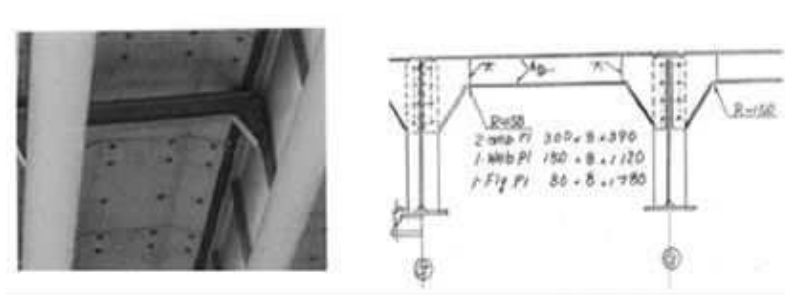


0101	0102	0103	0104	縦桁
				主桁
0201	0202	0203	0204	縦桁
				主桁
0301	0302	0303	0304	縦桁
				主桁
0401	0402	0403	0404	縦桁
0501	0502	0503	0504	縦桁

付図－1．2 要素番号例（その3）

③横桁(Cr)・対傾構(Cf)

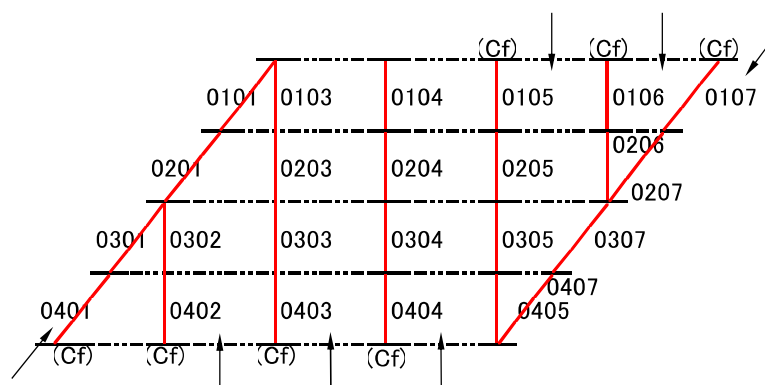
- ・橋軸直角方向は主桁で分割する。なお、縦桁では分割しない。
- ・横桁と対傾構は連番とする。
- ・ブラケットは横桁として扱う。
- ・箱桁内部のダイアフラム及び隔壁は横桁として扱い、要素番号の左側の桁を「9」とする。
- ・横桁（分配横桁）と対傾構の区分は、充腹構造だから横桁，トラス形式だから対傾構という見た目の決めではなく，機能で判断する（横桁は主部材，対傾構はその他部材）。分配機能を期待している部材及び各支点上の部材を横桁とする。なお，主桁の桁高が低い場合トラス式対傾構が使えず，形状保持として簡単な充腹構造とした梁部材は，対傾構と扱う（次図参照）。



a) 標準例

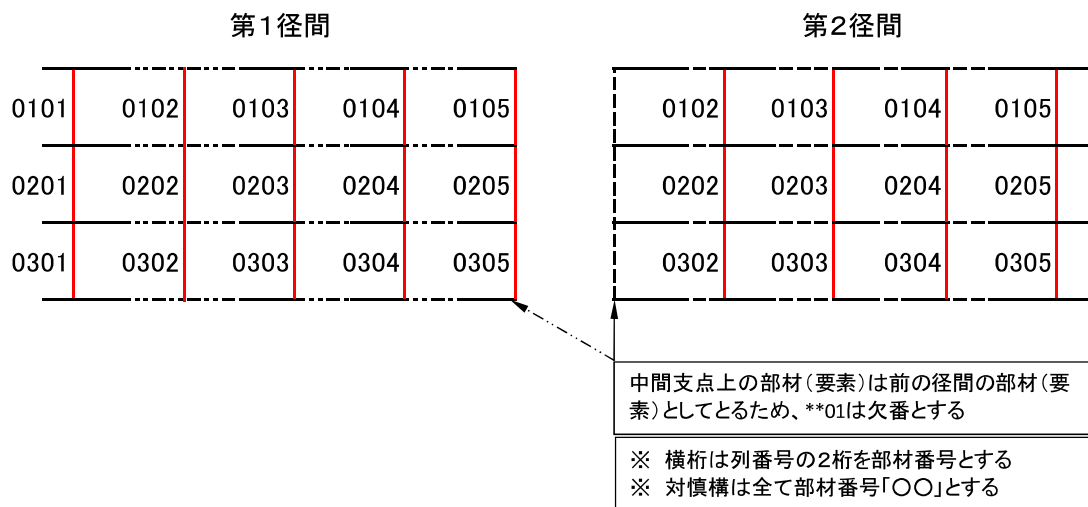


b) 斜橋の例



横桁の場合，要素番号の後2桁が部材番号となるため，必ず列番号が揃うようにする。

c) 連続桁の場合

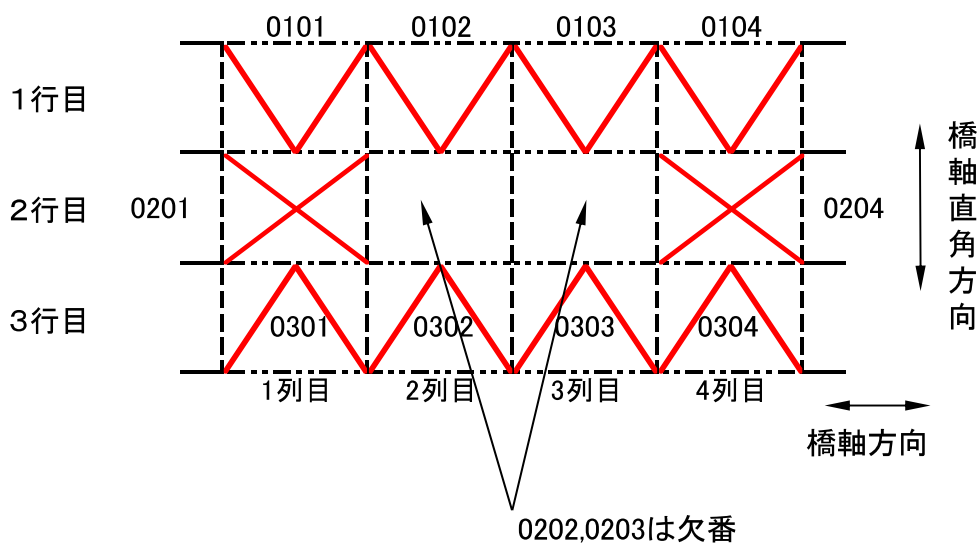


付図－ 1. 2 要素番号例 (その 4)

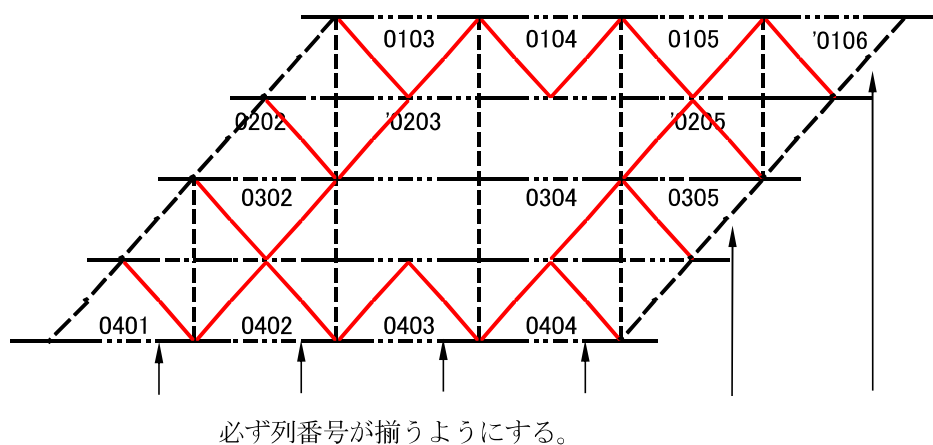
④横構 (Lu, L1)

- ・橋軸方向は横桁，対傾構，ブラケットで，橋軸直角方向は主桁で分割する。なお，縦桁では分割しない。
- ・横構のある格間とない格間が混在する場合，ない格間は欠番とし，番号を飛ばす。
- ・部材番号は「00」とする。

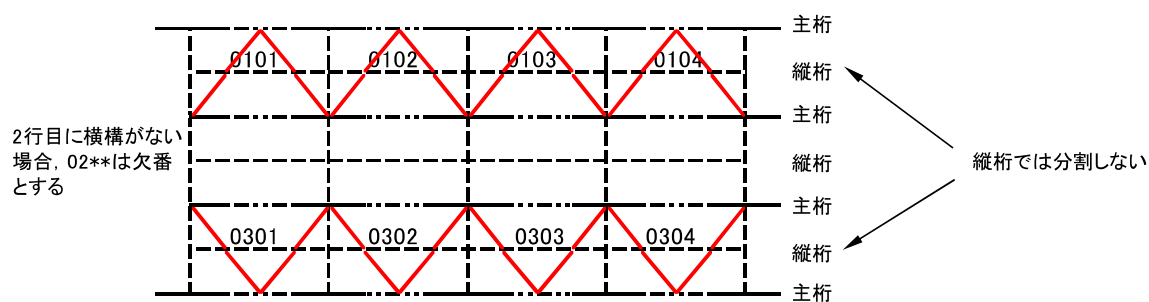
a) 標準例



b) 斜橋の例



c) 縦桁がある例



付図－1. 2 要素番号例 (その5)

⑤床版 (Ds)

- 橋軸方向は横桁, 対傾構, ブラケット, 隔壁, ダイアフラムで, 橋軸直角方向は主桁で分割する。なお, 縦桁では分割しない。
- トラス橋, アーチ橋等で, 縦桁で分割を行わないと橋軸直角方向の分割がなくなる場合は, 縦桁で分割する。
- 張出部の橋軸方向への分割は, 行わない。ただし, ブラケットがある場合は, ブラケットで分割する。

a) 標準例

Figure 1 shows a 5x4 grid of points. The points are labeled as follows:

- Top row: 0101 (center), 0201, 0202, 0203, 0204
- Second row: 0301, 0302, 0303, 0304
- Third row: 0401, 0402, 0403, 0404
- Bottom row: 0501 (center)

The grid is bounded by a red solid line. The left side is labeled with row numbers 1行目, 2行目, 3行目, 4行目, and 5行目. The right side is labeled 橋軸直角方向 with a vertical double-headed arrow. The grid is divided into four horizontal sections by blue dashed lines. The first section contains 0101, 0201, 0202, 0203, and 0204. The second section contains 0301, 0302, 0303, and 0304. The third section contains 0401, 0402, 0403, and 0404. The fourth section contains 0501.

b) 斜橋の例

The diagram shows a 5x5 grid of nodes labeled 0202 through 0505. A red dashed line forms a parallelogram around the grid. A green dashed line forms a smaller parallelogram inside. Arrows point from the bottom nodes (0501-0505) to the top nodes (0202-0206). The top node 0101 is also shown.

橋軸方向に分割されない張出し部を除き、必ず列番号が揃うようにする。

c) 縦桁とブラケットがある例

The diagram shows a 5x4 grid of nodes. The nodes are labeled as follows:

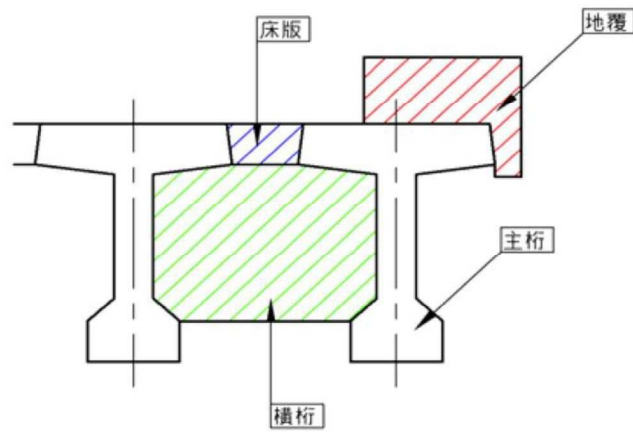
0101	0102	0103	0104
0201	0202	0203	0204
0301	0302	0303	0304
0401	0402	0403	0404
0501	0502	0503	0504

Arrows point from the labels on the right to the grid:

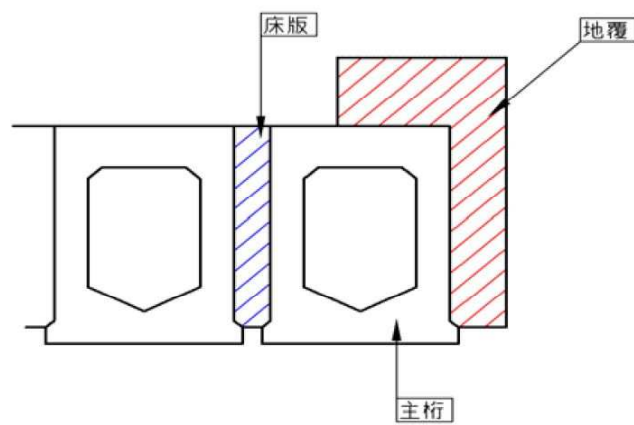
- 縦桁主桁 (Vertical Digit Main Digit) points to the first row (0101-0104).
- 縦桁 (Vertical Digit) points to the second row (0201-0204).
- 主桁 (Main Digit) points to the third row (0301-0304).
- 縦桁 (Vertical Digit) points to the fourth row (0401-0404).
- 縦桁 (Vertical Digit) points to the fifth row (0501-0504).
- 主桁 (Main Digit) points to the first column (0101-0501).
- 縦桁 (Vertical Digit) points to the second column (0102-0502).
- 縦桁 (Vertical Digit) points to the third column (0103-0503).
- 縦桁 (Vertical Digit) points to the fourth column (0104-0504).

縦桁では分割しない (Do not divide in vertical digits)

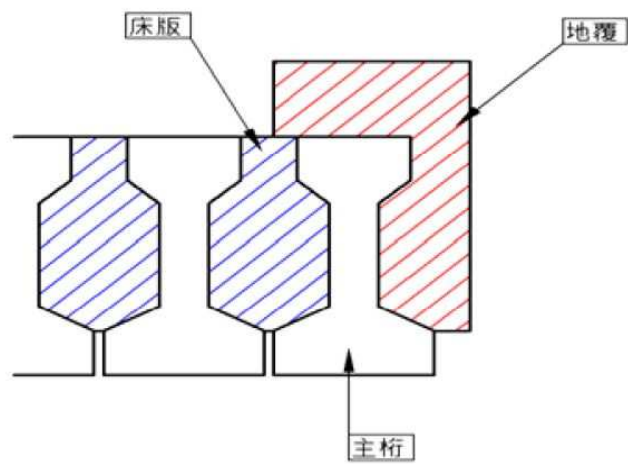
d) T桁の例



e) ホロー桁の例



f) I桁の例

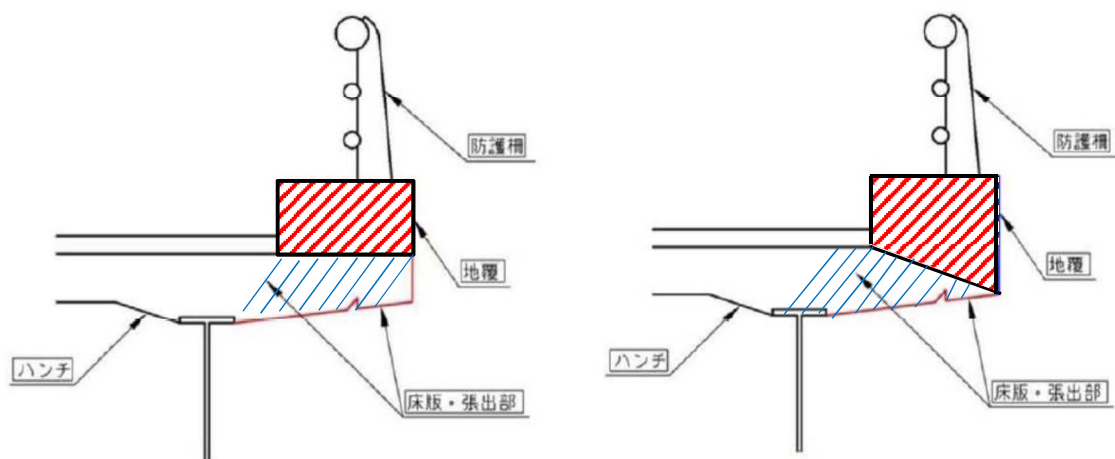


g) 床版と地覆部境界部の例

- ・鋼桁、RC 床版の場合で、床版と地覆の境界が明確でない場合は、下面を床版、側面を地覆とする（⑨参照）。

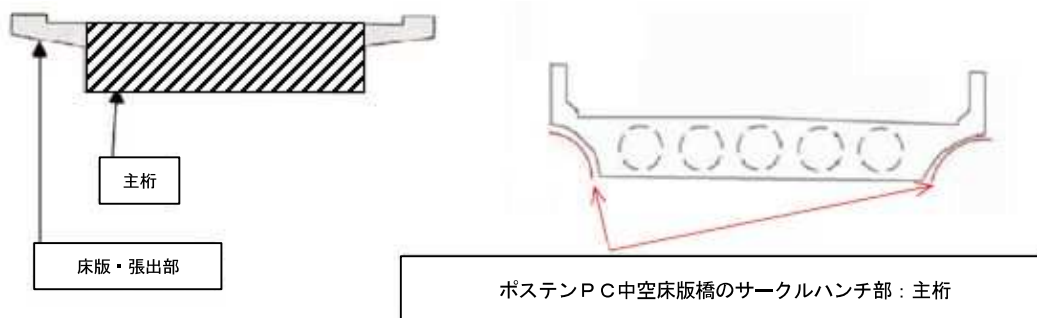
ア) 外面側に明確な目地がある場合

イ) 外面側に明確な目地がない場合



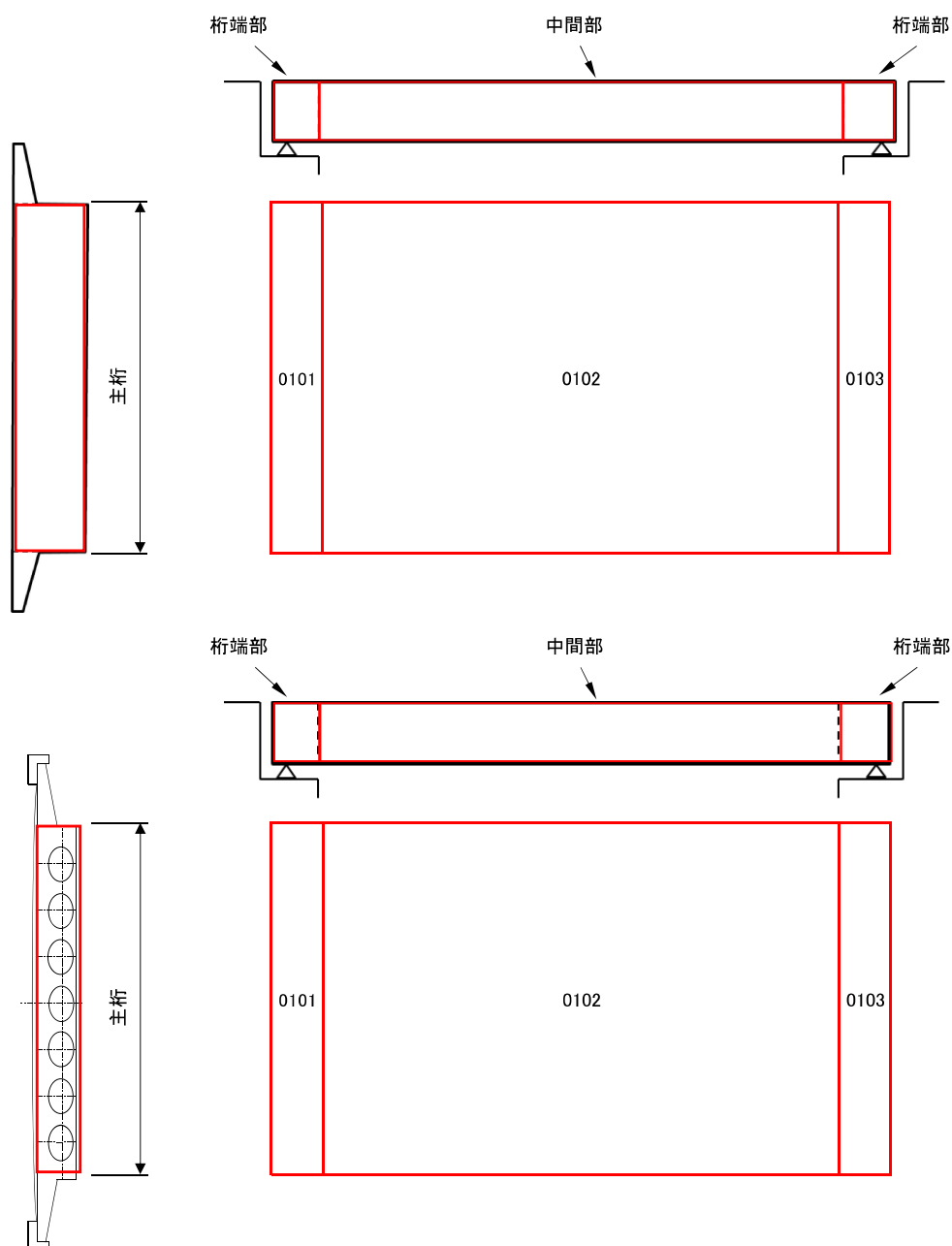
h) 床版橋の例

- ・床版橋，中空床版橋の下面は「床版」ではなく，「主桁」である。
- ・張出部のみが，床版である。
- ・ただし，ポステンPC中空床版橋のサークルハンチ部は，主桁である。



付図－１．２ 要素番号例（その６）

- ・床版橋における主桁の要素分割方法は以下のとおりとする。
- ・橋軸方向は、桁端部、中間部の範囲で分割する。桁端部の範囲は、桁端から橋台堅壁前面（縁端が拡幅されている場合は縁端拡幅前面）までの区間とする。
- ・橋軸直角方向は分割しない。

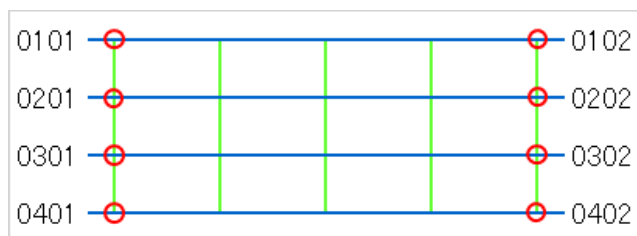


付図－１．２ 要素番号例（その７）

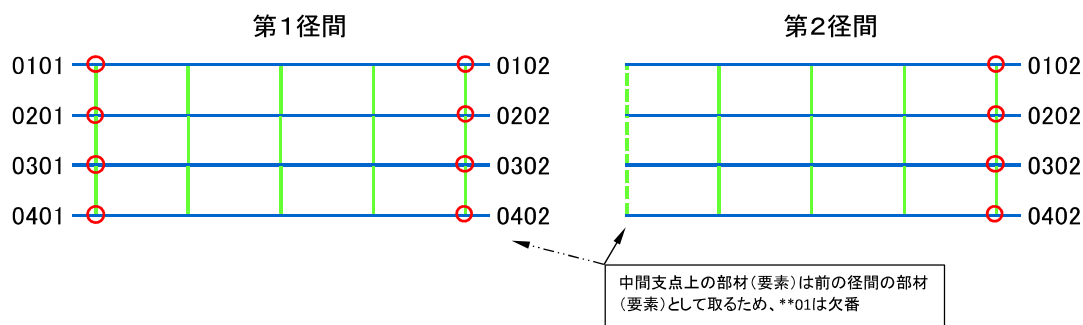
⑥支承 (Bh, Ba, Bm, Bc)

- 要素番号の前2桁が橋軸方向の並び(行)を示し、後2桁が橋軸直角方向の並び(列)を示す。よって、I桁の場合、前2桁が主桁の部材番号と同一となり、後2桁は「01」が起点側支承、「02」が終点側支承となる。

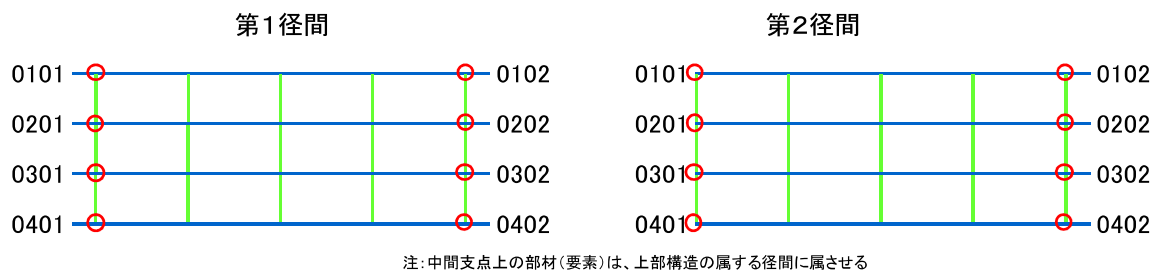
a) 標準例



b) 連続桁の例

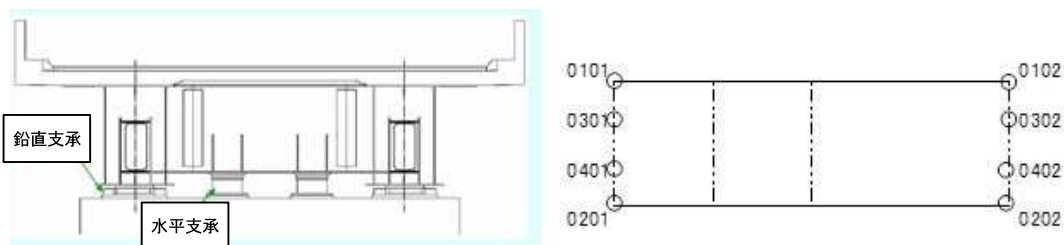


c) 連結桁の例



d) 機能分離型支承の例

- 付番は、桁に取り付いている支承を優先する。

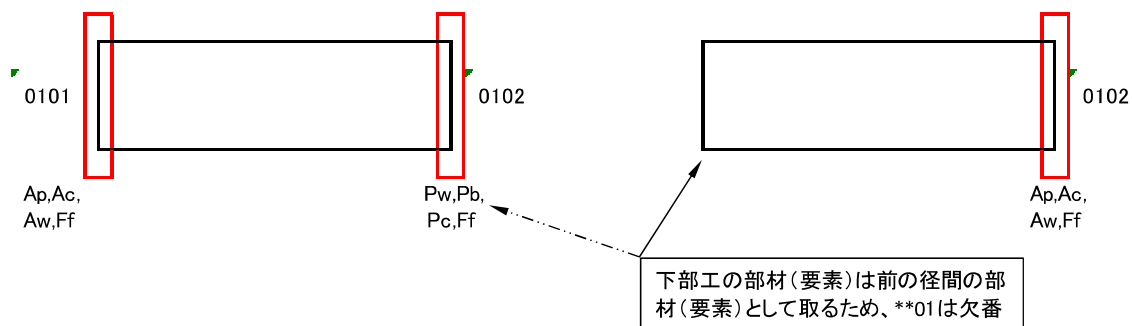


付図－1. 2 要素番号例 (その8)

⑦橋脚、橋台、基礎(Pw, Pb, Pc, Ap, Ac, Aw, Ff)

- ・ 1 径間目（単径間を含む。）は、起点側下部工を「**01」, 終点側下部工を「**02」とする。
- ・ 2 径間目以降は、起点側下部工は起点側径間の部材（要素）とし、終点側下部工を「**02」とする（「**01」が存在しない。）。
- ・ なお、落橋を防止する目的で桁かかり長確保のために橋台・橋脚の天端を拡幅している場合には、拡幅部は「落橋防止システム」とする（⑭参照）。

a) 標準例

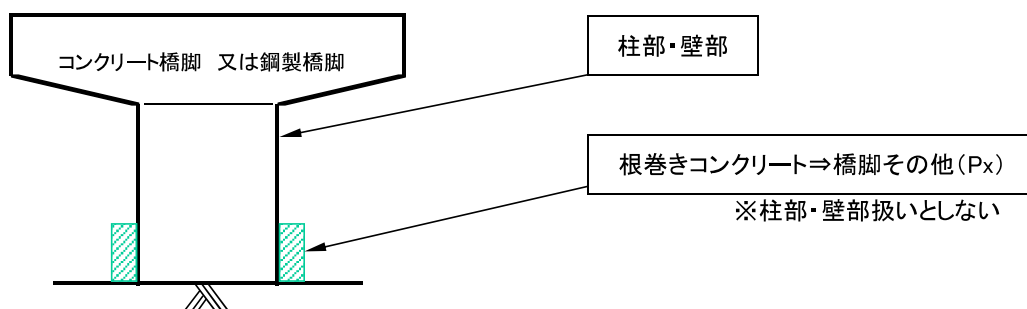


b) 橋軸直角方向に分離している例



c) 橋脚の根巻きコンクリートの例

- ・ 根巻きコンクリートは、橋脚その他（P x）部材として扱う。

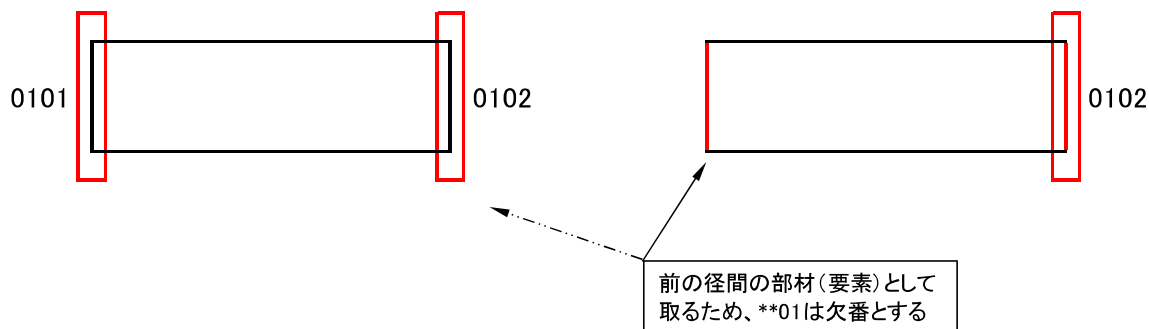


付図－1. 2 要素番号例（その9）

⑧伸縮装置(Ej)

- ・ 1 径間目（単径間を含む。）は，起点側下部工部を「**01」，終点側下部工部を「**02」とする。
- ・ 2 径間目以降は，起点側下部工部は起点側径間の部材（要素）とし，終点側下部工部を「**02」とする（「**01」が存在しない。）。

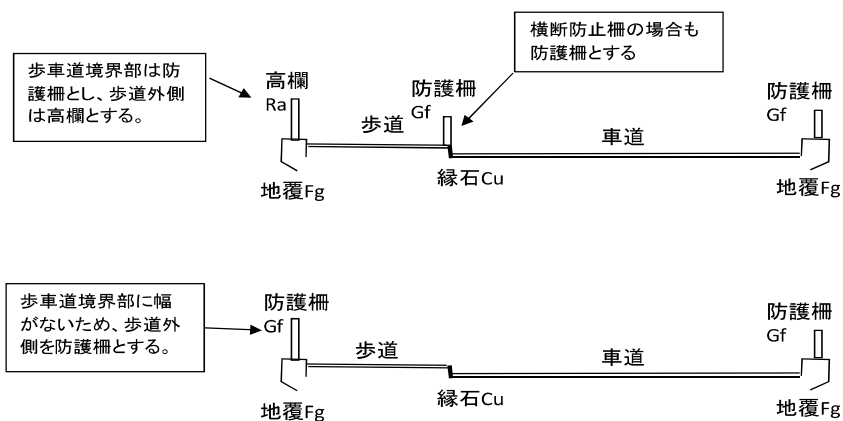
ア)標準例



付図－ 1. 2 要素番号例（その 1 0）

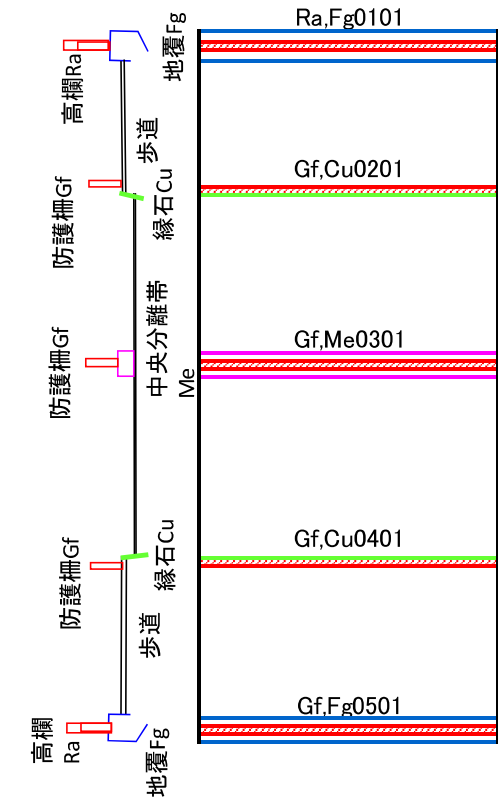
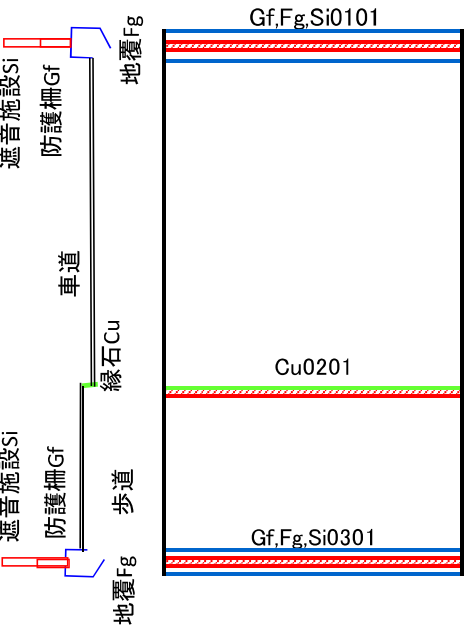
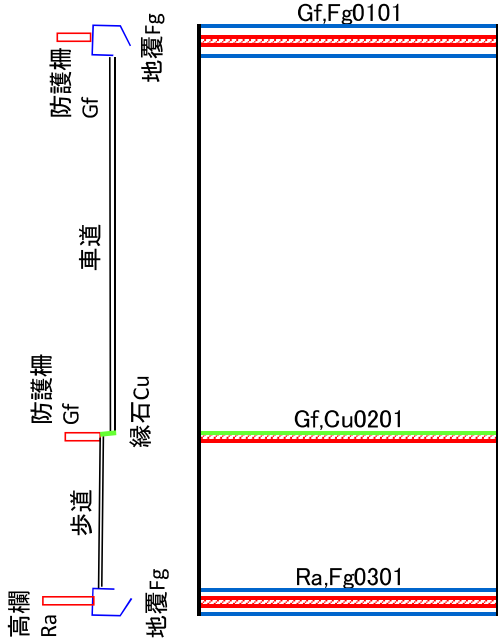
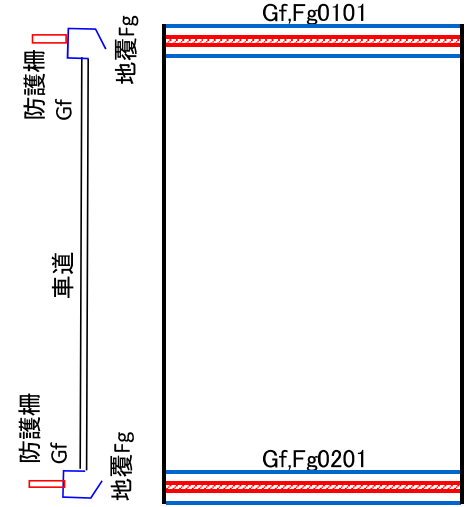
⑨高欄(Ra)，防護柵(Gf)，地覆(Fg)，縁石(Cu)，遮音施設(Si)，中央分離帯(Me)

- ・ 高欄，防護柵の使い分けは，設計基準は考慮せず，車両が衝突する可能性がある（最も車道よりの）ものを防護柵とする。



- ・ 高欄，防護柵等の路上施設は，部材単位に付番するのではなく，橋軸方向の全体の位置で付番する。
- ・ 地覆と縁石，防護柵と高欄は連番とし，それぞれ位置ごとの行番号が揃うようにする。

a) 標準例



b) プレテン桁のコンクリート防護柵の例

防護柵・地覆の部材区分は、次のとおりとする。

○外面側に明確な目地がある場合(例-1 参照)

- ・外面側 ——— 目地から上は防護柵とし、目地から下は地覆とする。
- ・内面側 ——— 直壁型：地覆と防護柵を分ける。

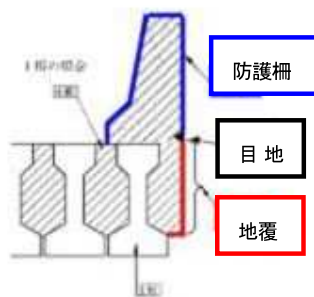
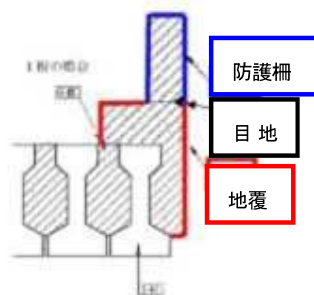
フロリダ型・単スロープ型：全て防護柵とする。

○外面側に明確な目地がない場合(例-2 参照)

- ・全て防護柵（不明確な仮想線による分割は行わない。）
- ・また、損傷図には断面位置がわかるような表記を行う。

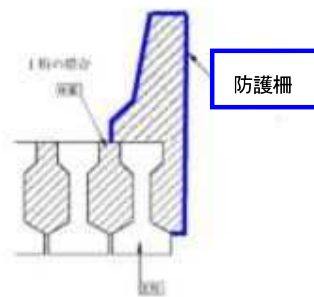
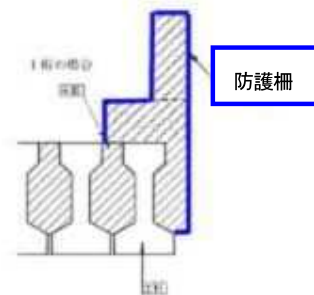
例-1

外面側で分けられる場合



例-2

外面側で分けられない場合

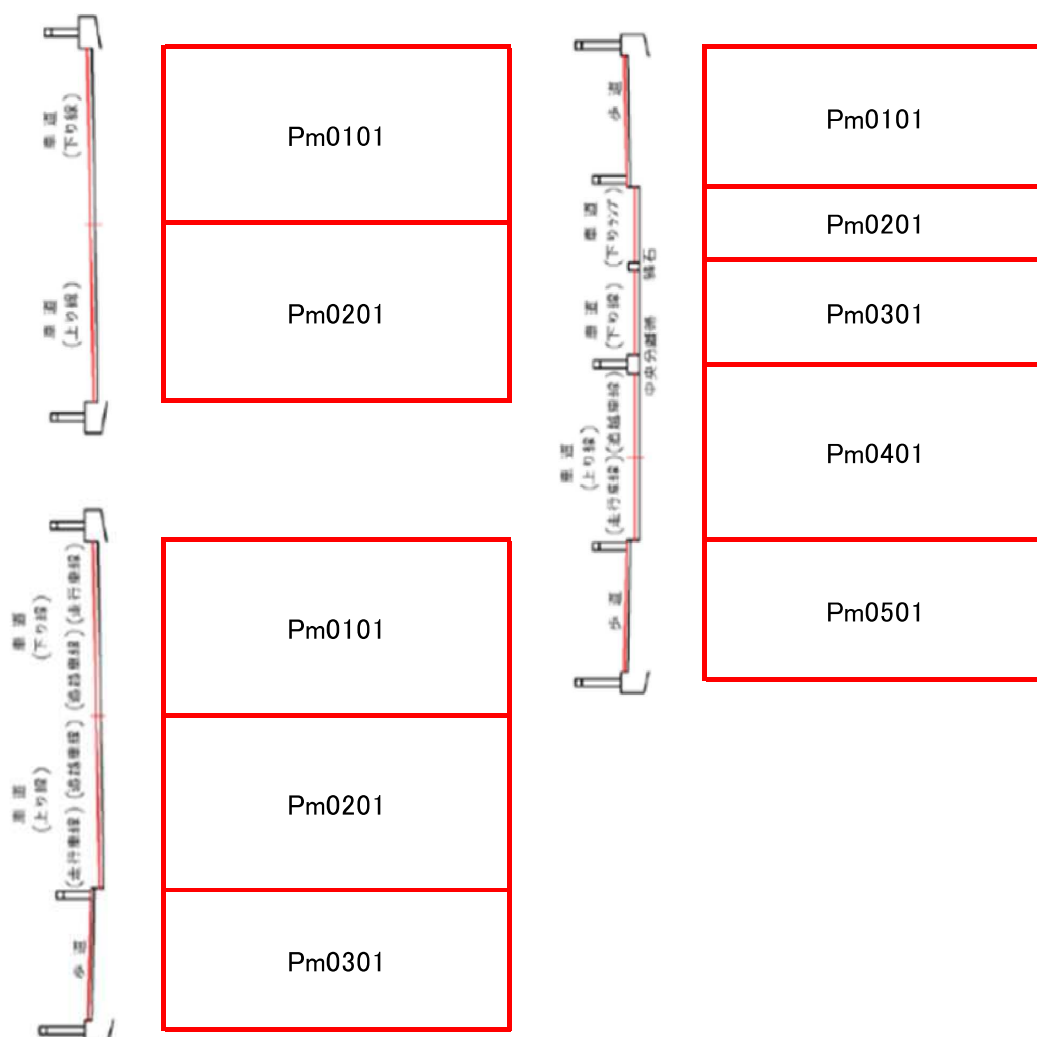


付図－１．２ 要素番号例（その１１）

⑩舗装(Pm)

- ・舗装は、車道部については、上下線または防護柵、縁石、中央分離帯で区切られた区画で分割する。
- ・歩道部と車道部は、分割する。
- ・上下線それぞれ複数の車線があっても、防護柵等で分離されていない場合は、分割しない。
(上下線の分割のみ行う)

ア)標準例

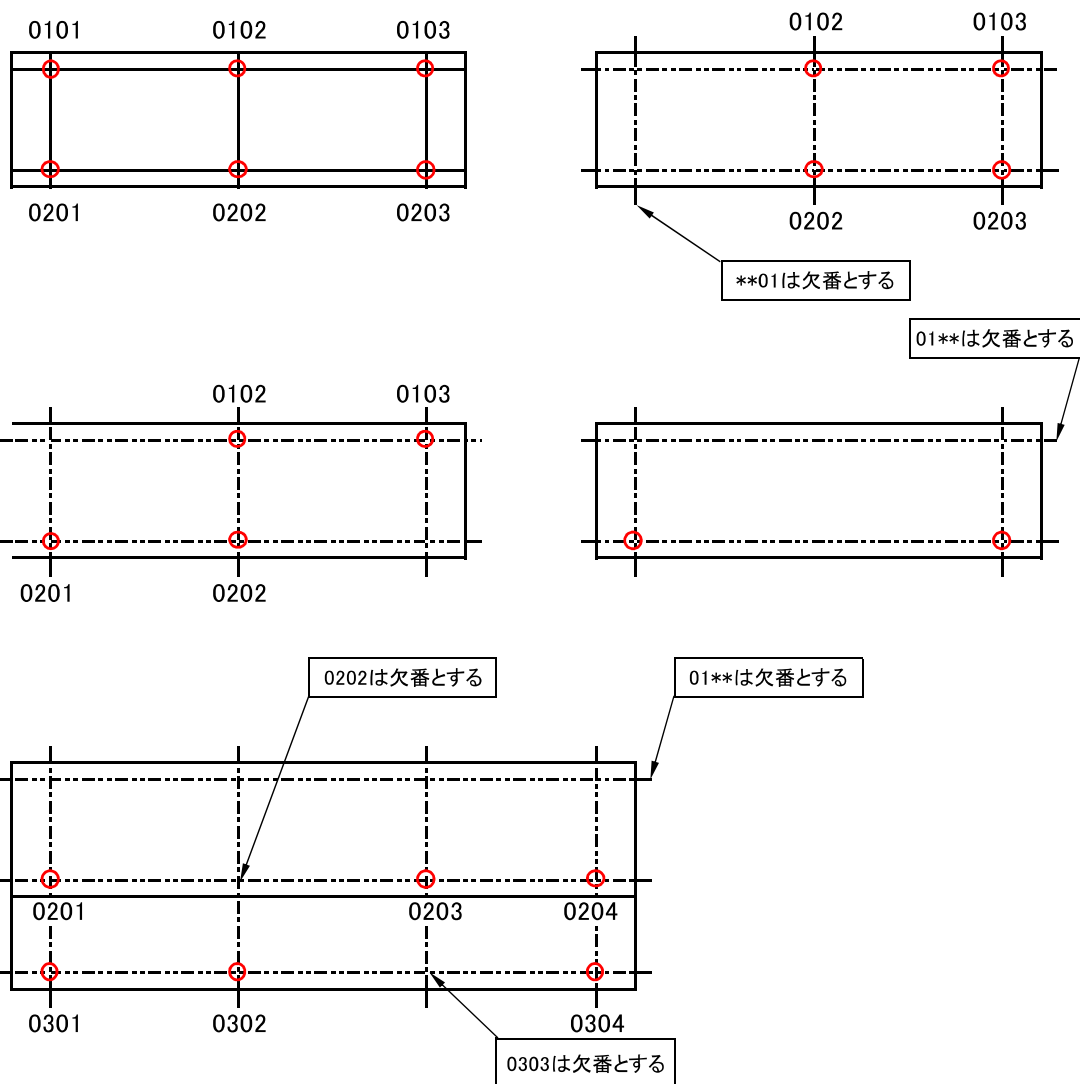


付図－１．２ 要素番号例（その１２）

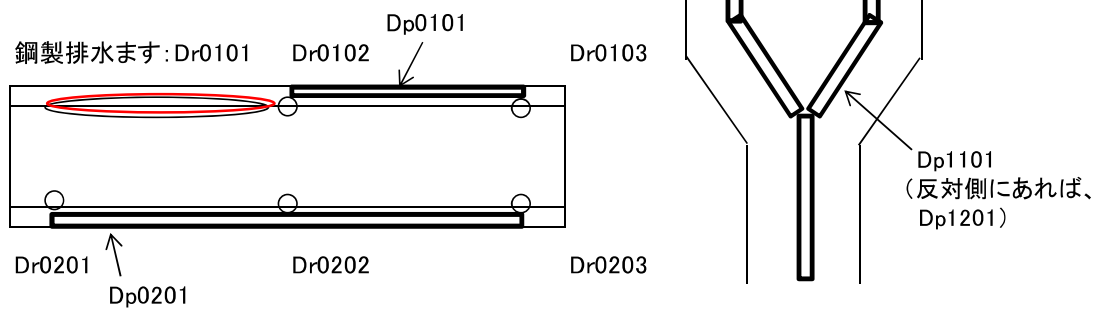
⑪排水施設 (Dr, Dp)

- ・排水施設（排水ます，排水管，その他）のある位置ごとに付番する。
- ・上部構造に設置の排水管は，橋軸方向の全体で付番する。
- ・下部構造に設置の排水管は，設置された下部構造の面毎に付番し，要素番号の左側の桁を「1」とする。
- ・鋼製排水溝は，排水ます（Dr）とする。

ア) 標準例



イ) 排水管，鋼製排水溝の例

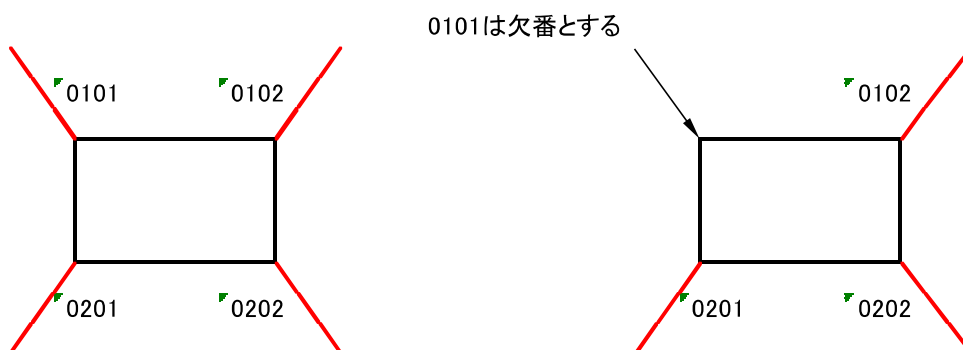


付図－１．２ 要素番号例（その１３）

⑫袖擁壁 (Ww)

- ・ 袖擁壁のある位置ごとに付番する。

a) 標準例

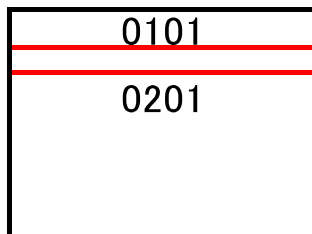


付図－１．２ 要素番号例（その１４）

⑬添架物(Ut)，点検施設(Ip)

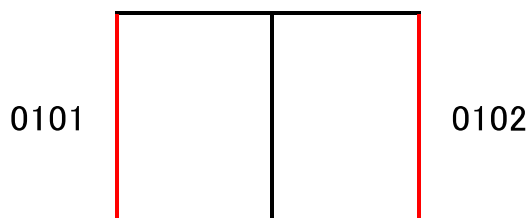
a) 橋軸方向の例

- ・ 橋軸方向は，G1 桁側から 0101, 0201……と付番する。



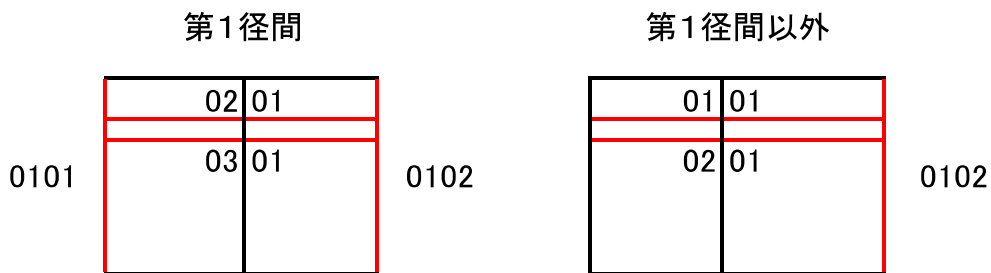
b) 下部構造（橋軸直角方向）に添架の例

- ・ 下部構造（橋軸直角方向）に添架されたものは，下部構造の要素番号に合わせ，0101, 0201……（起点側），0102, 0202……（終点側）と付番する。



c) 混在の例

- ・ 橋軸方向と下部構造（橋軸直角方向）に添架が混在する場合は，次を基本とする。

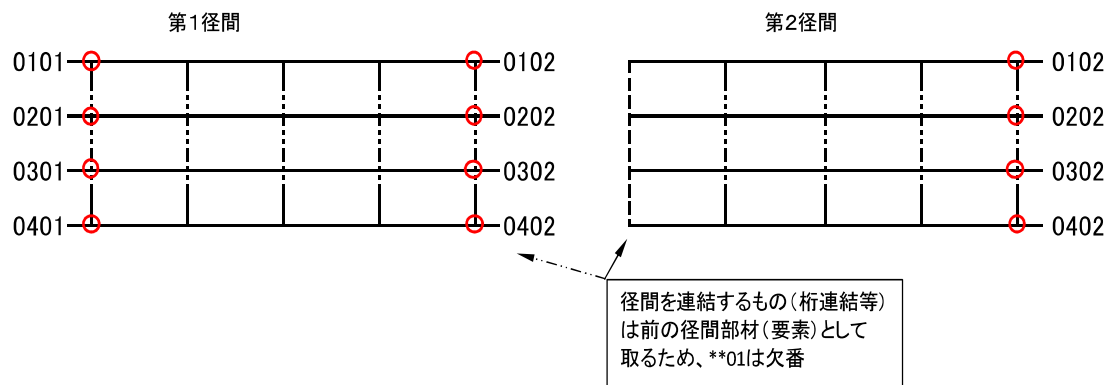


付図－１．２ 要素番号例（その１５）

⑭落橋防止システム(落橋防止構造(Ss), 横変位拘束構造(Sd))

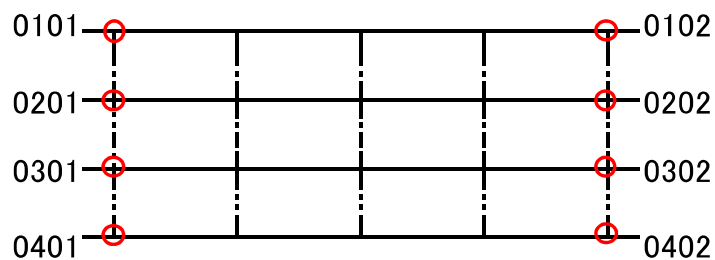
a) 径間毎に独立の例

- ・支承の付番方法に準じ、径間毎に独立しているものは各径間の部材とし、径間を連結するものは若い番号順の径間部材とする。



b) 桁関連の例

- ・桁に取り付いているもの、または桁直下等に取り付いているものの要素番号は、桁の番号に合わせる。



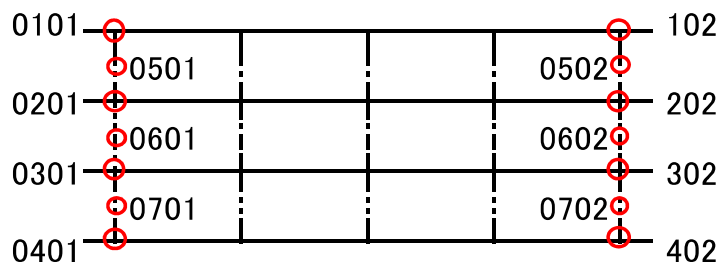
c) 桁間の例

- ・桁間を跨ぐもの、または桁間に設置されたものは、若番側の桁番号に合わせる。



d) 混在の例

- ・桁に取り付いているもの、または桁間を跨ぐものが混在する場合は、桁に取り付いているものを優先する。



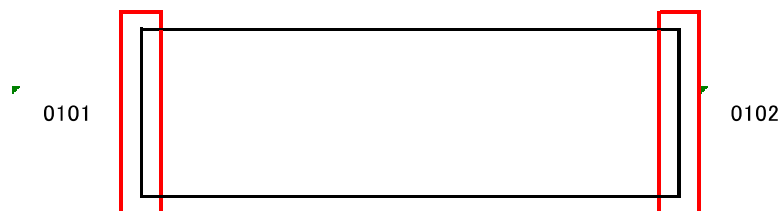
e) 新旧混在の例

- ・新旧の落橋防止システムが存在する場合、旧落橋防止システムの番号は変更せず、新しい落橋防止システムには続き番号を付す。なお、材料による区分はしない。



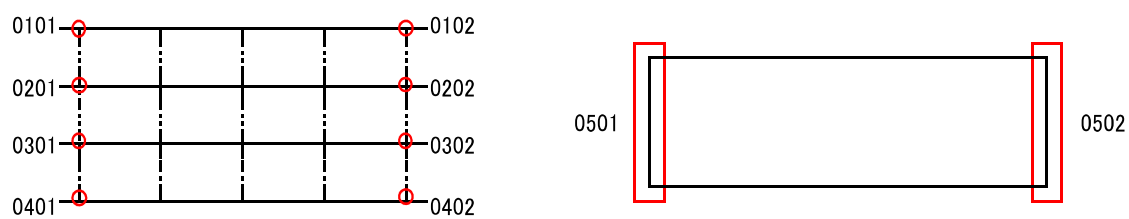
f) 天端拡幅部の例

- ・落橋を防止する目的で桁かかり長確保のために橋脚・橋台の天端を拡幅している場合においては、拡幅部は、落橋防止システムとする。この場合、RC 構造で前面拡幅されているものについては、下部構造の要素番号に合わせる。
- なお、新設既設に拘わらず、落橋防止システムとする。



g) 天端拡幅部との混在の例

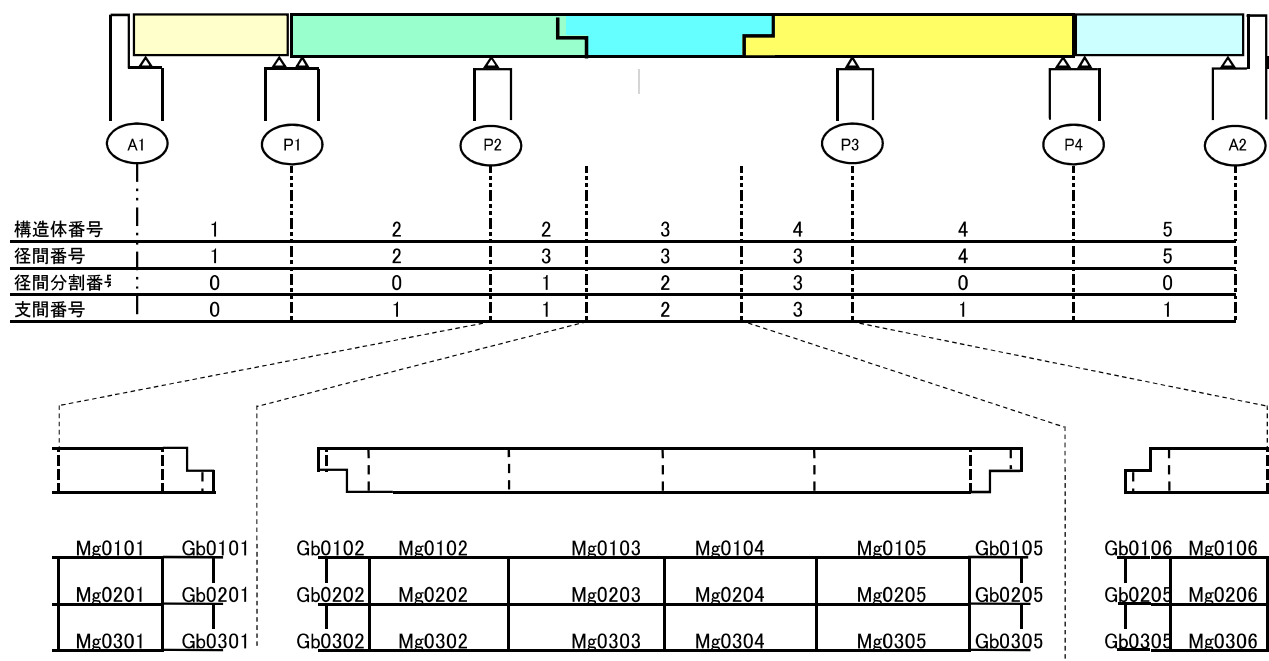
- ・上部構造付き落橋防止システムと橋脚・橋台等の天端拡幅部が混在する場合は、上部構造に取り付いているものを優先する。



付図－１．２ 要素番号例（その１６）

・ゲルバー部

a) 標準例



注：Mg0101 の要素には，Gb0101 の要素を含む。つまり，ゲルバー要素 Gb0101 では，ゲルバー要素として損傷程度を評価する。一方，主桁要素 Mg0101 では，ゲルバー要素 Gb0101 を含めて損傷程度を評価する。他のゲルバー要素において同じ。

付図－１．２ 要素番号例（その１７）

・ P C 定着部

P C 定着部の要素番号は，縦締め→横桁横締め→床版横締めの順番で付与する。

- ・ 横桁横締め，床版横締めが無い場合は，要素番号は付与しない。
- ・ P C 連結桁部の後打ちコンクリート部は横桁として扱うものの，P C 横締め定着部に起因する損傷はP C 定着部としても記録を行うため，番号の付与を行う。
- ・ 部材位置が異なる場合の要素番号の前 2 桁は，10 番単位で切り上げる。

例：縦締め 0101, 0202, … 0801, …

横締め 1101, 1201, … 1801, … (0901 からとはしない。)

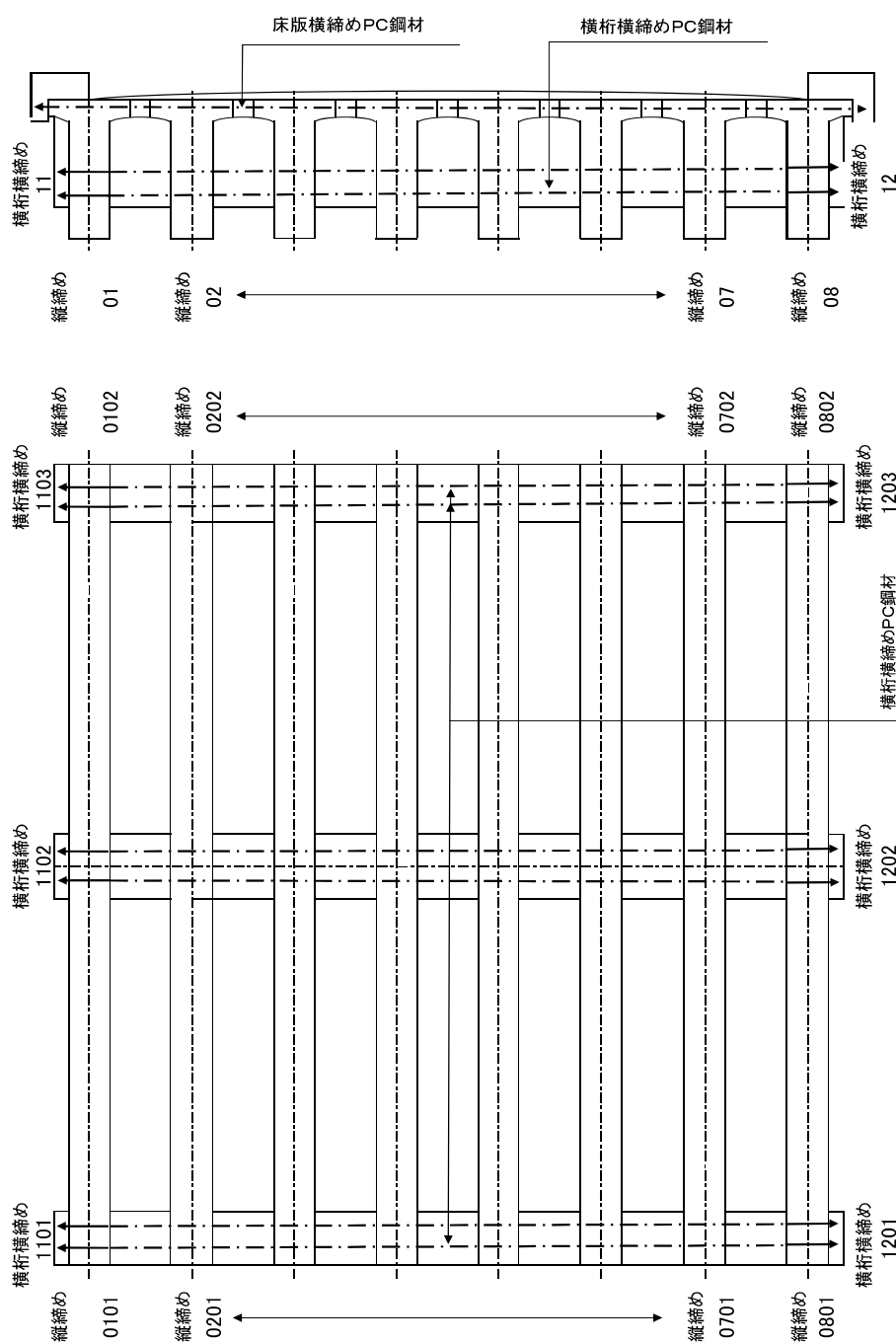
床版横締め 2101, 2201, … (1901 からとはしない。)

- ・ 一般的な構造形式と P C 定着部との関係は，次表のとおりである。

構造形式		定 着 部		
		縦締め	横締め	
			横桁	床板
プレテン	床 版 橋	△	△	—
	中空床版橋	△	△	—
	T 桁 橋	△	○	△
ポステン	中空床版橋	△	—	—
	T 桁 橋	△	○	△
	箱 桁 橋	△	○	△

注：○…定着位置が確定できる △…定着位置が確定できない —…定着がない

a) プレテン・ポステンT桁橋（横桁）の例

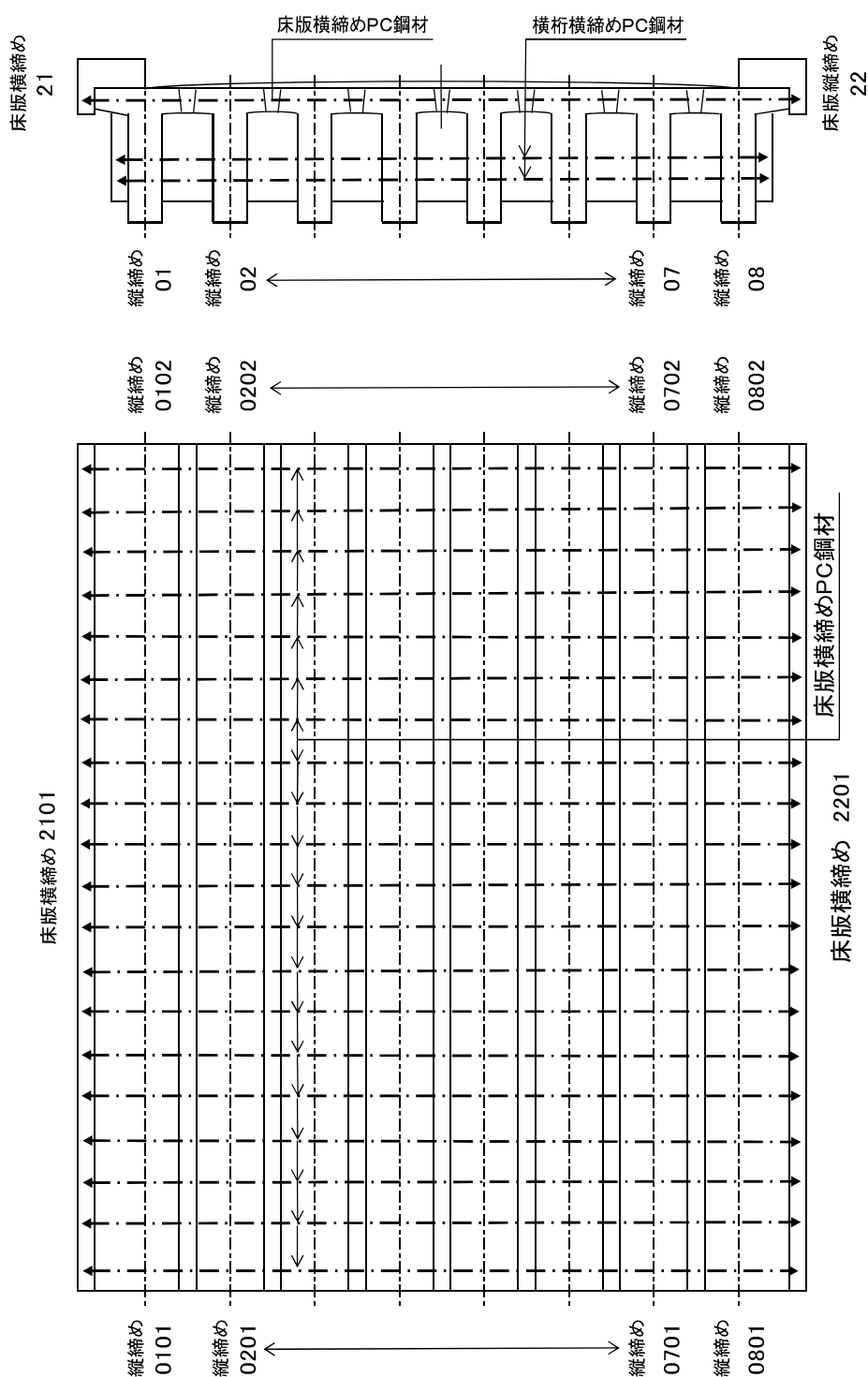


※地覆水切りが上床版までの打ち下ろしのため、横桁位置が確認できる。

※本事例では、縦締めが01番から08番までであるため、横桁横締めは11番から始める。

また、横桁横締めの下2桁は、横桁の部材番号と同じとする。

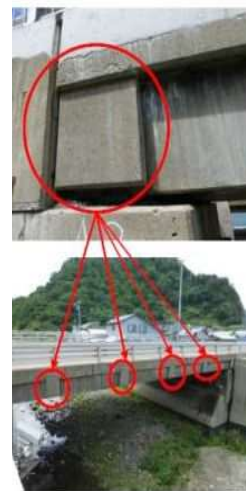
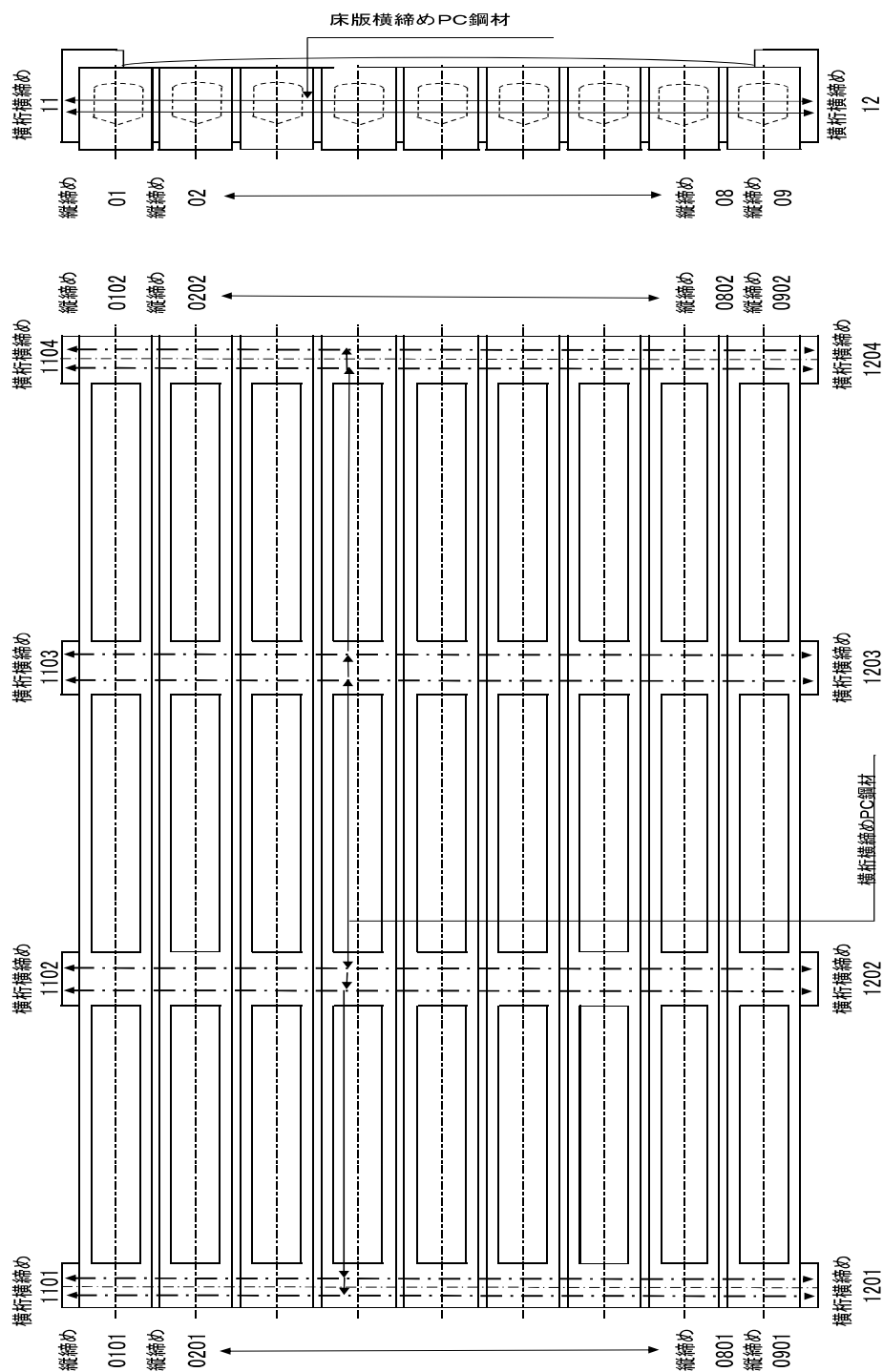
b) プレテン・ポステンT桁橋（床版）の例



※通常地覆水切りが上床版まで打ち下ろされているため、床版位置が確認できない。

※ 本事例では、縦締めが01版から08版まで、横桁横締めが11番から12番までであるため、床版は21番から始める。また、床版横締めの下2桁は、床版の定着位置が確定できないため箇所数を1とする。

c) プレテン中空床版橋（横桁横締め位置が確定できる場合）の例

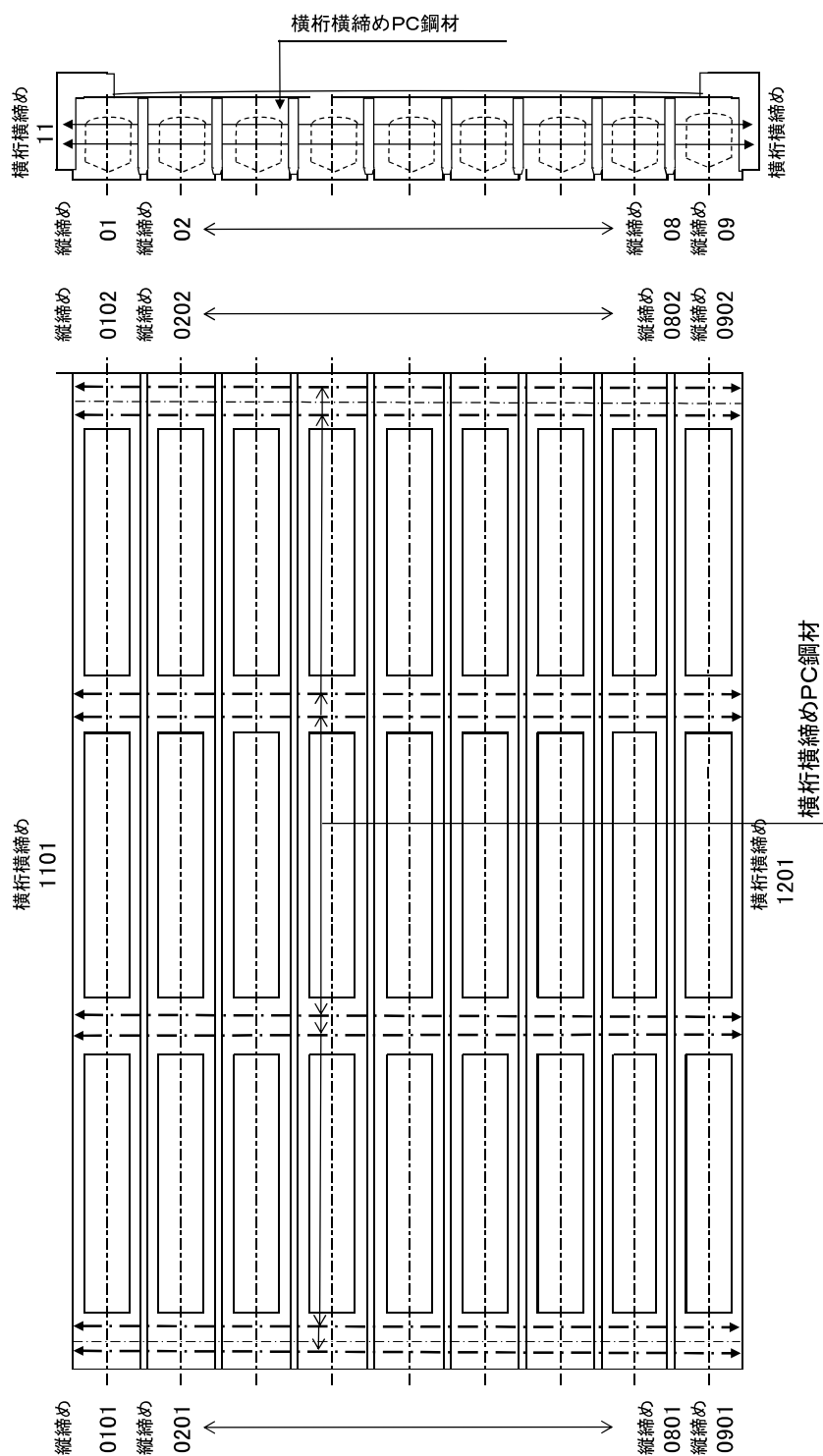


覆水切りが桁下まで打ち下ろさないため、横桁位置が確認する。

※本事例では、縦締めが01番から09番までであるため、横桁横締めは11番から始める。

また、横桁横締めの下2桁は、横桁の部材番号と同じとする。

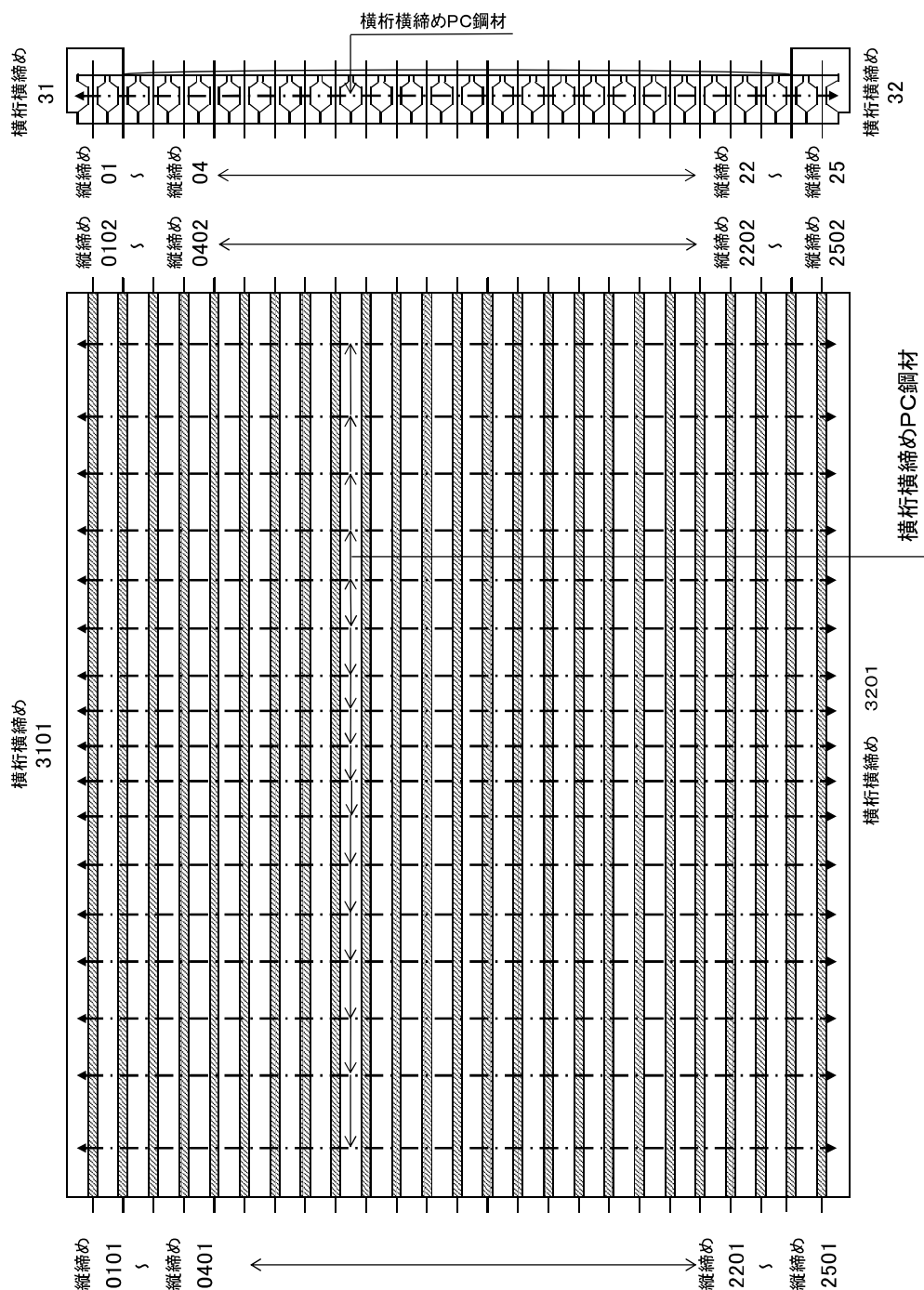
d) プレテン中空床版橋（横桁横締め位置が確定できない場合）の例



※地覆水切りが桁下まで打ち下ろされているため、横桁位置が確認できない。

※ 本事例では、縦締めが0 1番から0 9番までであるため、横桁横締めは1 1番から始める。
また、横桁横締めの下2桁は、横桁の定着位置が確定できないため箇所数を1とする。

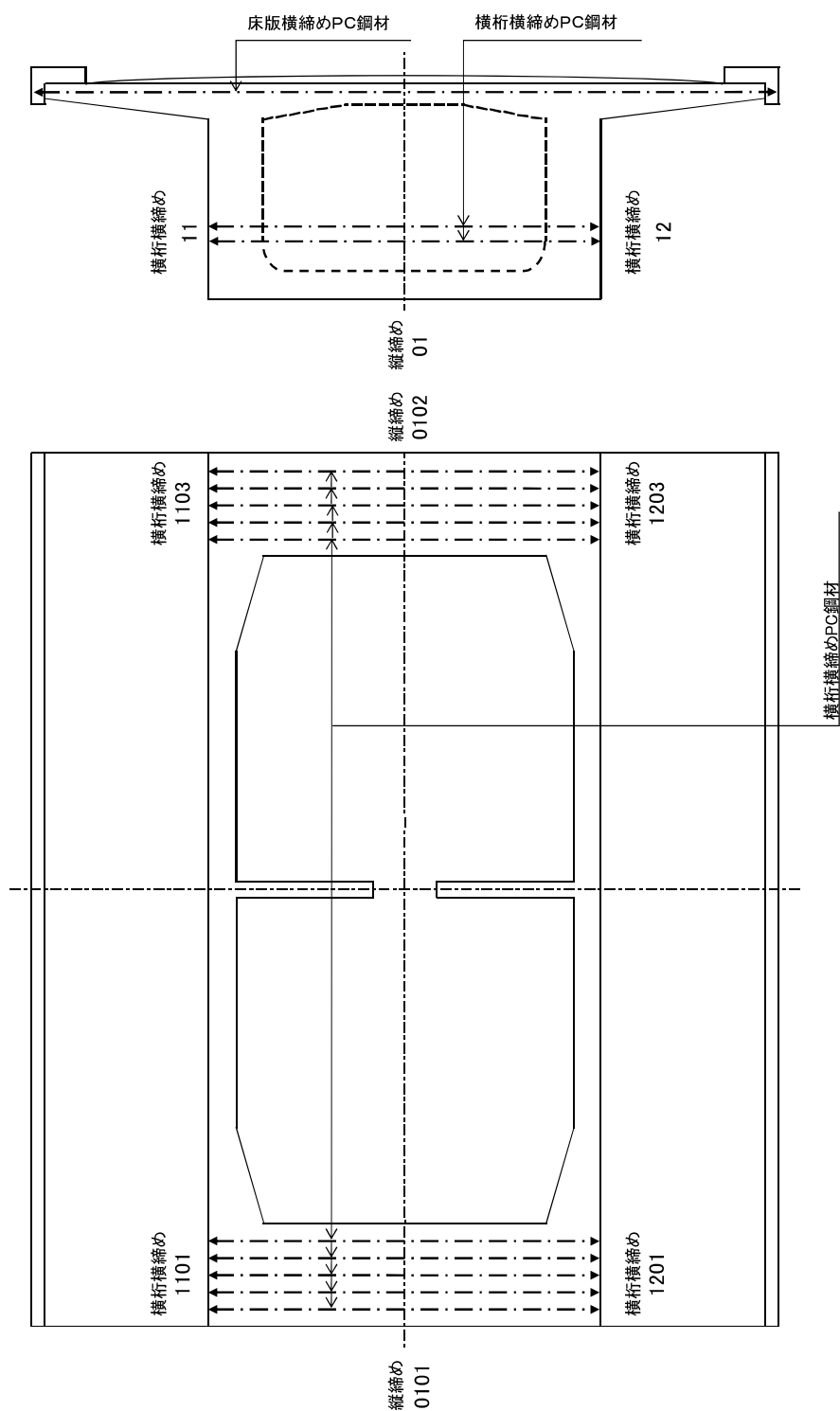
e) プレテン床版橋（横桁横締め位置が確定できない場合）の例



※通常地覆水切りが桁下まで打
ち下ろされているため、横桁位置
が確認できない。

※ 本事例では、縦締めが01番から25番までであるため、横桁横締めは31番から始める。
また、横桁横締めの下2桁は、横桁の定着位置が確定できないため箇所数を1とする。

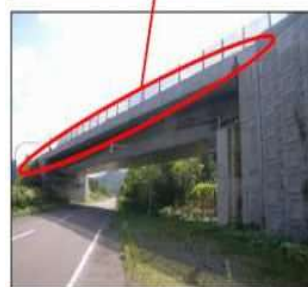
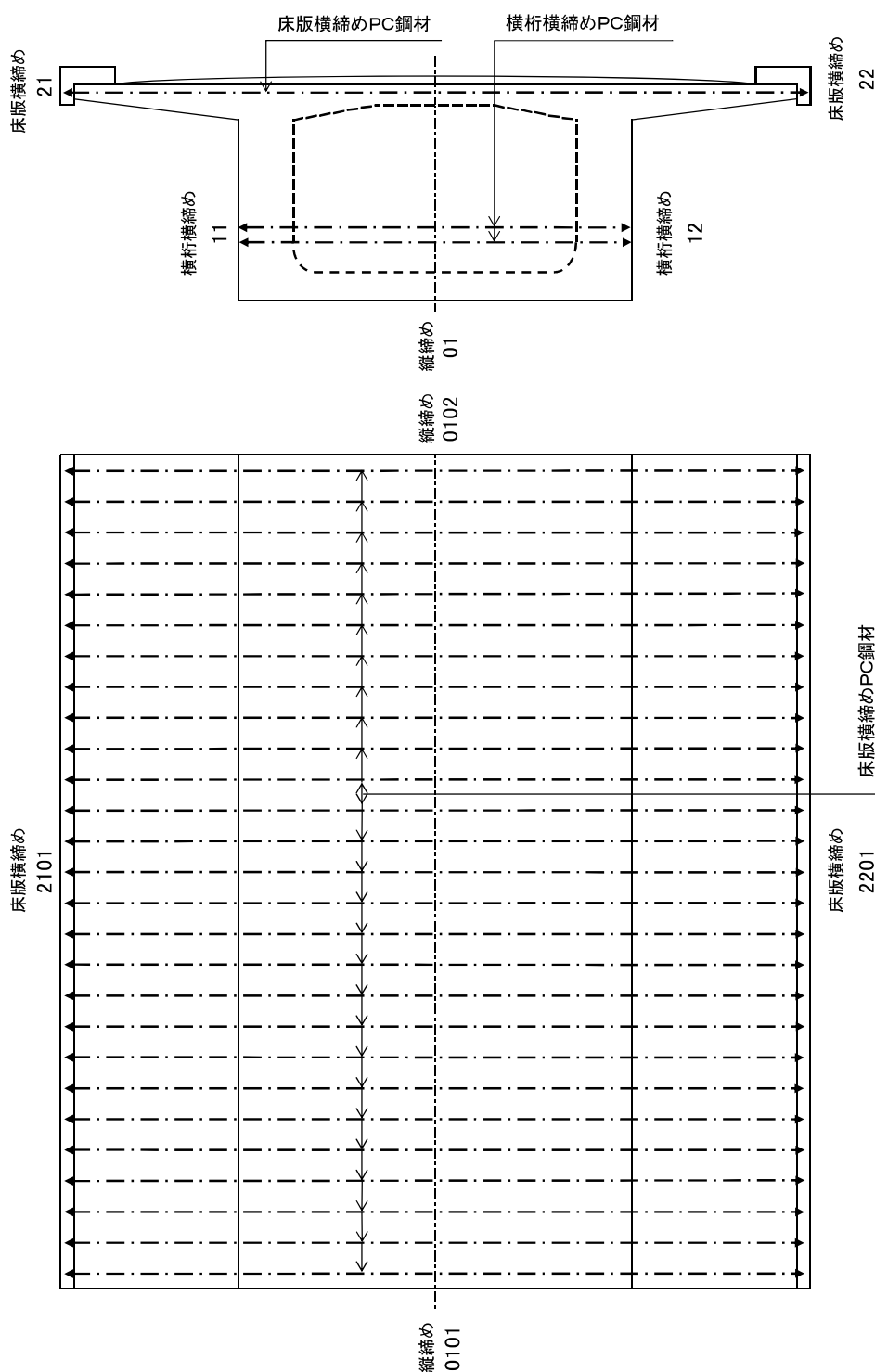
f) ポステン箱桁橋（横桁）の例



※地覆水切りが上床版までの打ち下ろしのため、横桁位置が確認できる。

※ 本事例では、縦締めが0 1番とし、横桁横締めは1 1番から始める。
また、横桁横締めの下2桁は、横桁の部材番号と同じとする。

g) ポステン箱桁橋（床版）の例

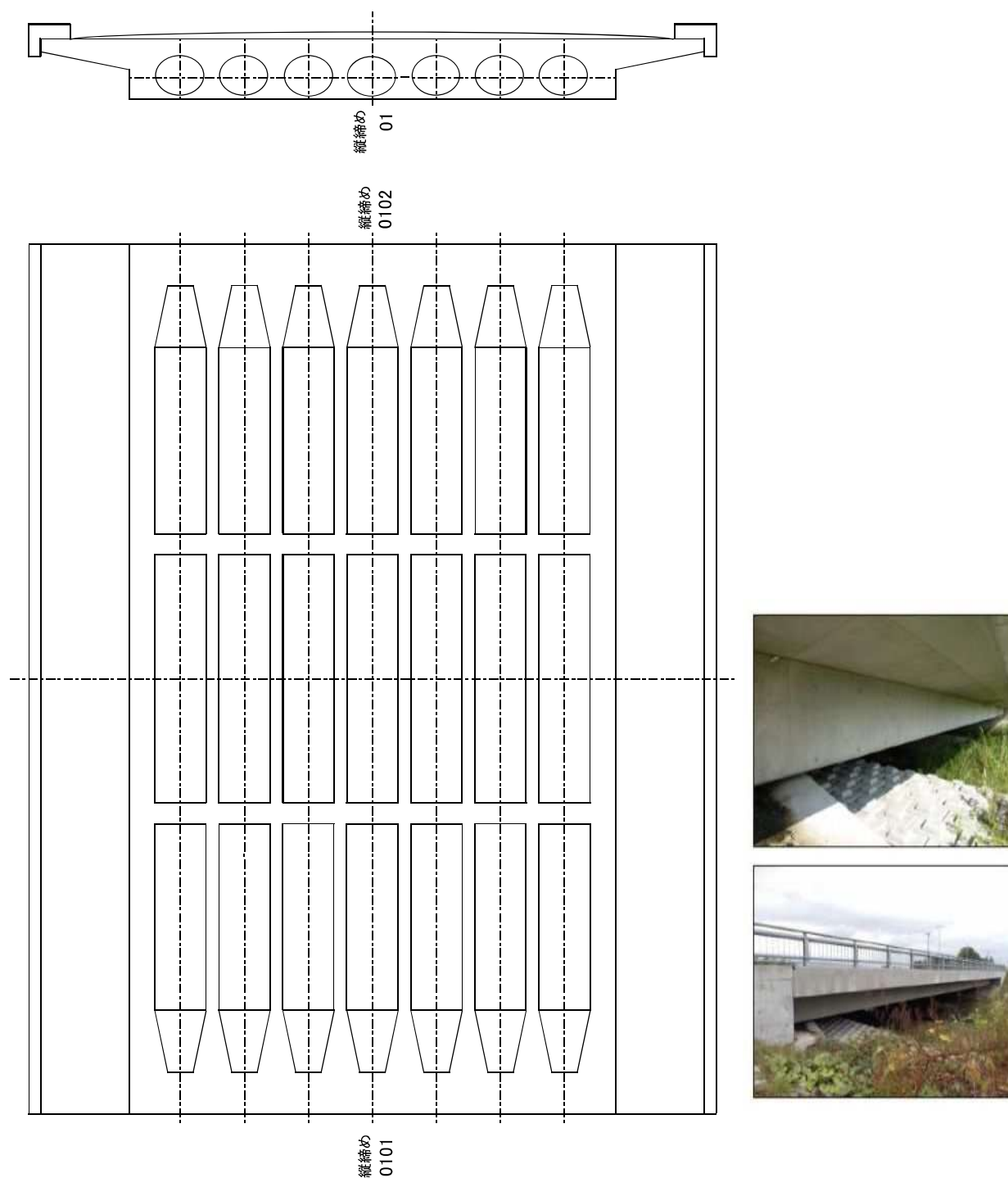


※通常地覆水切りが上床版まで打ち下ろされているため、床版位置が確認できない。

※ 本事例では、縦締めが01番から始まり、横桁横締めが11番から12番までであるため、床版は21番から始める。

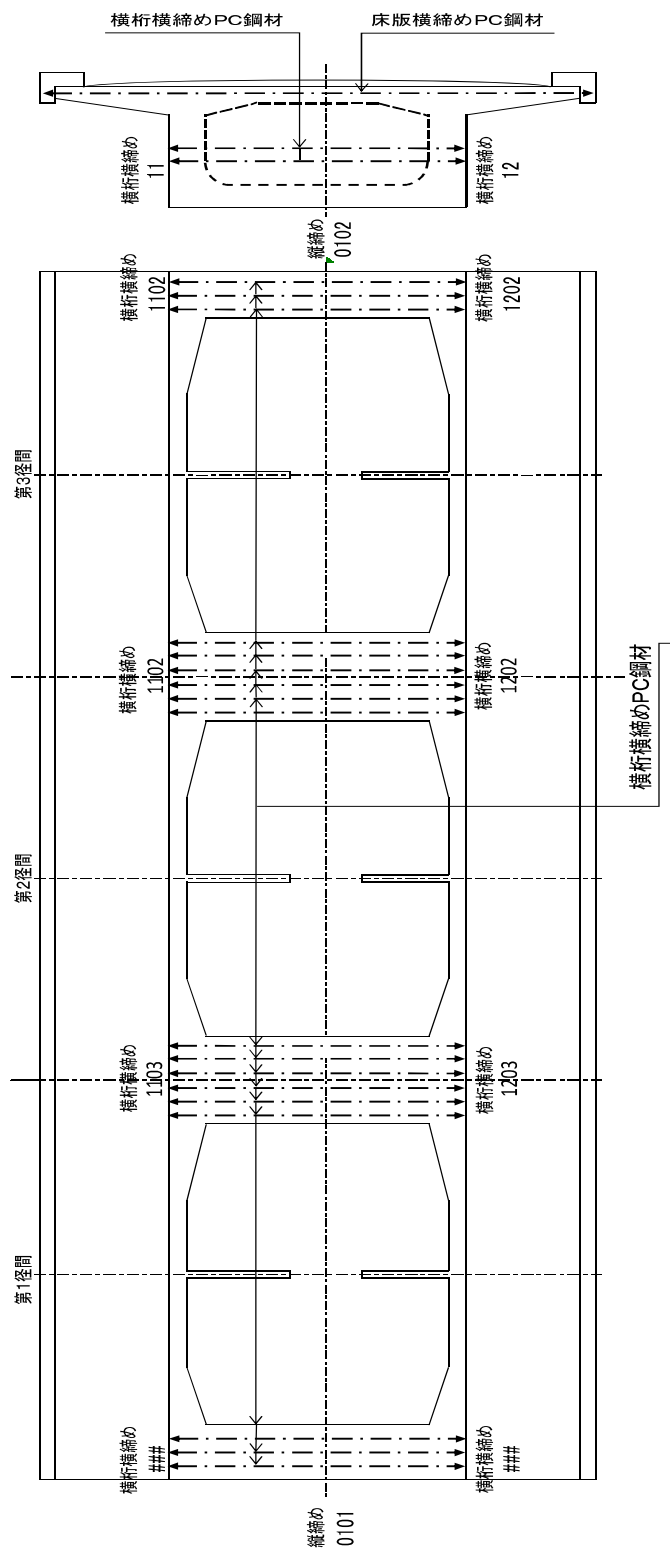
また、床版横締めの下2桁は、床版の定着位置が確定できないため箇所数を1とする。

h) ポステン中空床版橋の例



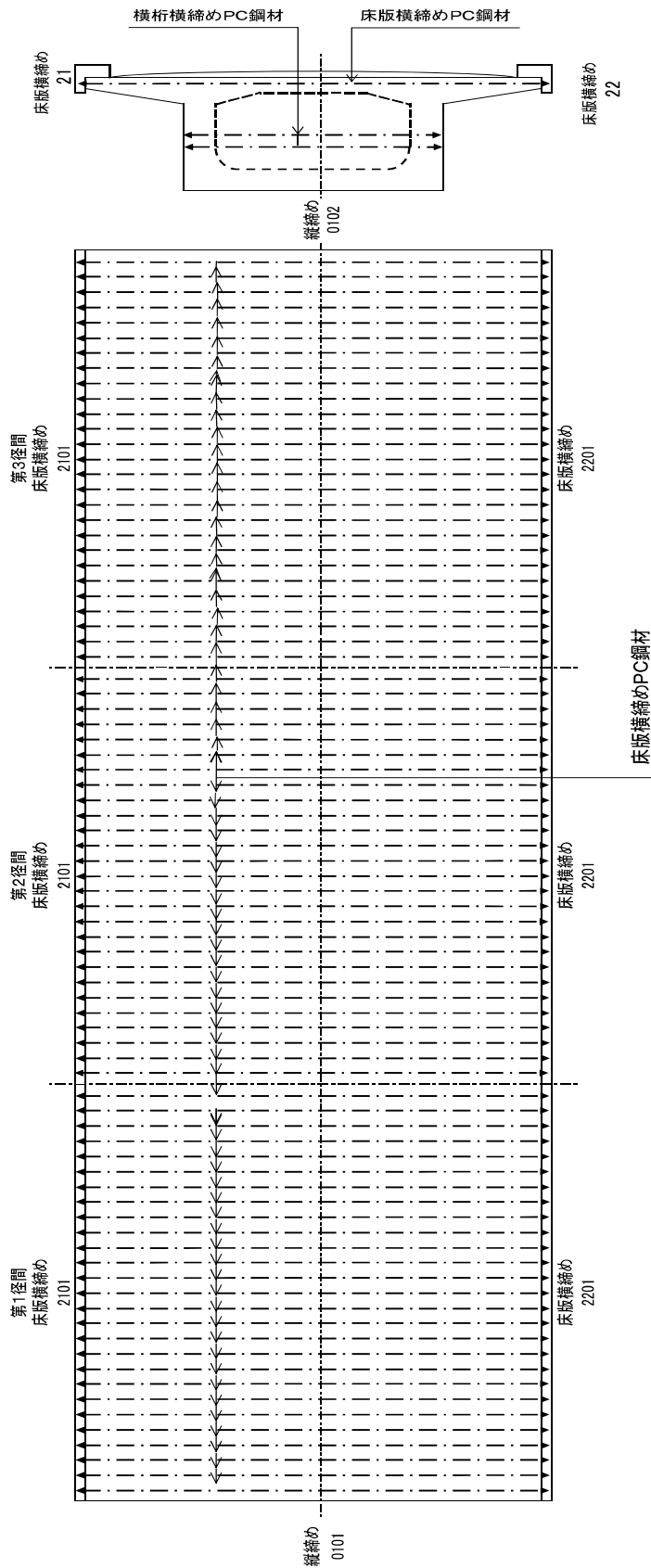
※ ポステン中空床版橋では、横桁・床版横締めはないため、縦締めのみ要素番号を設定し01番とする。

i) ポステン 3 径間連続箱桁橋 (横桁)



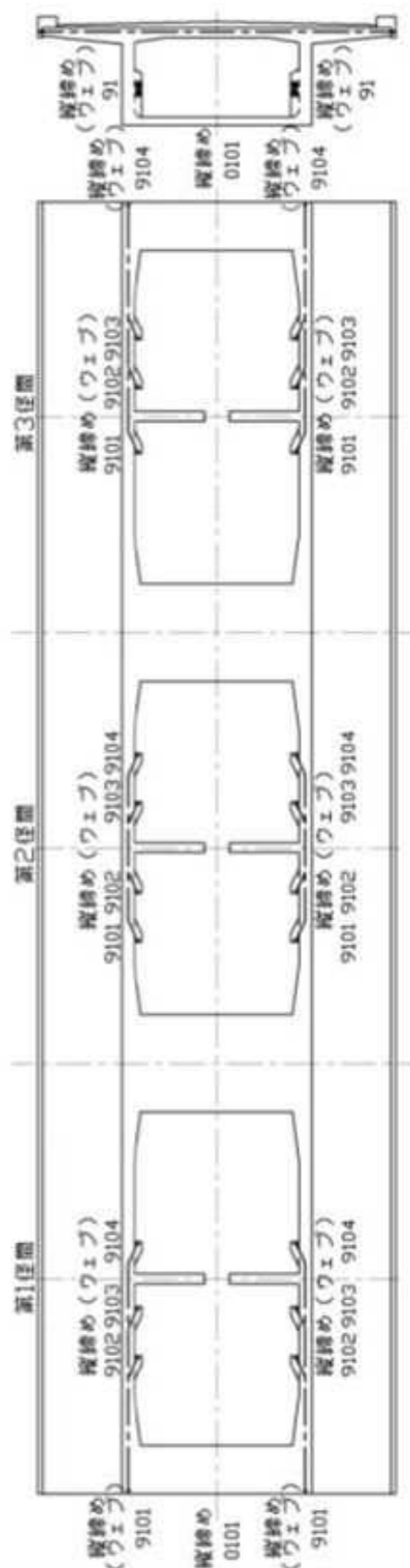
※地覆水切りが上床版までの打ち下ろしのため、横桁位置が確認できる。本事例では、縦締めは0 1番とし、横桁横締めが1 1番から始める。また、横桁横締めの下2桁は、横桁の部材番号と同じとする。第1径間：1101, 1201, 1103, 1203 第2径間・第3径間：1102, 1202

j) ポステン 3 径間連続箱桁橋（床版）の例



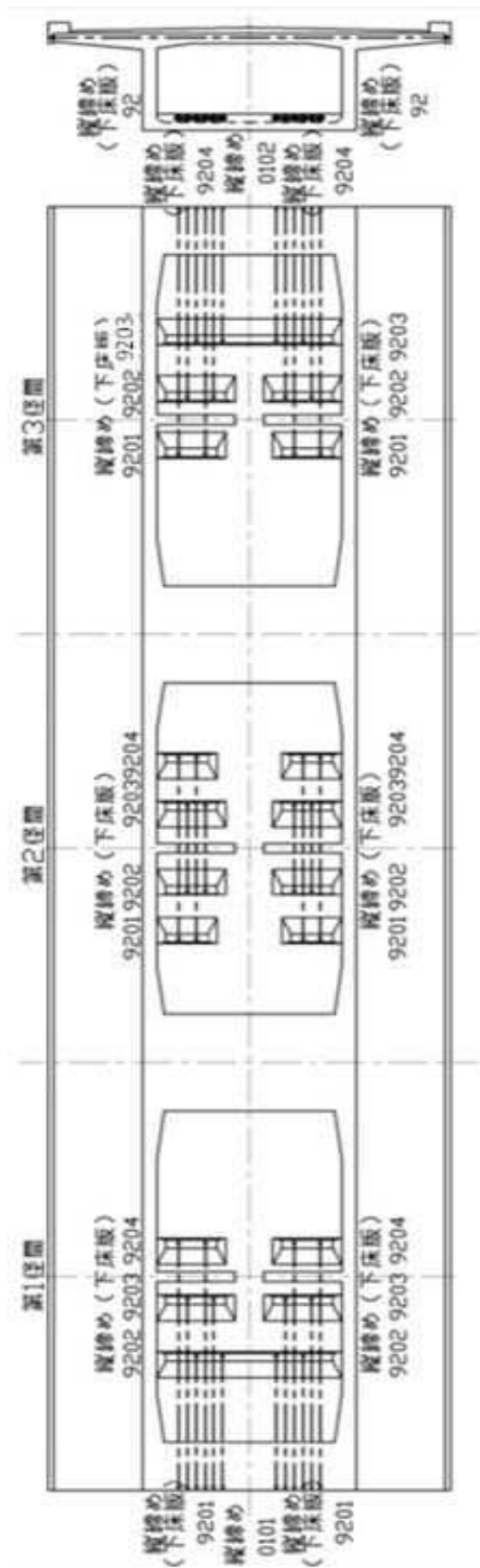
※本事例では、縦締めは0 1 番とし、横桁横締めが1 1 番から1 2 番までであるため、床版は2 1 番から始める。また、床版横締めの下2 桁は、床版の定着位置が確定できないため箇所数を1 とする。

k) ポステン 3 径間連続箱桁橋（箱桁内・縦締めウェブ）の例



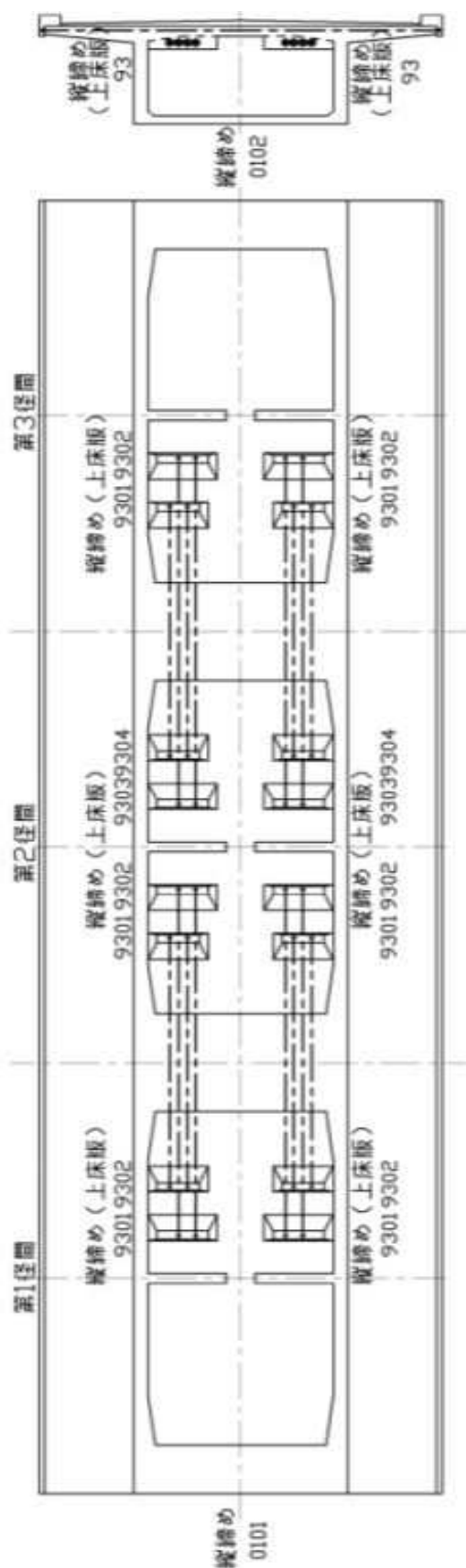
※本事例では、箱桁内の縦締めであるため、90番台とし、ウェブは91番とする。縦締めウェブの下2桁は、起点側からの定着突起の箇所数とする。このとき、両桁端部は箱桁内の定着突起状況を確認して要素番号を付けるか決定する。本事例では、端部に定着があると判断している。

1) ポステン 3 径間連続箱桁橋（箱桁内・縦締め下床版）の例



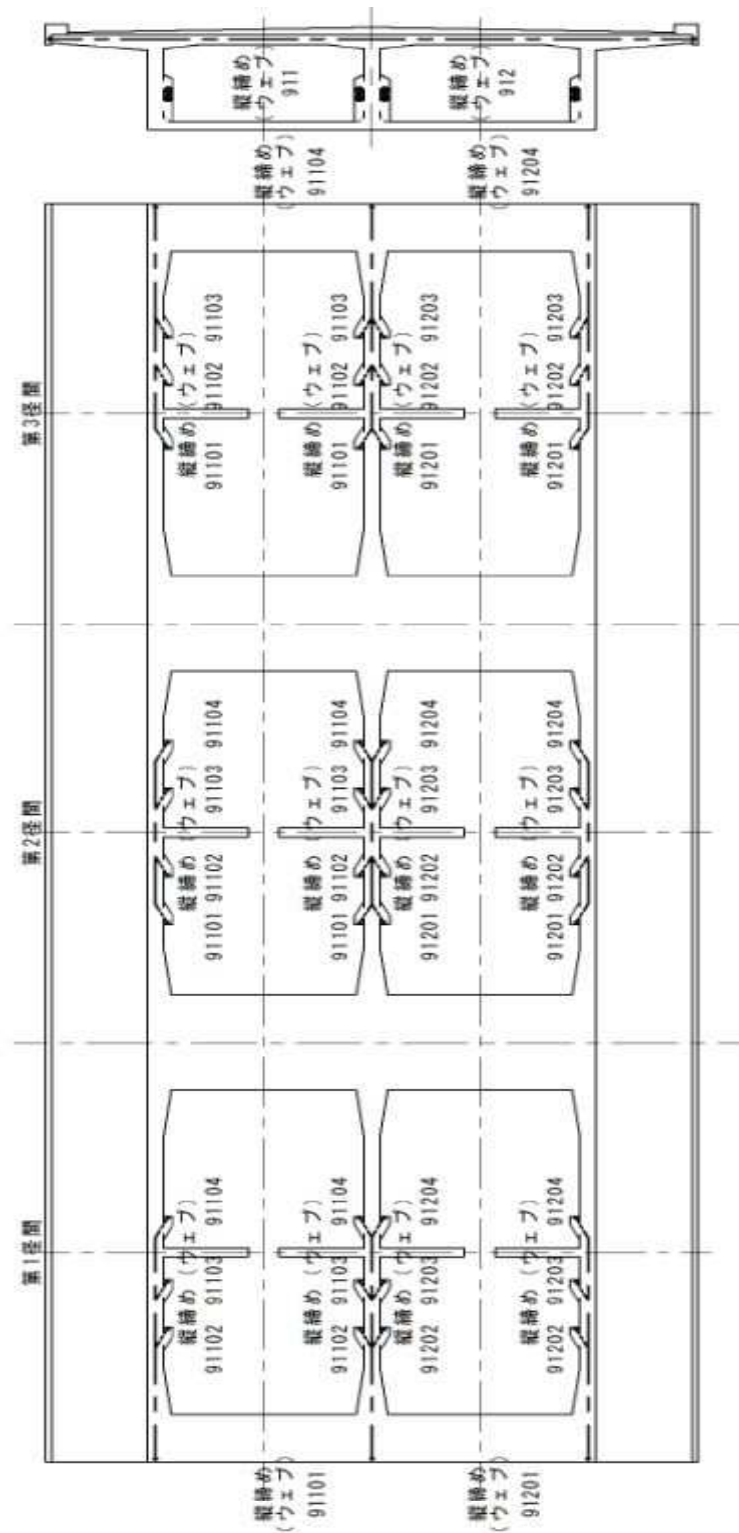
※本事例では、箱桁内の縦締めであるため、90番台とし、下床版は92番とする。縦締め下床版の下2桁は、起点側からの定着突起の箇所数とする。このとき、両桁端部は箱桁内の定着突起状況を確認して要素番号を付けるか決定する。本事例では、端部に定着があると判断している。

m) ポステン 3 径間連続箱桁橋（箱桁内・縦締め上床版）の例



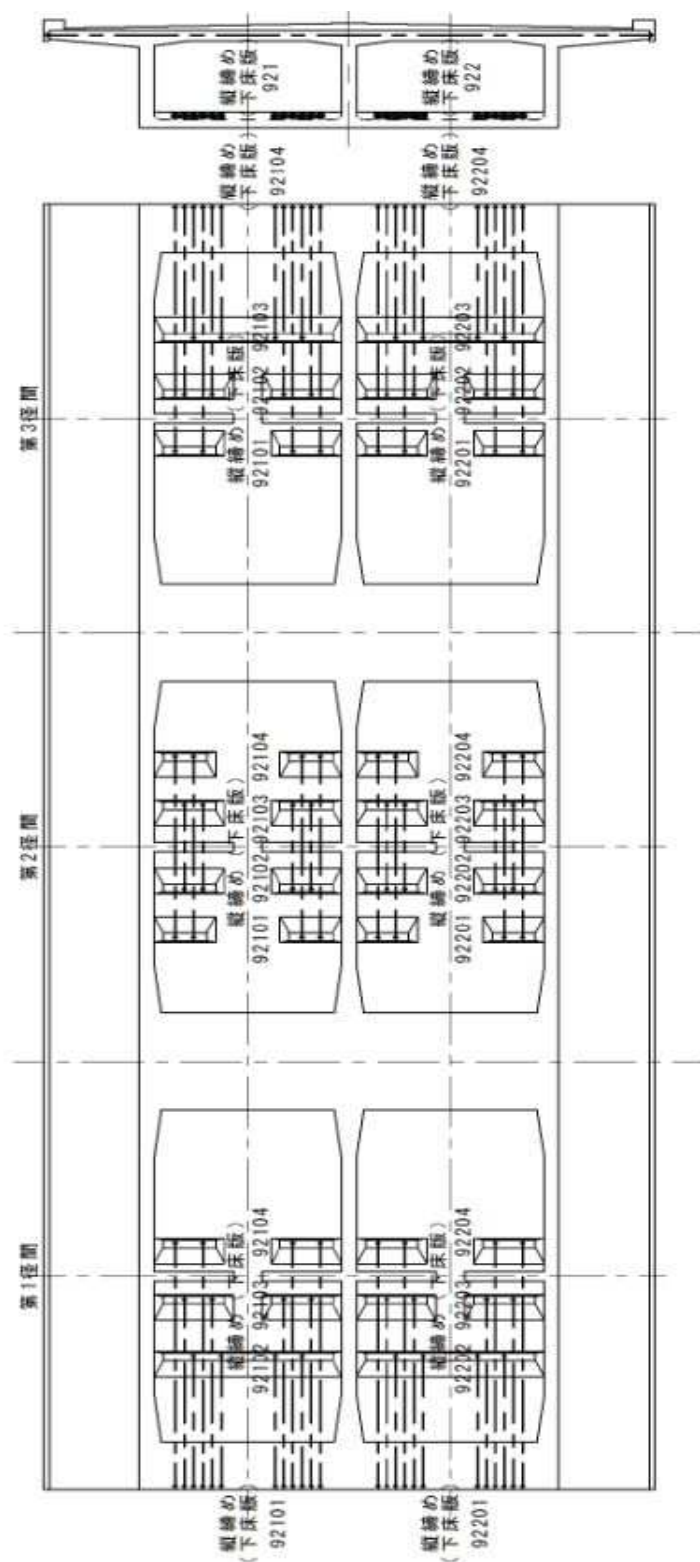
※本事例では、箱桁内の縦締めであるため、90番台とし、上床版は93番とする。縦締め上床版の下2桁は、起点側からの定着突起の箇所数とする。

n) ポステン 3 径間連続箱桁橋（多重箱桁の場合・縦締めウェブ）の例



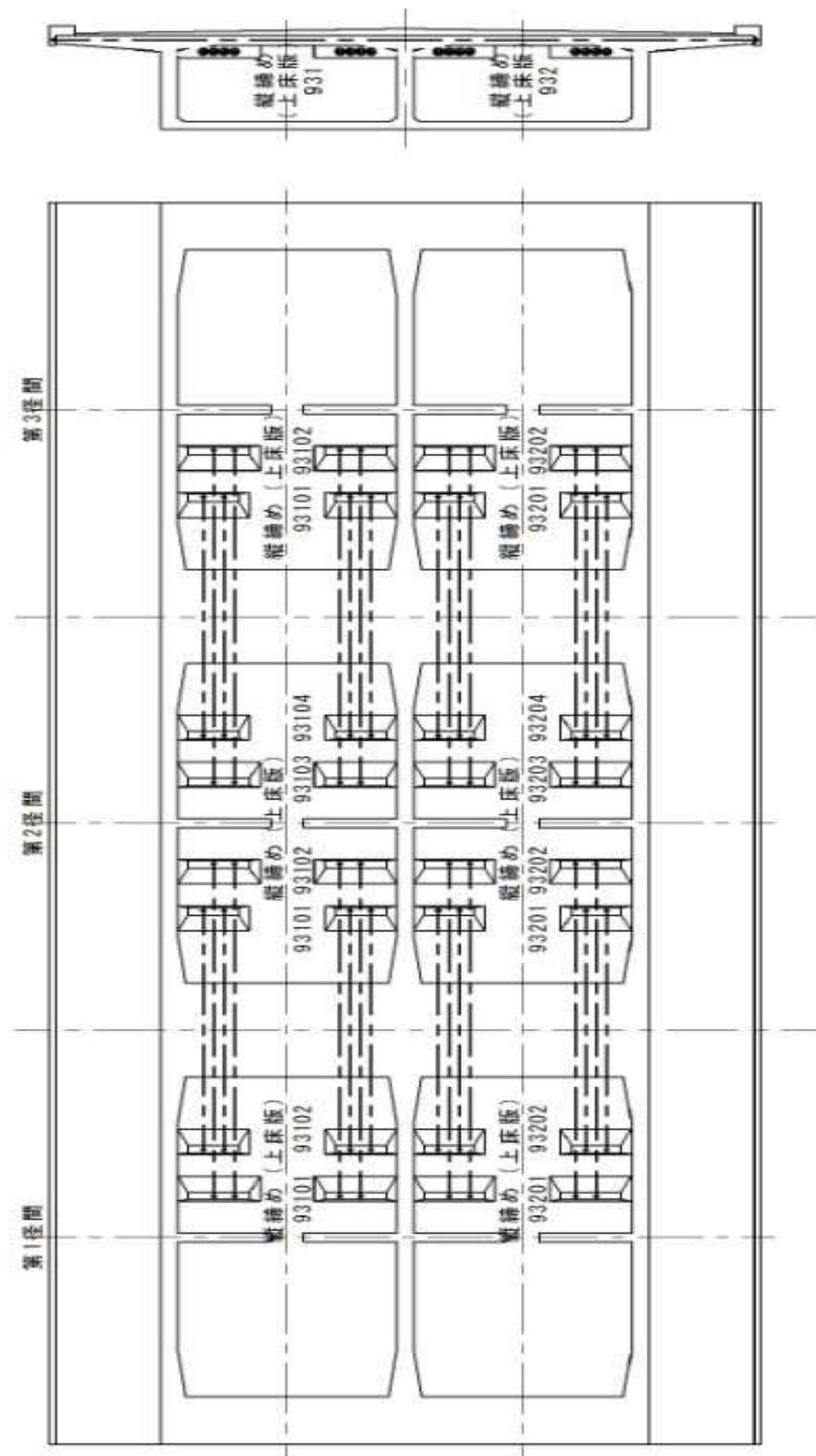
※多重箱桁の場合は、要素番号の頭の2桁を900番台とし、ウェブは910番とする（要素番号が5桁となる）。縦締めウェブの下2桁は、起点側からの定着突起の箇所数とする。本事例では、端部定着があると判断している。

o) ポステン 3 径間連続箱桁橋（多重箱桁の場合・縦締め下床版）の例



※多重箱桁の場合は、要素番号の頭の2桁を900番台とし、下床版は920番とする（要素番号が5桁となる）。縦締め下床版の下2桁は、起点側からの定着突起の箇所数とする。本事例では、端部定着があると判断している。

p) ポステン 3 径間連続箱桁橋（多重箱桁の場合・縦締め上床版）の例

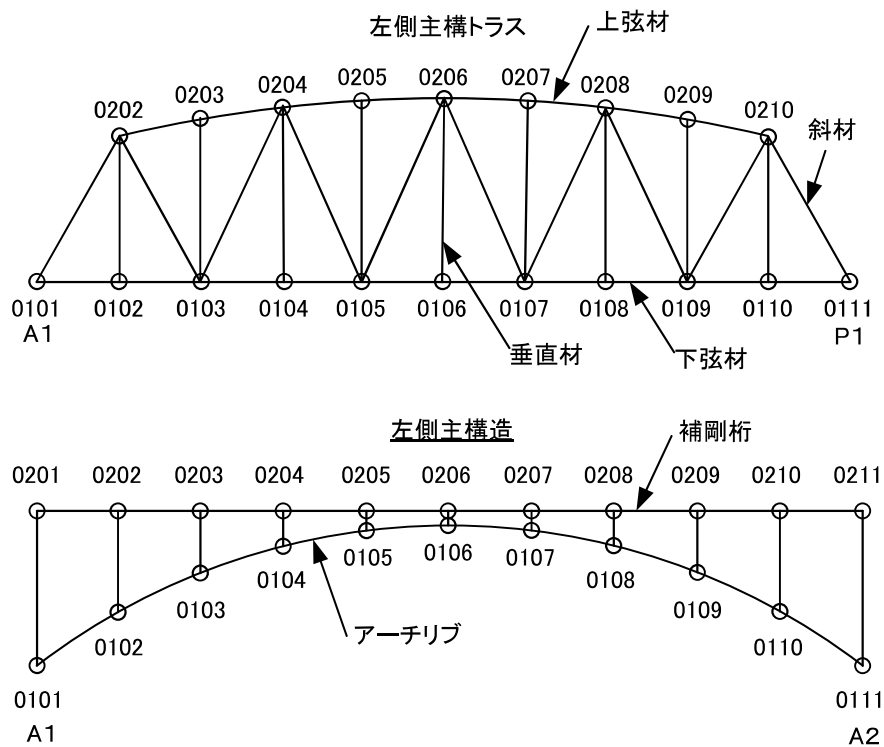


※多重箱桁の場合は、要素番号の頭の2桁を900番台とし、上床版は930番とする（要素番号が5桁となる）。縦締め上床版の下2桁は、起点側からの定着突起の箇所数とする。

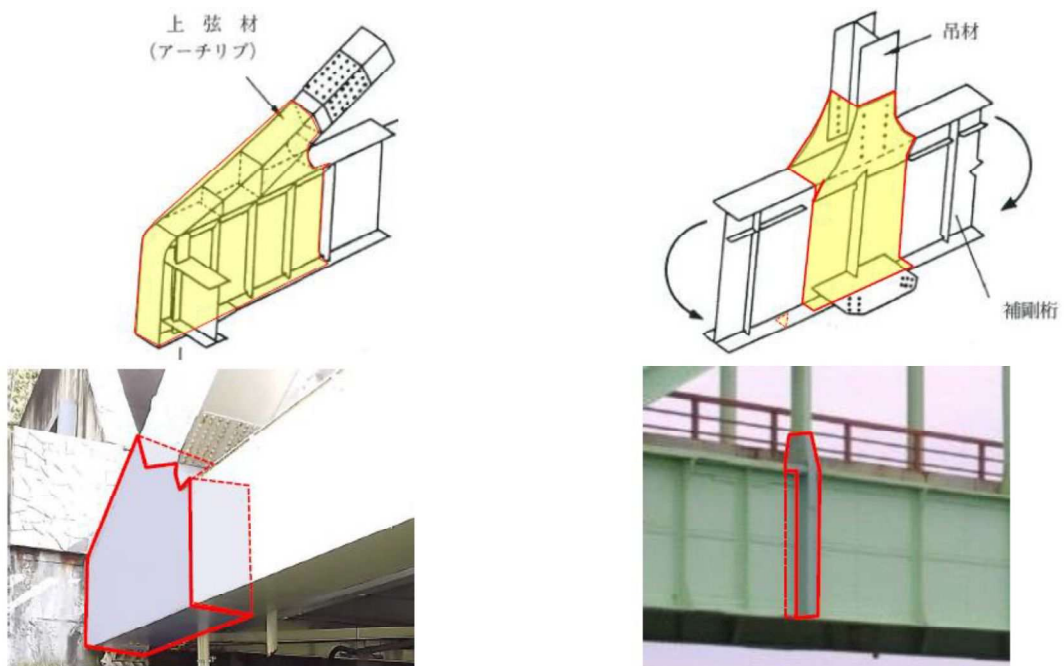
付図－1. 2 要素番号例（その18）

- ・アーチ, トラスの格点

トラス・アーチ橋の格点部の要素番号例



a) アーチ橋の格点部の例

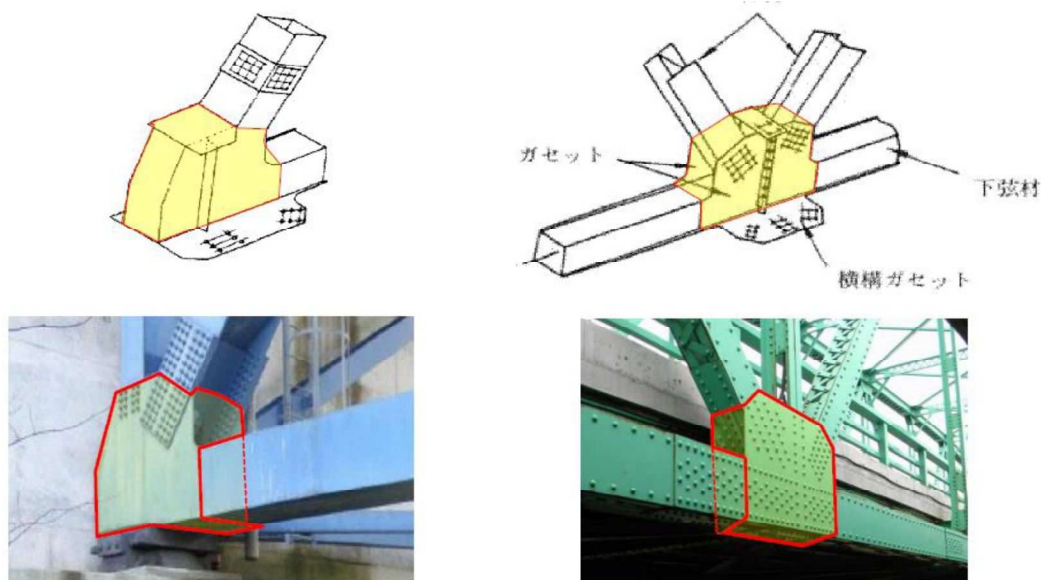


b) ニールセンローゼ橋の格点部の例

- ・ニールセンローゼ橋では、格点部の範囲が明確ではないため、目安として、ケーブルを中心アーチリブ、補剛桁の幅程度の範囲を格点部とする。



c) トラス橋の格点部の例



付図－１．２ 要素番号例（その１９）

- ・トラスの斜材，垂直材のコンクリート埋込部
- ・アーチの吊り材等のコンクリート埋込部

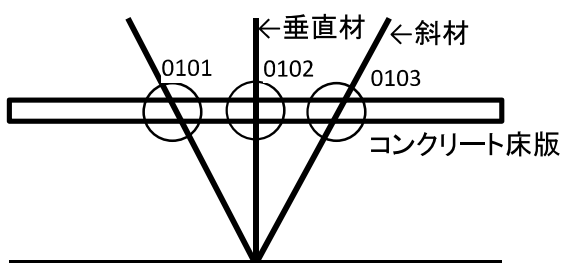
コンクリート埋込部周辺に発生している目視で確認できる，コンクリート境界面における滞水等による腐食や埋込部から滲出している錆汁・漏水等を，コンクリート埋込部における損傷として扱う。

なお，コンクリート埋込部は鋼部材であるため，「埋込部から滲出している錆汁・漏水」は，「⑧漏水・遊離石灰」ではなく，「⑳漏水・滞水」（錆汁は㉑その他）として扱う。

また，箱抜き処理が行われている箇所は，コンクリート埋込部とは扱わない。

a) 斜材，垂直材のコンクリート埋込部の標準例

要素番号例



b) 箱抜き処理が行われている例

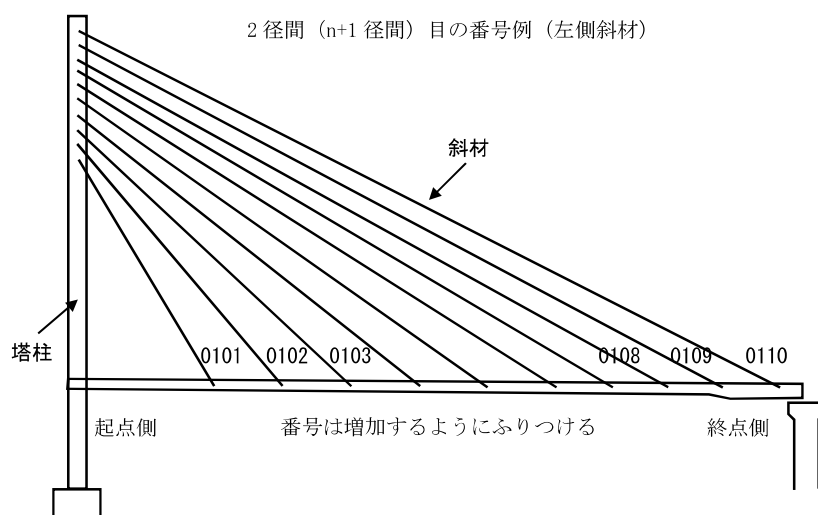
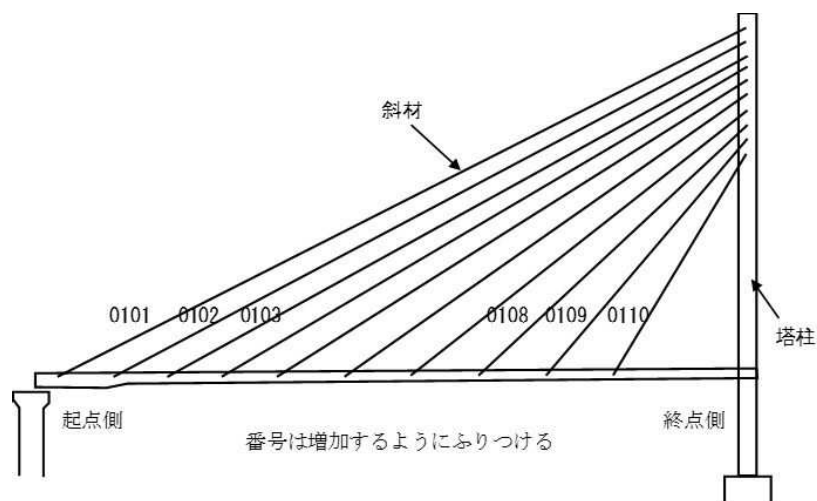
- ・箱抜き処理が行われて，斜材，垂直材への目視，打音及び触診が可能であるときは，コンクリート埋込部としない。



付図－１．２ 要素番号例（その２０）

・斜張橋斜材

- ・斜材は1本ずつ要素番号を付与する。
- ・番号は起点側から終点側へ向けて増加するようにふりつける。
- ・塔柱位置で径間が分割されるため、塔柱を境に01番から番号がふりなおされることに留意する必要がある。

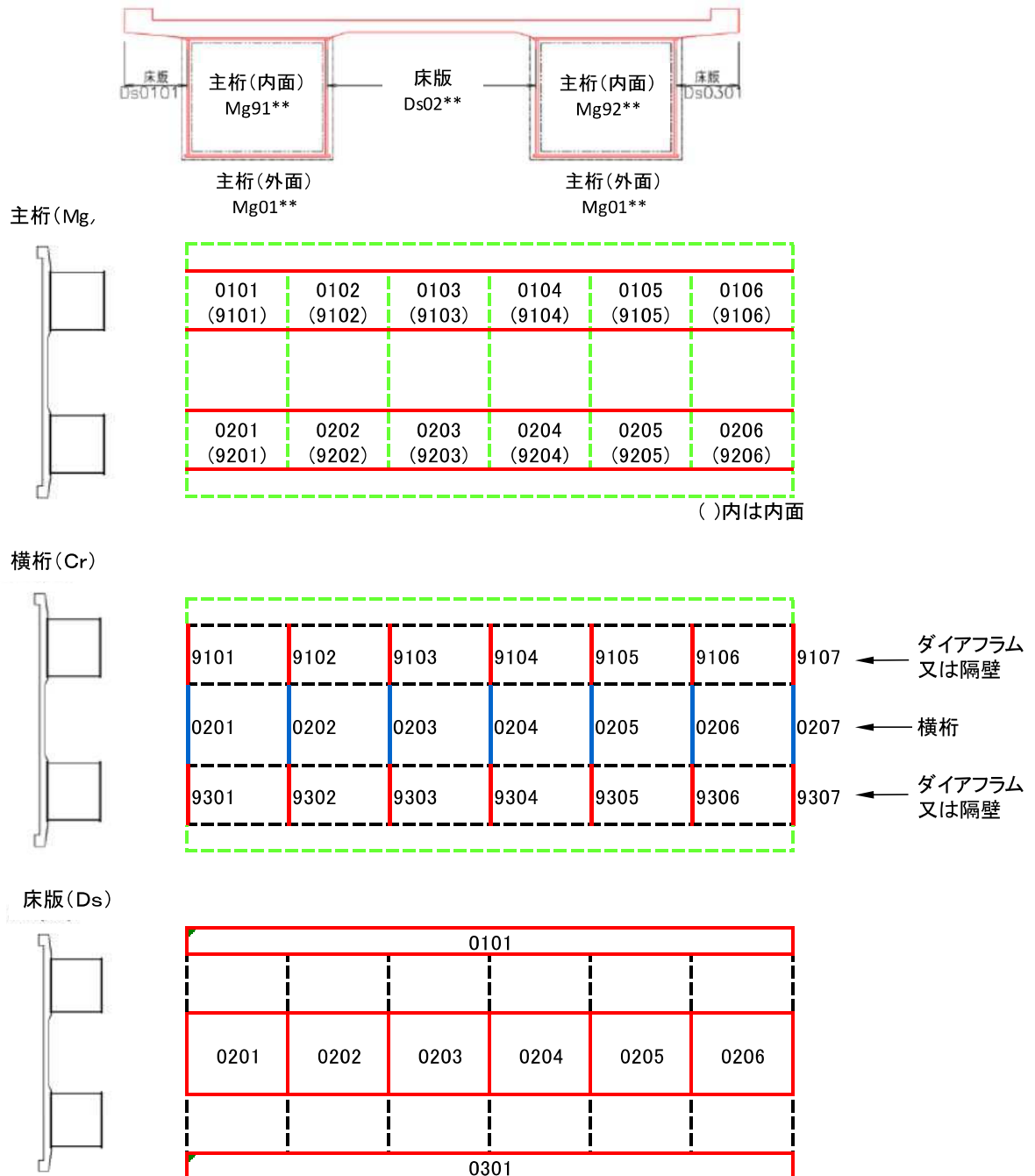


付図－1. 2 要素番号例 (その2 1)

・箱桁

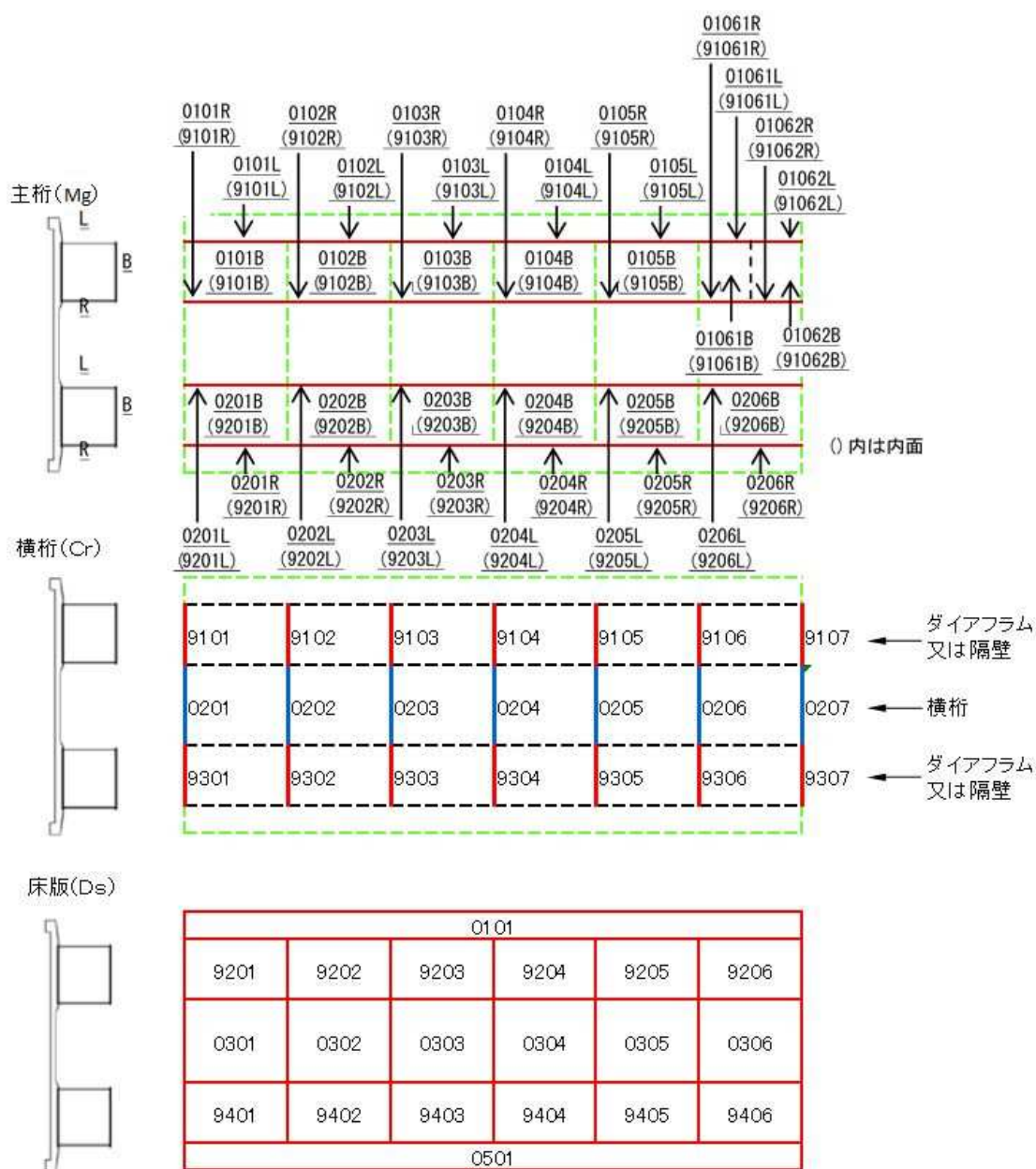
a) 閉断面箱桁（鋼桁）

- ・箱内の上フランジ部は，「主桁」とする。



b) 開断面箱桁（鋼桁），PC・RC箱桁

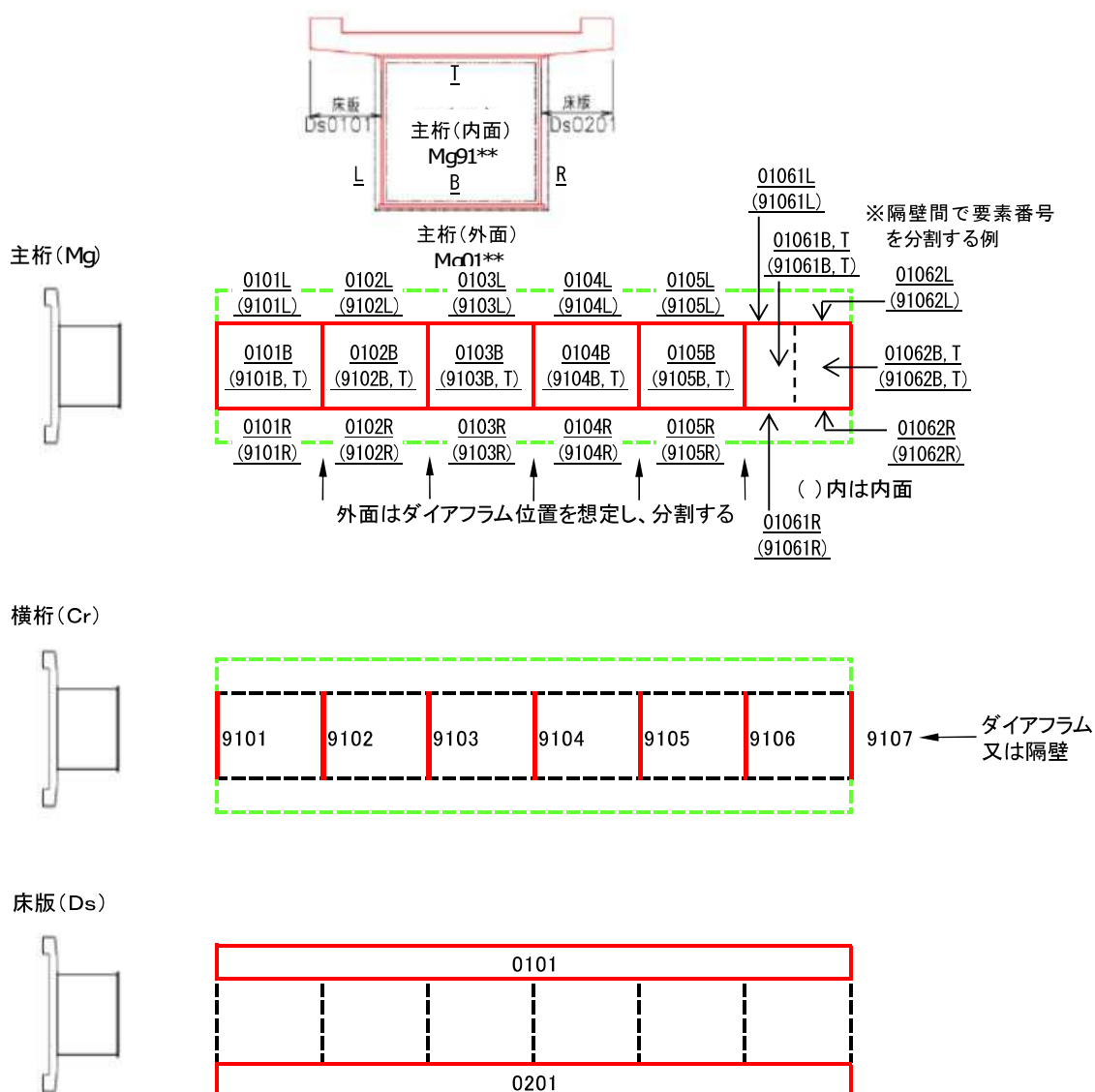
- ・箱桁の床版部は「主桁の上フランジ」ではなく、「床版」とする。
- ・PC・RC箱桁は隔壁間を5m程度の等間隔、または張出架設工法で架設された橋梁であれば1ブロックごとに要素番号を分割し、従来の要素番号の末尾に連番を追加する。また、左右ウェブと下フランジ・下床版でも要素番号を分割し、添え字を追加する。



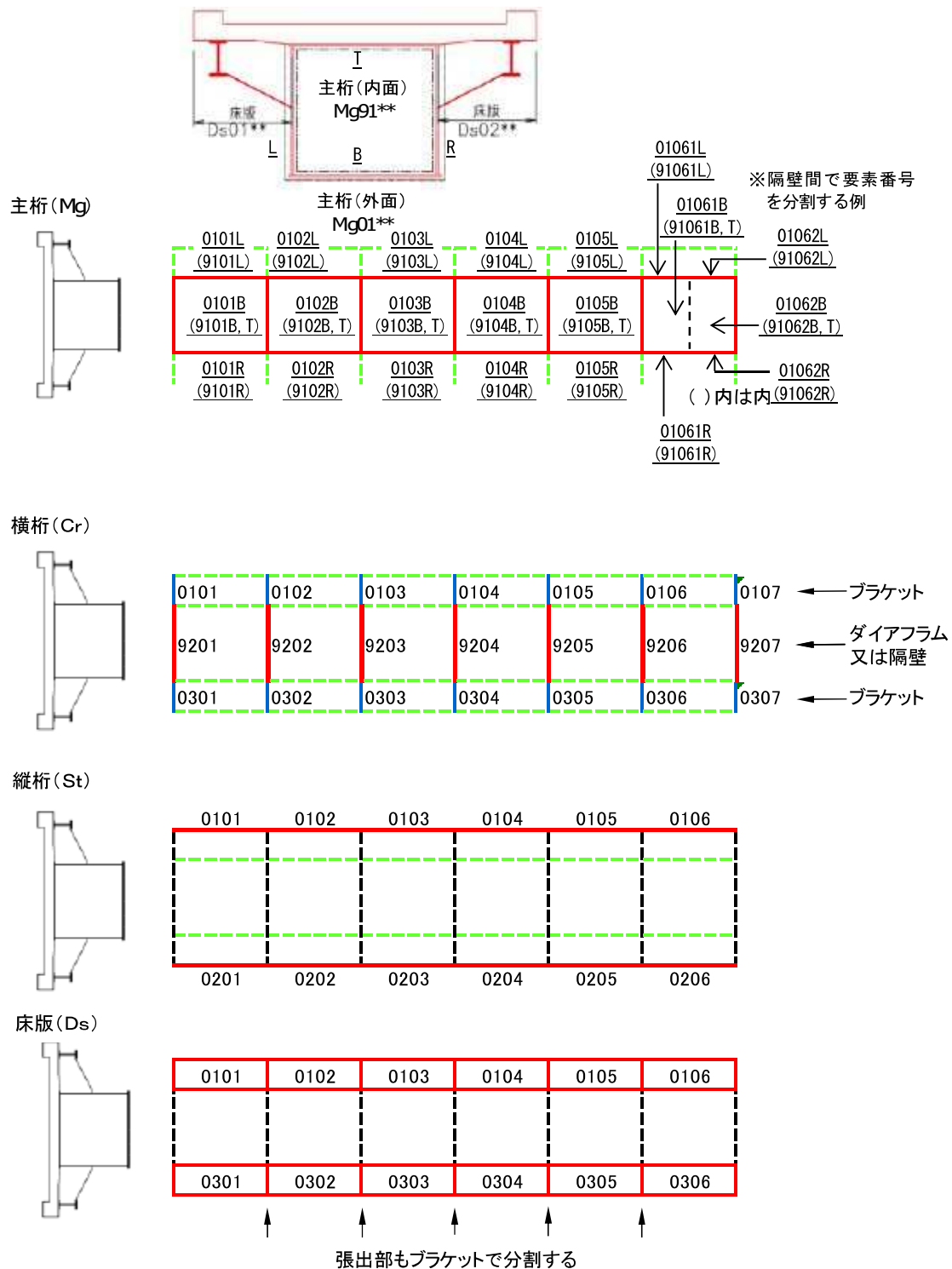
c) 1 BOX箱桁

- ・箱内の上フランジ部は、「主桁」とする。
- ・P C・R C箱桁は隔壁間を5 m程度の等間隔、または張出架設工法で架設された橋梁であれば1ブロックごとに要素番号を分割し、従来の要素番号の末尾に連番を追加する。また、左右ウェブと下フランジまたは上下床版でも要素番号を分割し、添え字を追加する。

1) ブラケット無し

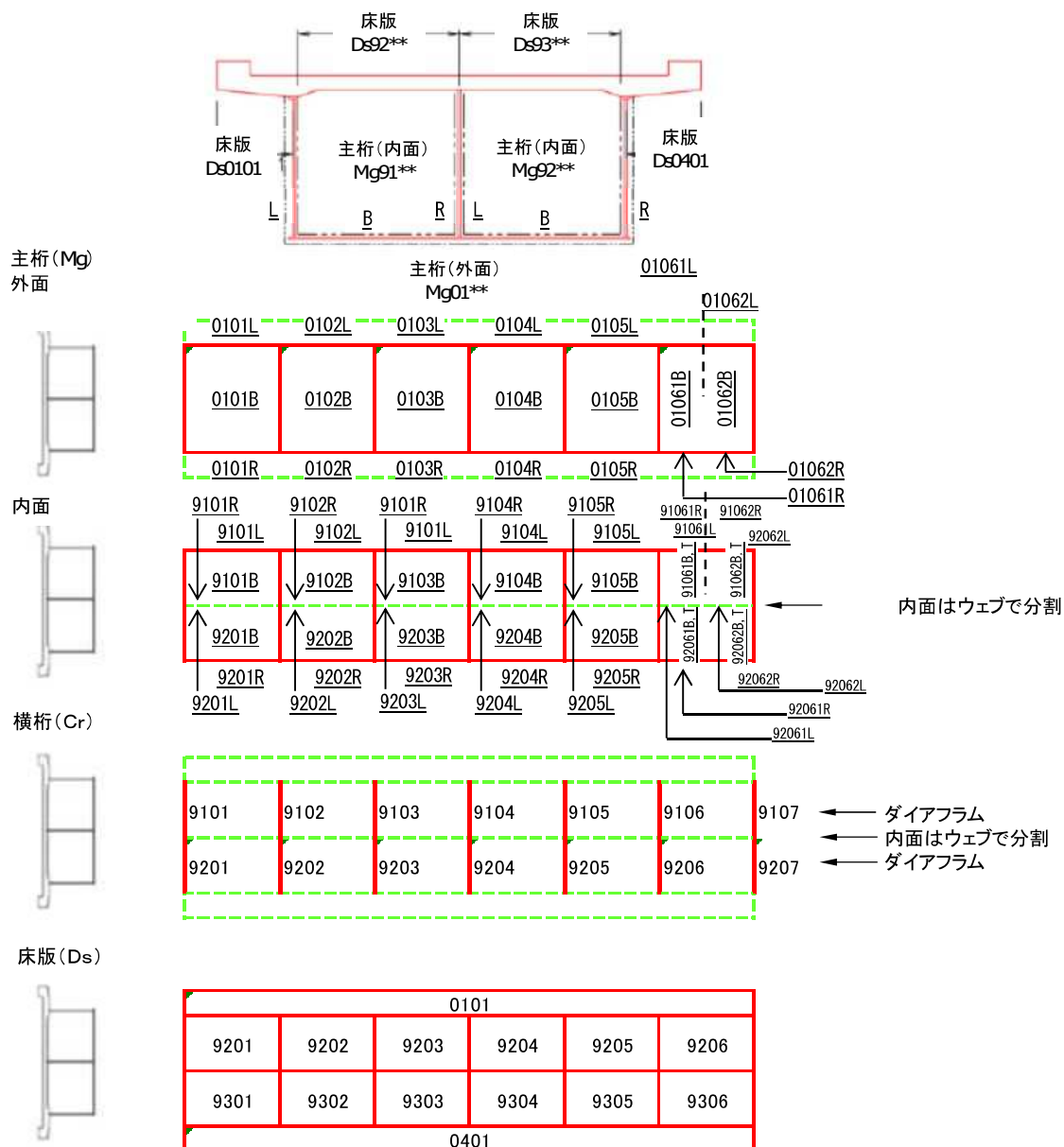


2) ブラケット付き



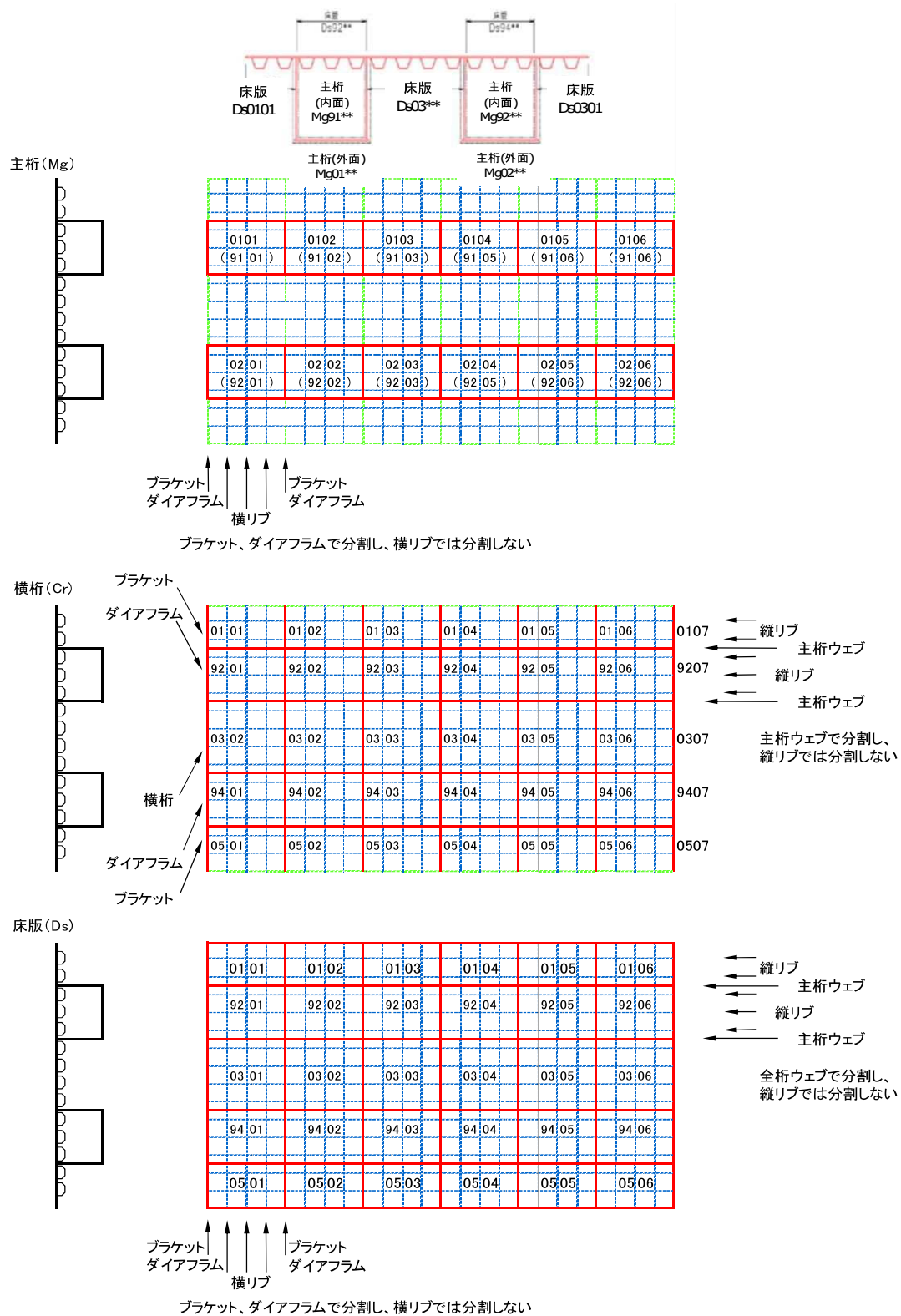
d) 開断面箱桁（鋼桁），P C・R C箱桁でウェブ3枚以上

- ・箱桁の床版部は「主桁の上フランジ」ではなく、「床版」とする。
- ・P C・R C箱桁は隔壁間を5 m程度の等間隔、または張出架設工法で架設された橋梁であれば1ブロックごとに要素番号を分割し、従来の要素番号の末尾に連番を追加する。また、左右ウェブと下フランジまたは上床版でも要素番号を分割し、添え字を追加する。



e) 鋼床板

- ・箱桁の床版部は「主桁の上フランジ」ではなく、「床版」とする。

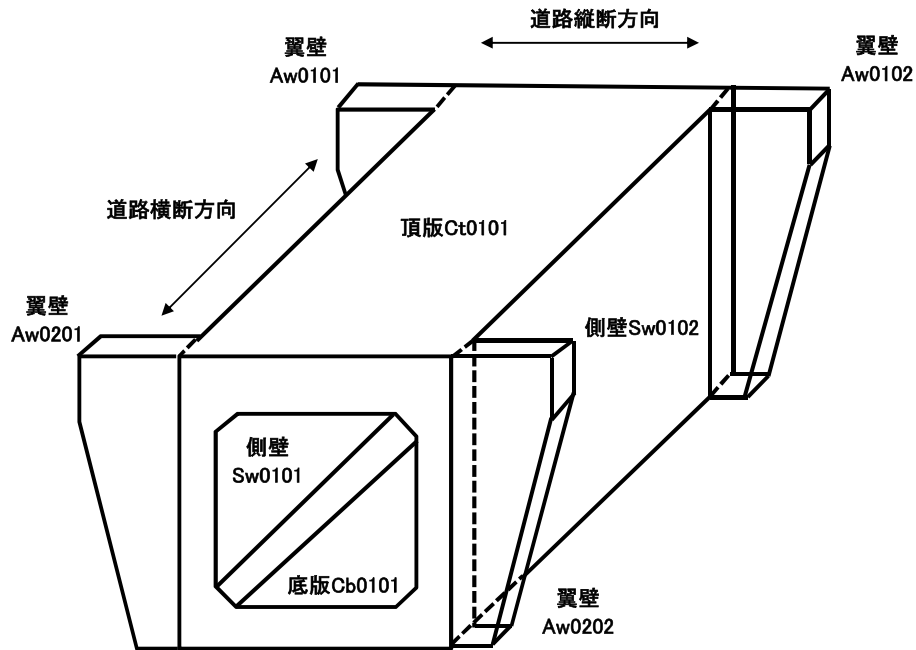


付図－ 1. 2 要素番号例 (その 2 2)

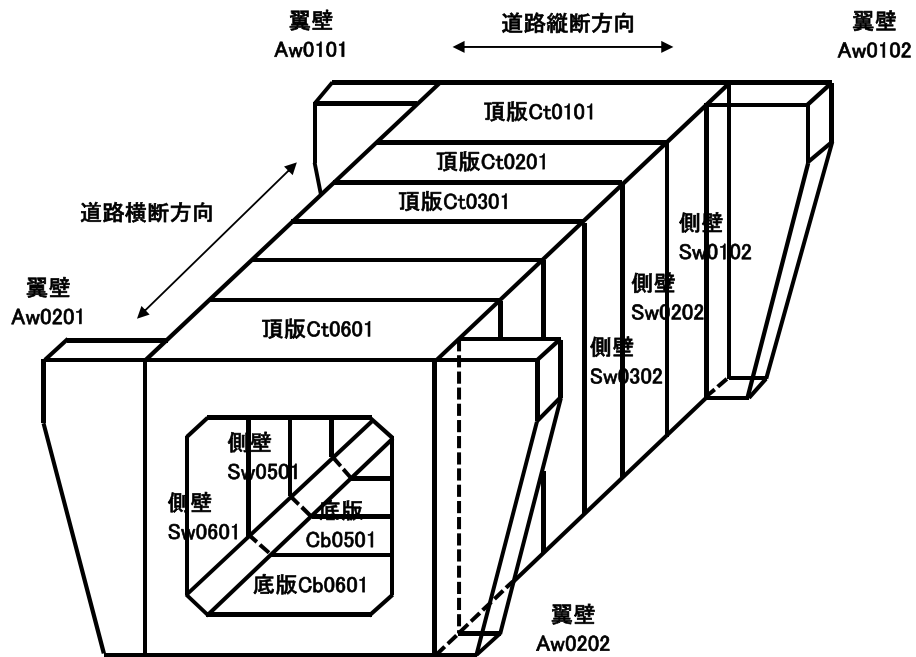
・溝橋

要素番号の付与において、溝橋では“橋軸方向 = 道路縦断方向” “橋軸直角方向 = 道路横断方向”と読み替えて整理する。

a) 分割がない場合

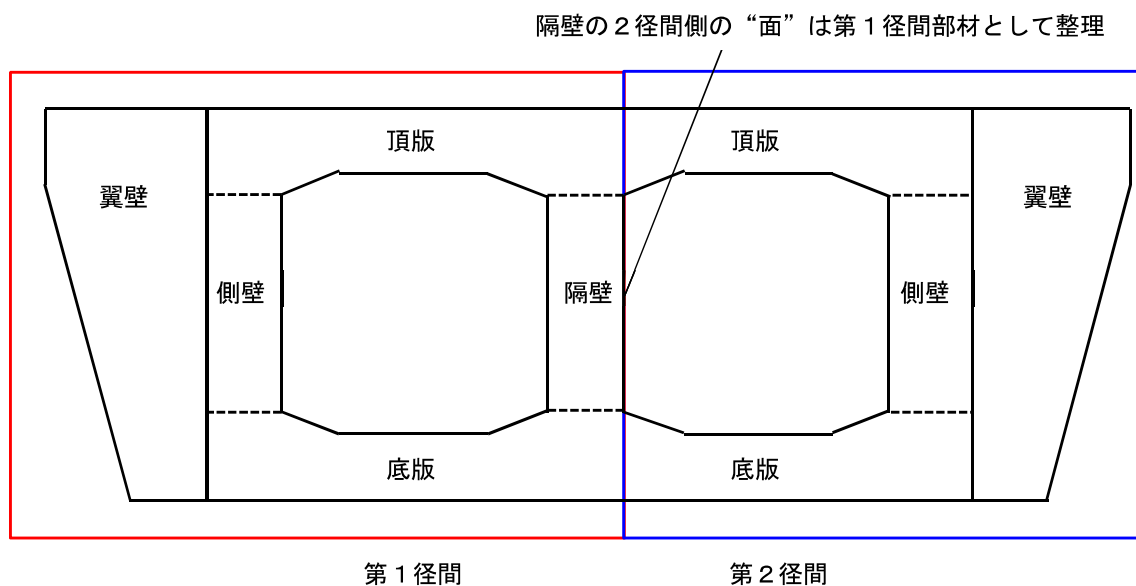


b) 分割がある場合



c) 隔壁がある場合

- ・ 隔壁にて径間分割する（橋脚と同様の扱い）。
- ・ 隔壁の終点側の面は老番側の径間に面するが、若番側の径間部材として整理する。
（要素番号図で整理する際は「起点側」「終点側」等でどちら側の面か表現）



付図－1．2 要素番号例（その23）

・照明・標識施設

橋梁定期点検要領における解説は、次のとおり。

橋梁に附属している標識，照明施設等附属物の定期点検は，附属物（標識，照明施設等）の定期点検に適用する点検要領により行う。ただしこれとは別に，標識，照明施設等の支柱や橋梁への取付部等については，橋梁の定期点検時にも状態把握を行うことを基本とする。

よって，少なくとも支柱及取付部は道路橋の定期点検の対象とする。

a) 部位・部材区分

- ・付録－１の「付表－１．２ 各部材の名称と記号」に，照明・標識施設に該当する構造形式が設定されていないこと，また，路上施設の部材種別に「その他」が設定されていないことから，上部構造に設置の施設は上部構造の「その他」，下部構造に設置の施設は下部構造部材の「その他」とする。

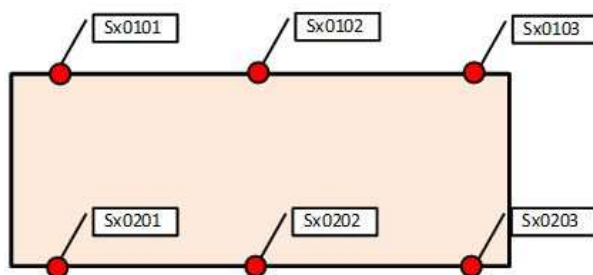
なお，取付部において取付られている部材（地覆，床版等）に及ぶ損傷がある場合は，取付られている部材の損傷としても扱う。

- ・袖擁壁に設置されている施設は，本来の附属物点検を行えば十分と考え，橋梁定期点検では対象外とする。なお，付表－１．２において，袖擁壁に「その他」の扱いはない。

b) 要素番号の設定

- ・要素番号は，起点側から終点側に，起点側から終点側を見て左側（上側）から右側（下側）に付番する。
- ・既に上部構造「その他」部材が設定されている場合は，設定されている部材の後の番号を設定する。

ア) 照明施設・単柱標識の例

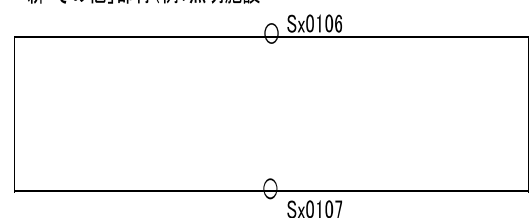


ウ) 新旧部材の例

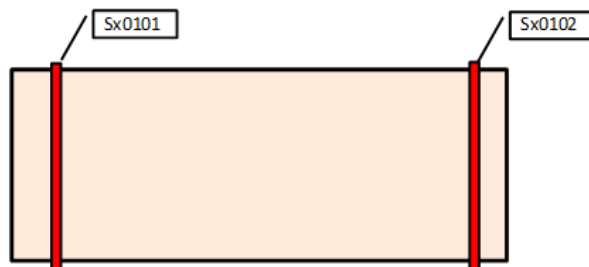
・旧「その他」部材(例:横支材)

Sx0101	Sx0102	Sx0103	Sx0104	Sx0105	
--------	--------	--------	--------	--------	--

・新「その他」部材(例:照明施設)

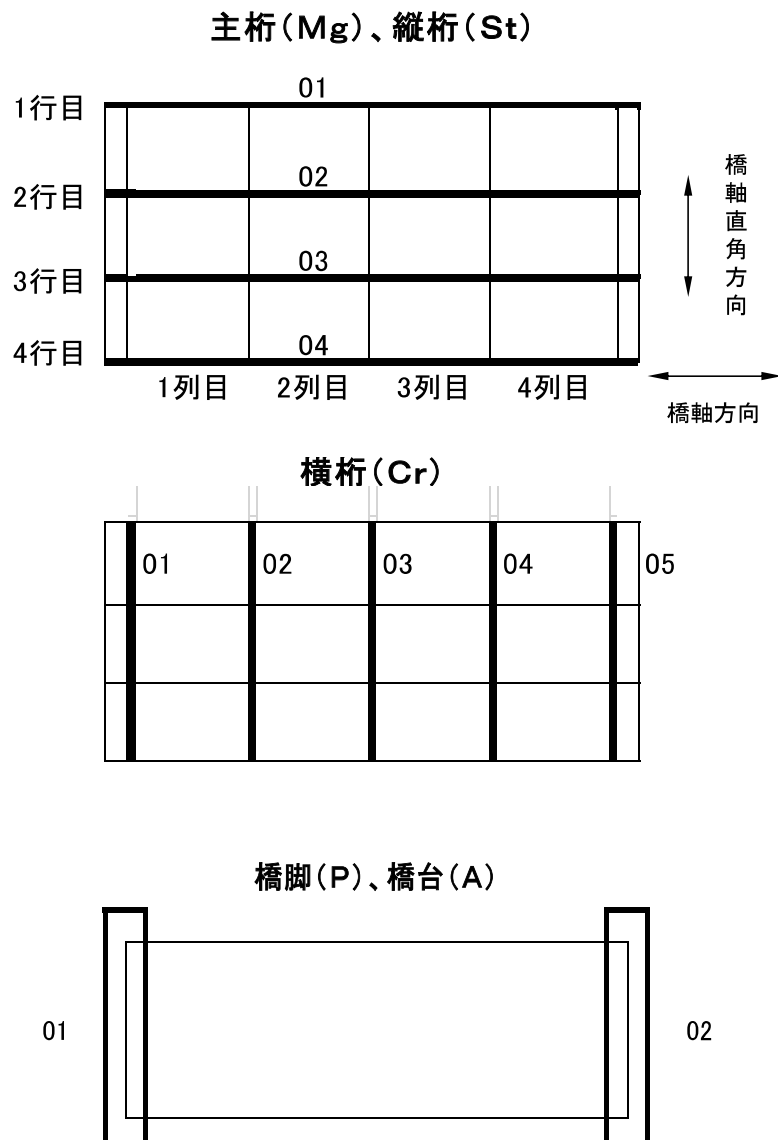


イ) 門型標識の例



付図－１．２ 要素番号例（その２４）

■付図－1． 3 部材番号例

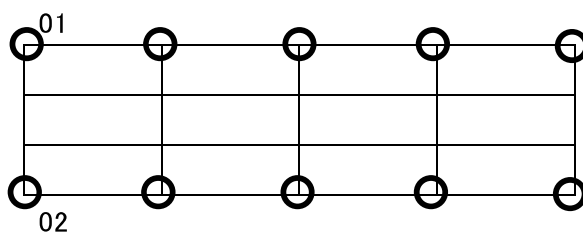


付図－1． 3 部材番号図（その1）

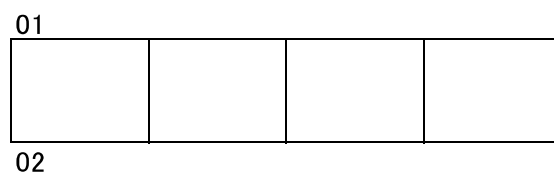
- ・ゲルバー部



- ・P C 定着部

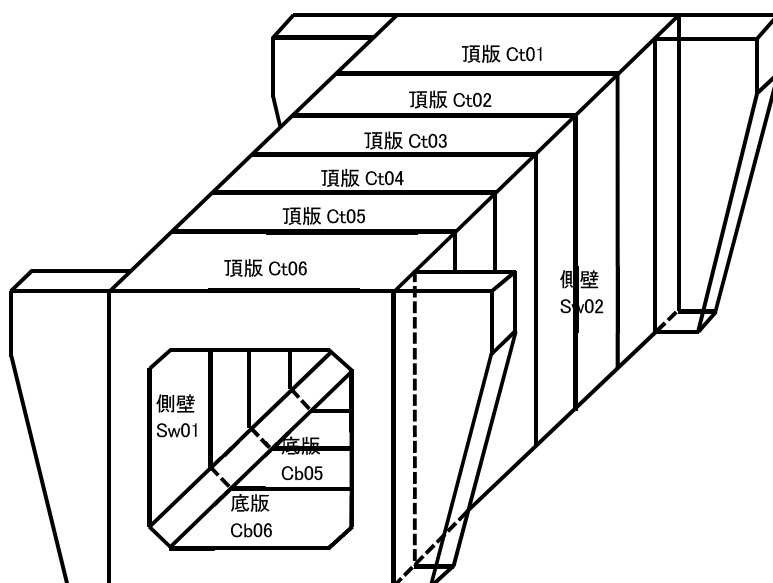
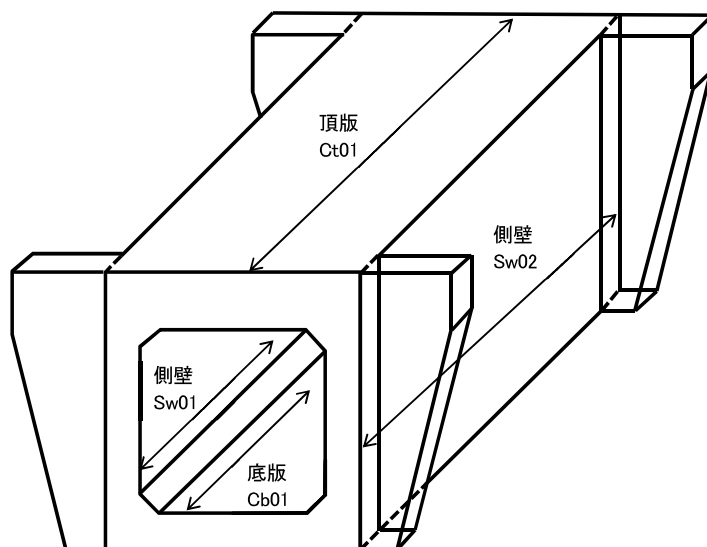


- ・アーチ，トラスの格点
 - ・トラスの斜材，垂直材のコンクリート埋込部
 - ・アーチの吊り材等のコンクリート埋込部



付図—1. 3 部材番号例（その2）

- ・溝橋（ボックスカルバート）



付図－１．３ 部材番号例（その３）

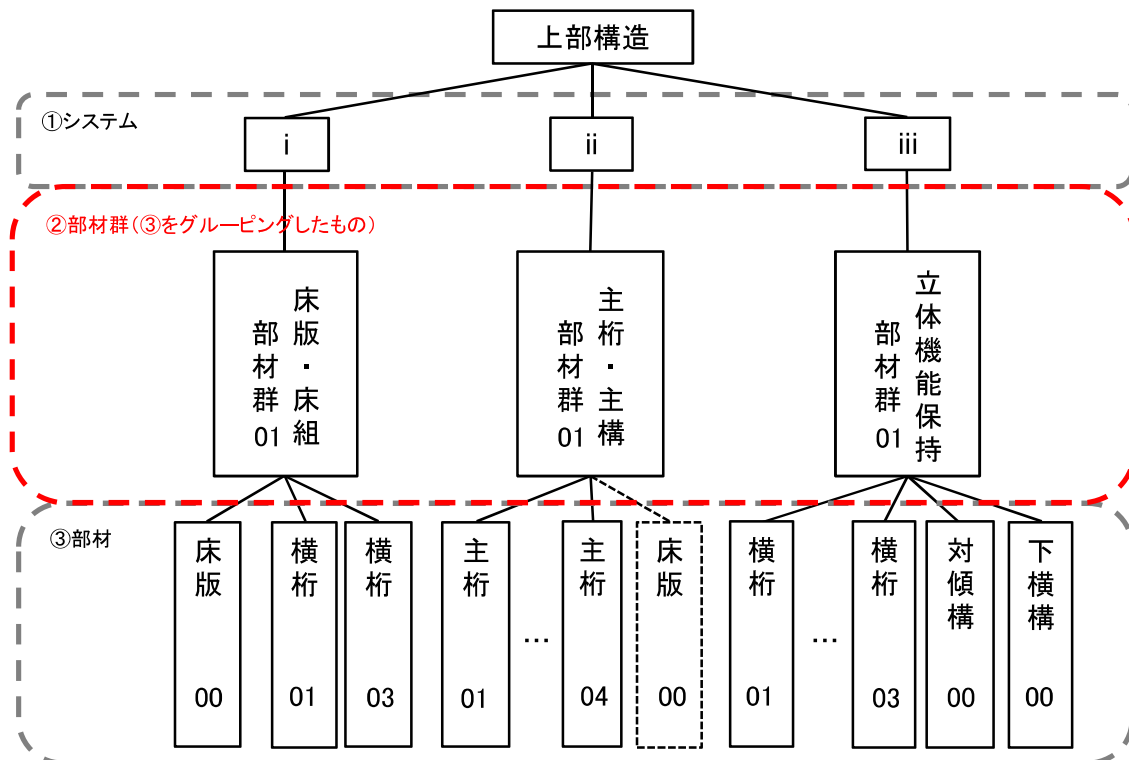
■付図－1. 4 部材群の例

○上部構造

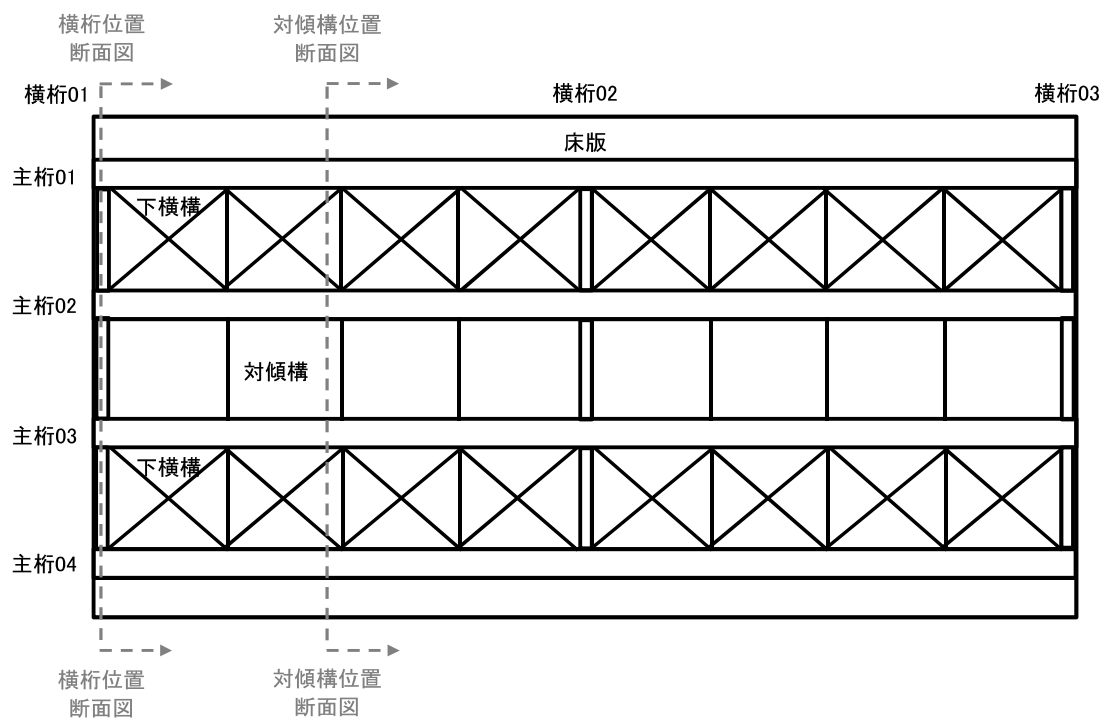
・I 桁橋の例

【端横桁構造の場合】

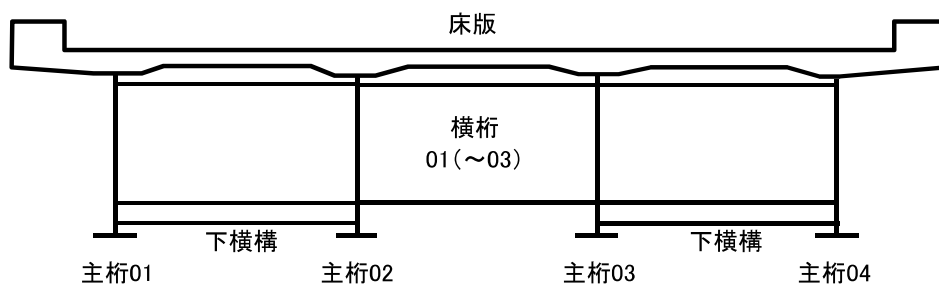
- ・横桁においては「床版・床組部材群」「立体機能保持部材群」にグルーピングされる部材が異なるが、部材番号まで記載することで判別が可能である。



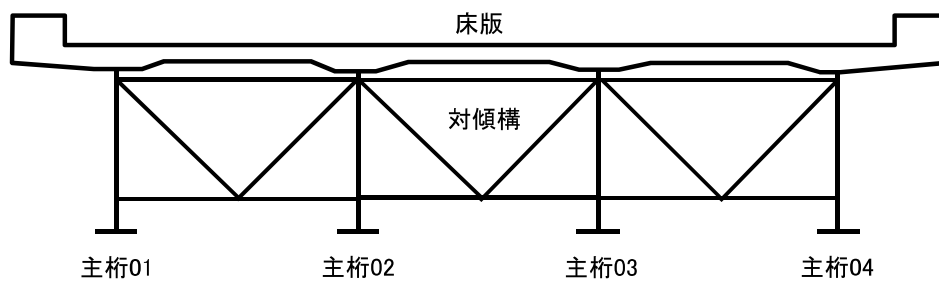
※非合成桁の場合、床版は主桁・主構部材群に属さないことに留意すること（上図点線箇所）



横桁位置断面図



対傾構位置断面図

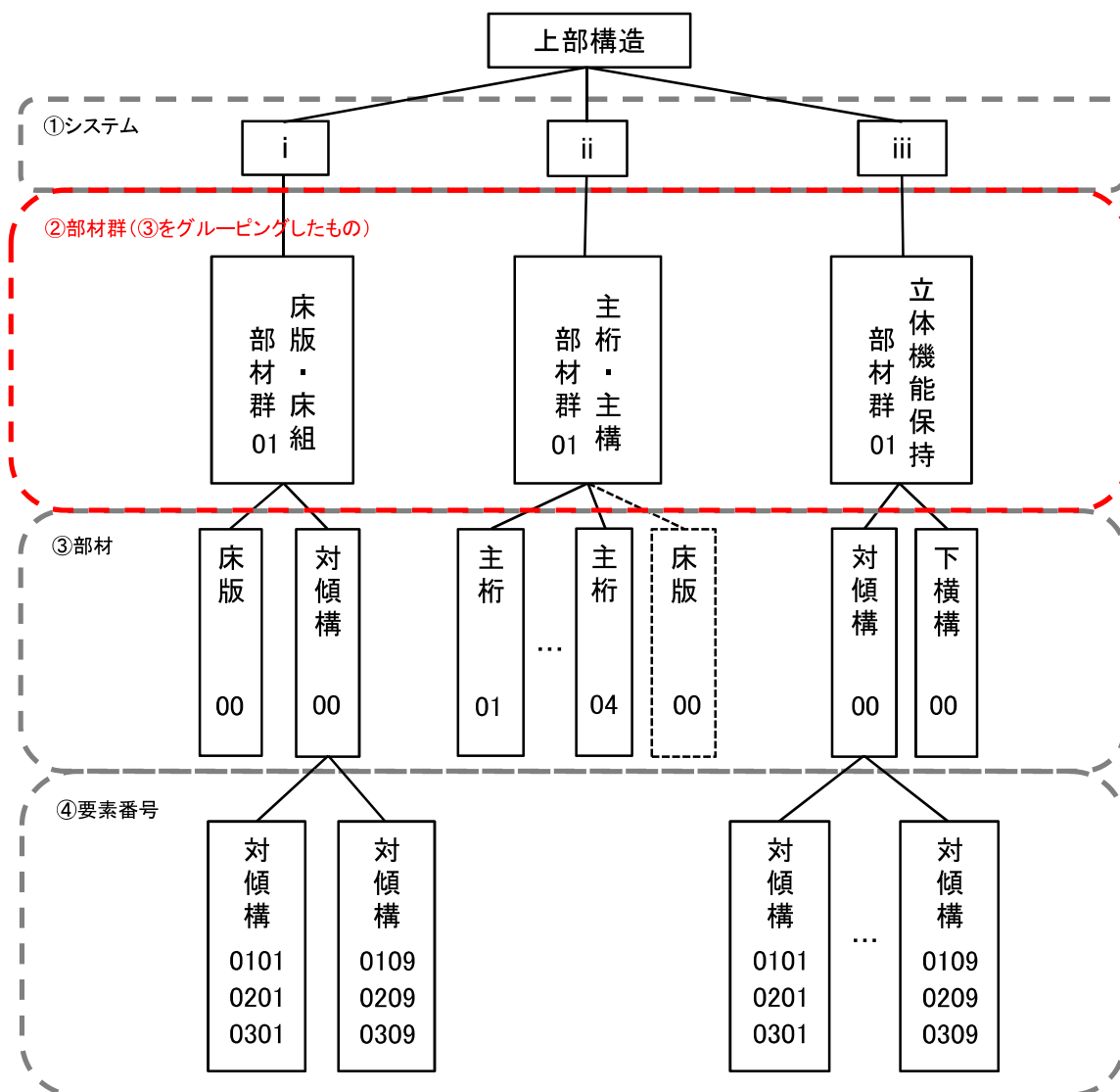


付図－1．4 部材群の例（その1）

【端対傾構構造の場合】

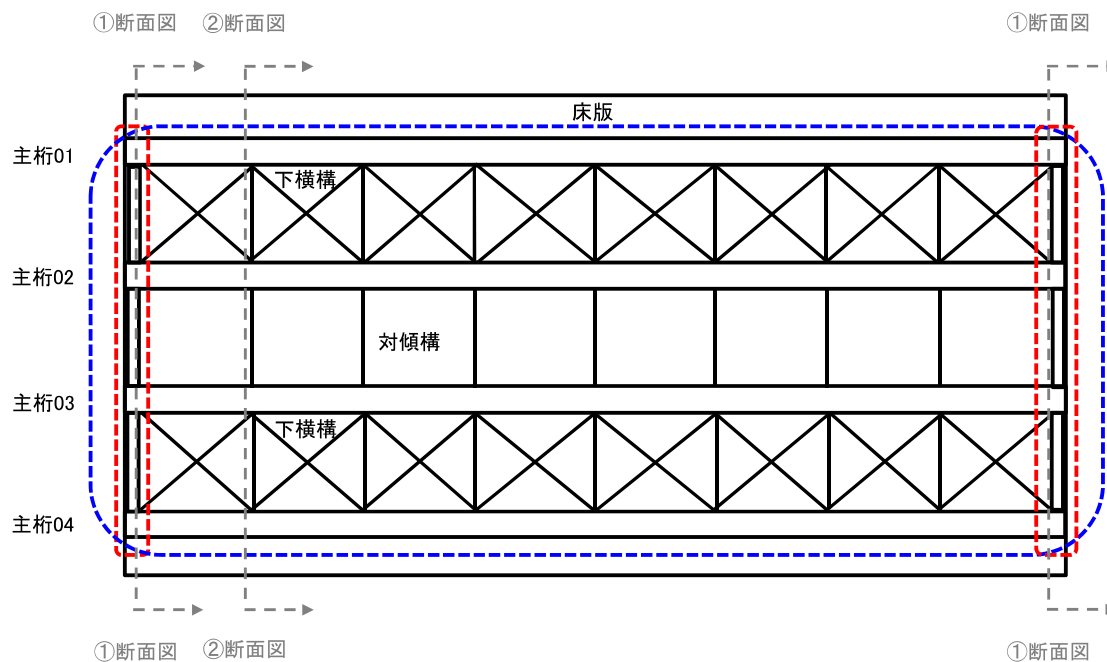
- ・対傾構においては「床版・床組部材群」「立体機能保持部材群」にグルーピングされる部材が異なるが、部材番号が「00」であるため、部材番号だけでは判別不可である。そこで「樹形図に要素番号の追加」や「図面への書き込み」をすることで判別する。

①樹形図に要素番号追加パターン



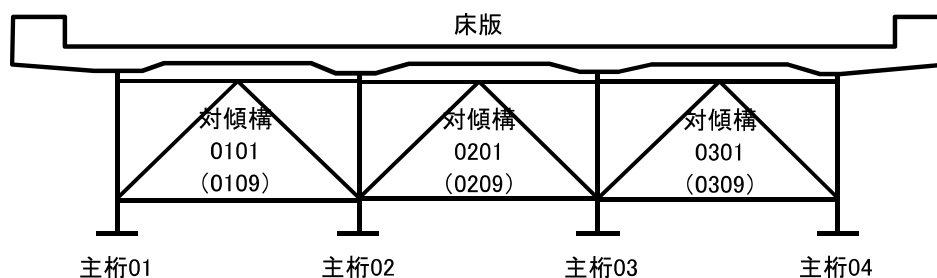
※非合成桁の場合、床版は主桁・主構部材群に属さないことに留意すること（上図点線箇所）

②図面への書き込みパターン（赤色・青色）

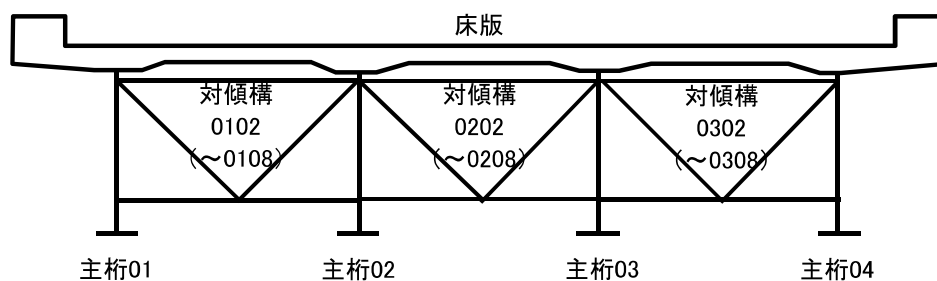


赤色：床版・床組部材群にグルーピングする対傾構
 青色：立体機能保持部材群にグルーピングする対傾構

①－①断面図

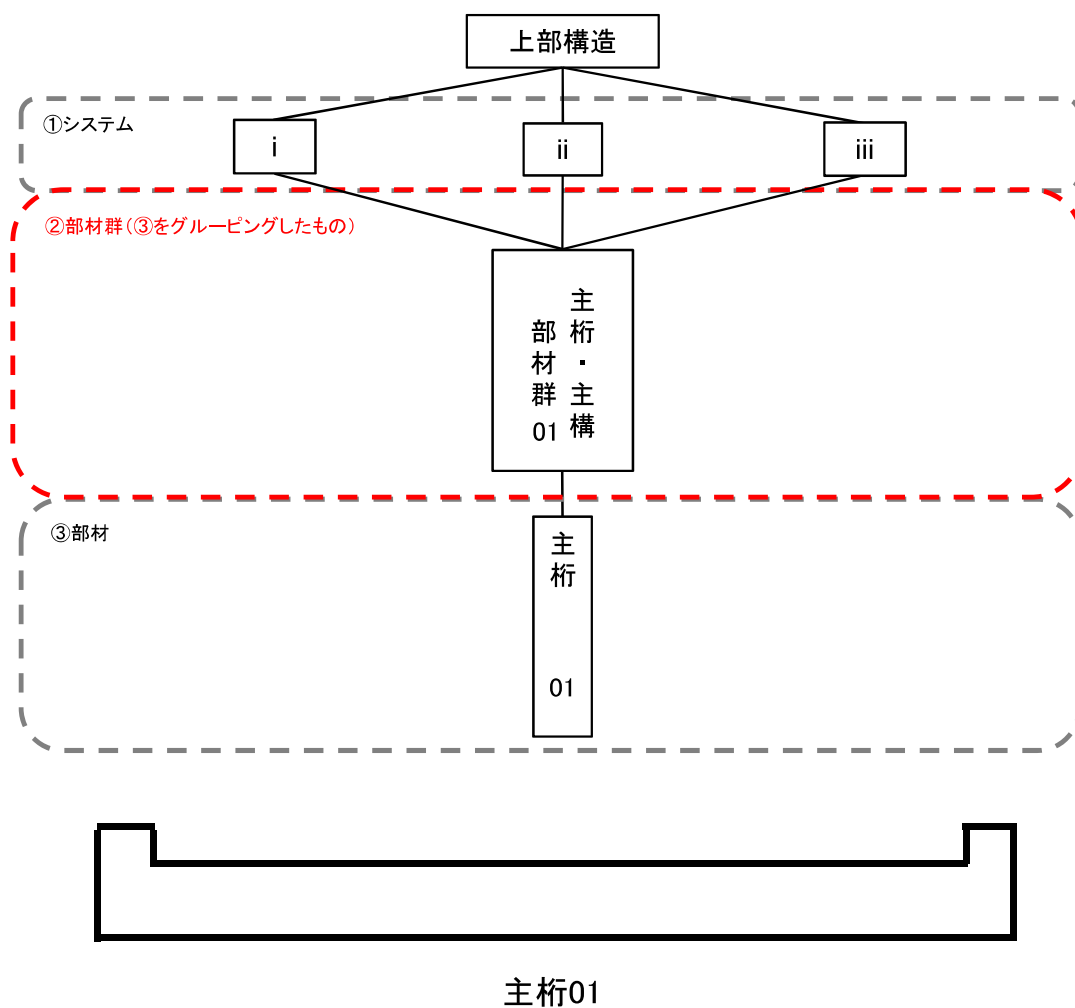


②－②断面図



付図－1. 4 部材群の例（その2）

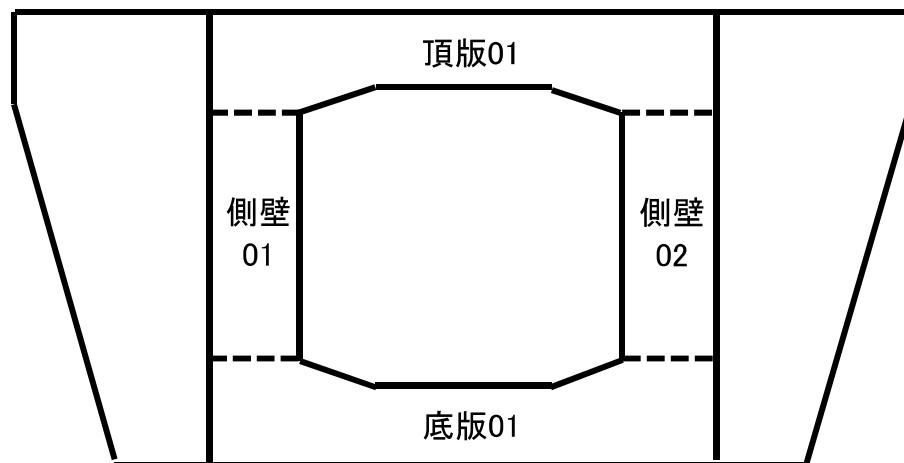
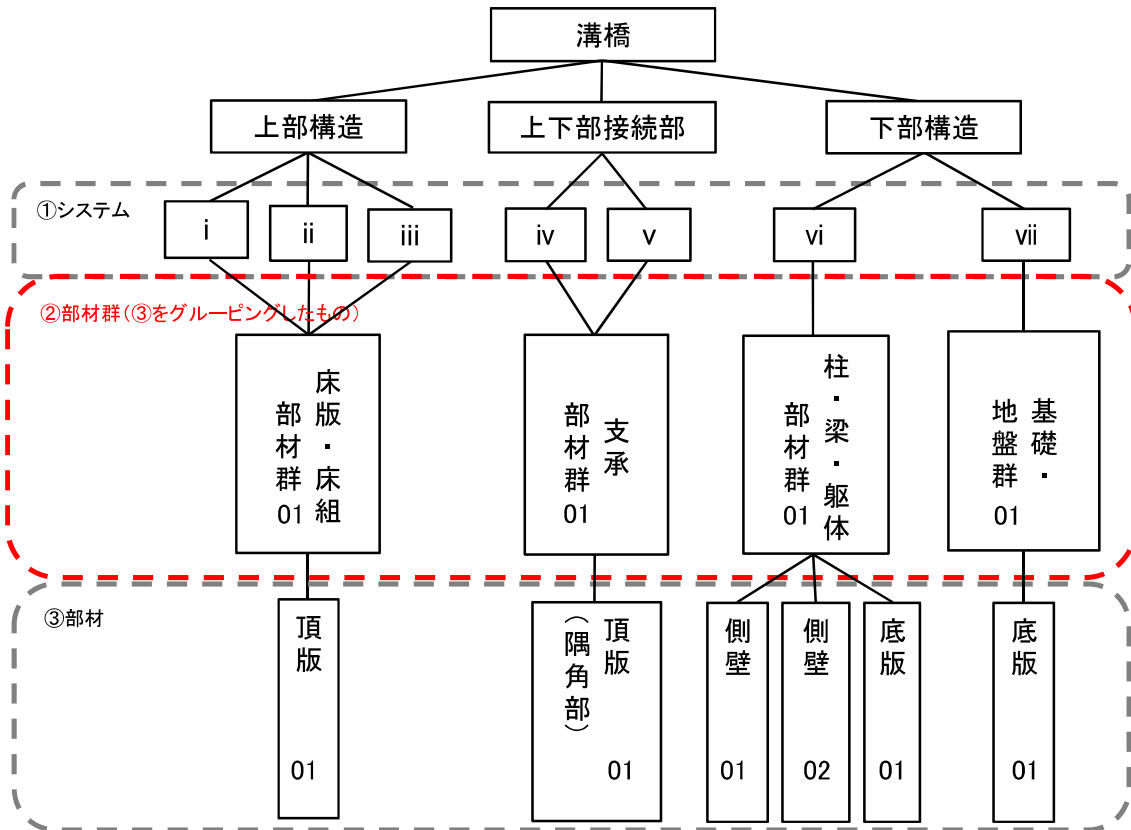
・床版橋の例



※床版橋の下面は主桁である

付図ー 1. 4 部材群の例 (その 3)

・溝橋の例



付図ー1. 4 部材群の例 (その4)